

茨城県教育財団埋蔵文化財調査報告第97集

一般県道長高野筑波線道路改良  
工事地内埋蔵文化財調査報告書

小泉館跡

平成7年3月

茨城県  
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団埋蔵文化財調査報告第97集

# 一般県道長高野筑波線道路改良 工事地内埋蔵文化財調査報告書

こ いずみ やかた あと  
小泉館跡

平成7年3月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

# 序

茨城県は、21世紀の到来を見越して、長期的な展望のもとに県土の基盤整備を行っております。県南地域におきましては、筑波研究学園都市を中心に地域の新たな展開と国際性豊かな自立都市圏の形成を目指し、広域的な連携を深める交通体系の整備に努めております。

一般県道長高野筑波線道路改良工事は、この整備事業にともない計画されたもので、その予定地内には、埋蔵文化財の包蔵地である小泉館跡遺跡が確認されております。

このたび、財団法人茨城県教育財団は、茨城県から埋蔵文化財発掘調査事業についての委託を受け、平成5年4月から6月にかけて一般県道長高野筑波線道路改良工事地内に所在する遺跡の埋蔵文化財発掘調査を実施してまいりました。

本書は、小泉館跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより、教育・文化向上の一助として活用されますことを希望いたします。

なお、発掘調査および整理にあたり、委託者である茨城県はもとより茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から、ご指導・ご協力を賜りましたことに対し、衷心より感謝の意を表します。

平成7年3月

財団法人 茨城県教育財団  
理事長 礒 田 勇

# 例 言

1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が、平成5年4月から同年6月まで実施した、茨城県つくば市に所在する小泉館跡の発掘調査報告書である。

なお、遺跡の所在地は次の通りである。

茨城県つくば市大字小泉字館ノ内45番地ほか

2 小泉館跡遺跡の調査及び整理に関する教育財団の組織は、次の通りである。

理 事 長	磯 田 勇	昭和63年6月～	
副 理 事 長	角 田 芳 夫 小 林 秀 文	平成3年7月～平成6年3月 平成6年4月～	
専 務 理 事	中 島 弘 光	平成5年4月～	
事 務 局 長	藤 枝 宣 一	平成4年4月～	
埋 蔵 文 化 財 部 長	安 藏 幸 重	平成5年4月～	
埋蔵文化財部部長代理	河 野 佑 司	平成6年4月～	
企 画 管 理 課	課 長	水 飼 敏 夫	平成4年4月～
	係 長	根 本 達 夫	平成6年4月～
	主 任 調 査 員	川 井 正 一	平成5年4月～平成6年3月
	主 任 調 査 員	海老澤 稔	平成6年4月～
	主 事	杉 山 秀 一	平成4年4月～平成6年3月
経 理 課	課 長	小 幡 弘 明	平成5年4月～
	課 長 代 理	鈴 木 三 郎	平成5年4月～
	係 長	大 高 春 夫	平成6年4月～
	主 任	飯 島 康 司	平成4年4月～平成6年3月
	主 事	軍 司 浩 作	平成5年4月～
調 査 課	課長(部長兼務)	安 藏 幸 重	平成5年4月～
	調 査 第 三 班 長	鈴 木 美 治	平成5年4月～平成6年3月
	主 任 調 査 員	海老澤 稔	平成5年4月～平成5年6月調査
	主 任 調 査 員	矢ノ倉 正 男	平成5年4月～平成5年6月調査
整 理 課	課 長	阿久津 久	平成5年4月～
	主 任 調 査 員	矢ノ倉 正 男	平成6年10月～平成7年3月整理・執筆・編集

3 本書に使用した記号等については、第3章第1節3「遺構・遺物の記載方法」の項を参照されたい。

4 本書の作成にあたり、陶磁器については出光美術館学芸員の荒川正明氏にご指導を頂いた。

5 発掘調査及び整理に際して、ご指導、ご協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

6 遺跡の概要

ひらがな	イッパンケンドウオサコウヤツクバセンドウロカイリョウコウジチナイマイゾウブンカザイチョウサホウコクシヨ						
書名	一般県道長高野筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書						
副書題	小泉館跡遺跡						
巻次							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告						
シリーズ番号	第97集						
編著者名	矢ノ倉正男						
編集機関	財団法人 茨城県教育財団						
所在地	〒310 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 ☎ 0292-25-6587						
発行年月日	1995(平成7)年3月31日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
こいずみやかたあといせき 小泉館跡遺跡	いばらきけん 茨城県つくば市 おおあぎこいずみ 大字小泉 あざたてのうち ばんち 字館ノ内45番地 ほか	08220   208	36度 10分 20秒	140度 5分 10秒	19930401 } 19930630	3,364㎡	一般県道長高野 筑波線道路改良 工事に伴う埋蔵 文化財発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
小泉館跡	館跡	室町	堀	3条	土師質土器	堀から木橋 に使用した と思われる 木杭等が出 土した。	
			溝	3条	小皿・播鉢・内耳鍋・香炉		
			掘立柱建物跡	4棟	陶磁器		
			柵列	2列	灰釉・天目・青磁・白磁		
			土坑	111基	染付け		
			地下式壙	2基	土製品		
			井戸	14基	瓦		
					木器		
					椀・下駄・杭・柱材・板材 加工木材		
					石製品		
					石臼・硯・砥石		
					金属製品		
					不明鉄製品		
					古銭		
					永楽通寶・朝鮮通寶 政和通寶・大観通寶		

# 目 次

序

例言

第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	4
第3章 遺跡	7
第1節 調査方法と遺構・遺物の記載方法	7
1 地区設定	7
2 基本層序の検討	7
3 遺構・遺物の記載方法	8
第2節 遺跡の概要	8
第3節 遺構と遺物	9
1 堀	9
2 溝	27
3 掘立柱建物跡	34
4 柵列	38
5 土坑	39
6 地下式竈	80
7 井戸	83
8 拓影図	96
9 遺構外出土遺物	98
第4節 まとめ	100

写真図版

## 插图目次

第1图 小泉館跡遺跡調査区割図 …………… 2	第36图 第41号土坑実測・出土遺物実測図 ……… 50
第2图 周辺遺跡分布図 …………… 6	第37图 第42号土坑実測・出土遺物実測図 ……… 51
第3图 調査区呼称方法概念図 …………… 7	第38图 第47号土坑実測・出土遺物実測図 ……… 52
第4图 基本土層図 …………… 7	第39图 第48号土坑実測図 …………… 52
第5图 第1・2・3号堀, 第3号溝実測図 …… 11	第40图 第51号土坑実測・出土遺物実測図 ……… 53
第6图 第1号堀出土遺物実測図(1) …………… 13	第41图 第52号土坑実測・出土遺物実測図 ……… 54
第7图 第1号堀出土遺物実測図(2) …………… 14	第42图 第53号土坑実測・出土遺物実測図 ……… 54
第8图 第1号堀出土遺物実測図(3) …………… 15	第43图 第54号土坑実測・出土遺物実測図 ……… 55
第9图 第1号堀出土遺物実測図(4) …………… 16	第44图 第56・63号土坑実測図 …………… 56
第10图 第1号堀出土遺物実測図(5) …………… 17	第45图 第57号土坑実測・出土遺物実測図 ……… 57
第11图 第1号堀出土遺物実測図(6) …………… 18	第46图 第59号土坑実測・出土遺物実測図 ……… 57
第12图 第1号堀出土遺物実測図(7) …………… 19	第47图 第60号土坑実測・出土遺物実測図 ……… 58
第13图 第1号堀出土遺物実測図(8) …………… 20	第48图 第61号土坑実測図 …………… 59
第14图 第2号堀出土遺物実測図 …………… 26	第49图 第64号土坑実測図 …………… 60
第15图 第1号溝実測・出土遺物実測図(1) …… 28	第50图 第68号土坑実測図 …………… 60
第16图 第1号溝出土遺物実測図(2) …………… 29	第51图 第75号土坑実測図 …………… 61
第17图 第2号溝実測・出土遺物実測図 …… 32	第52图 第76号土坑実測・出土遺物実測図 ……… 61
第18图 第1号掘立柱建物跡実測図 …………… 34	第53图 第86号土坑実測図 …………… 62
第19图 第2号掘立柱建物跡実測図 …………… 35	第54图 第92号土坑実測・出土遺物実測図 ……… 63
第20图 第3号掘立柱建物跡実測図 …………… 36	第55图 第94号土坑実測・出土遺物実測図 ……… 63
第21图 第3・4号掘立柱建物跡実測図 …… 37	第56图 第95号土坑実測図 …………… 64
第22图 第1・2号柵列実測図 …………… 38	第57图 第98号土坑実測・出土遺物実測図 ……… 64
第23图 第3号土坑実測・出土遺物実測図 …… 40	第58图 第100号土坑実測・出土遺物実測図 …… 65
第24图 第6号土坑実測・出土遺物実測図 …… 41	第59图 第103号土坑実測・出土遺物実測図 …… 66
第25图 第8号土坑実測・出土遺物実測図 …… 42	第60图 第108号土坑実測・出土遺物実測図 …… 66
第26图 第12号土坑実測・出土遺物実測図 …… 43	第61图 第110号土坑実測図 …………… 67
第27图 第13号土坑実測・出土遺物実測図 …… 44	第62图 第112号土坑実測・出土遺物実測図 …… 68
第28图 第18号土坑実測図 …………… 44	第63图 第122号土坑実測・出土遺物実測図 …… 68
第29图 第19号土坑実測図 …………… 45	第64图 第123号土坑実測図 …………… 69
第30图 第22号土坑実測・出土遺物実測図 …… 46	第65图 第124号土坑実測・出土遺物実測図 …… 69
第31图 第23号土坑実測図 …………… 46	第66图 第126号土坑実測・出土遺物実測図 …… 70
第32图 第26号土坑実測・出土遺物実測図 …… 47	第67图 第1・2・4・5・7・14・16・17・20号 土坑実測図 …………… 73
第33图 第34号土坑実測・出土遺物実測図 …… 48	第68图 第21・25・27・28・30・37~40・45号 土坑実測図 …………… 74
第34图 第35号土坑実測・出土遺物実測図 …… 48	
第35图 第36号土坑実測・出土遺物実測図 …… 49	

第69図	第43・44・49・50・55・58・66・67・69・70号 土坑実測図 ……………	75	第80図	第5号井戸実測・出土遺物実測図 ……………	89
第70図	第71～74・78～84号土坑実測図 ……………	76	第81図	第6号井戸実測・出土遺物実測図 ……………	90
第71図	第85・87～91・93・96号土坑実測図 ……	77	第82図	第7号井戸実測・出土遺物実測図 ……………	92
第72図	第97・99・104・105・107・109・111・113 114号土坑実測図 ……………	78	第83図	第8号井戸実測図 ……………	92
第73図	第115～121・127・128号土坑実測図 ……	79	第84図	第9号井戸実測図 ……………	93
第74図	第1号地下式壙実測図 ……………	81	第85図	第10号井戸実測図 ……………	93
第75図	第2号地下式壙実測・出土遺物実測図 …	82	第86図	第11号井戸実測図 ……………	94
第76図	第1号井戸実測・出土遺物実測図 ………	83	第87図	第12号井戸実測・出土遺物実測図 ………	94
第77図	第2号井戸実測・出土遺物実測図 ………	84	第88図	第13号井戸実測・出土遺物実測図 ………	95
第78図	第3号井戸実測・出土遺物実測図 ………	86	第89図	第14号井戸実測・出土遺物実測図 ………	96
第79図	第4号井戸実測・出土遺物実測図 ………	88	第90図	その他の出土遺物拓影図(1) ……………	97
			第91図	その他の出土遺物拓影図(2) ……………	98
			第92図	遺構外出土遺物実測図 ……………	99

## 表 目 次

表1	小泉館跡遺跡周辺遺跡一覧表 ……………	5	表2	その他の土坑一覧表 ……………	71
----	---------------------	---	----	-----------------	----

## 付 図

付図1 小泉館跡遺跡全体図

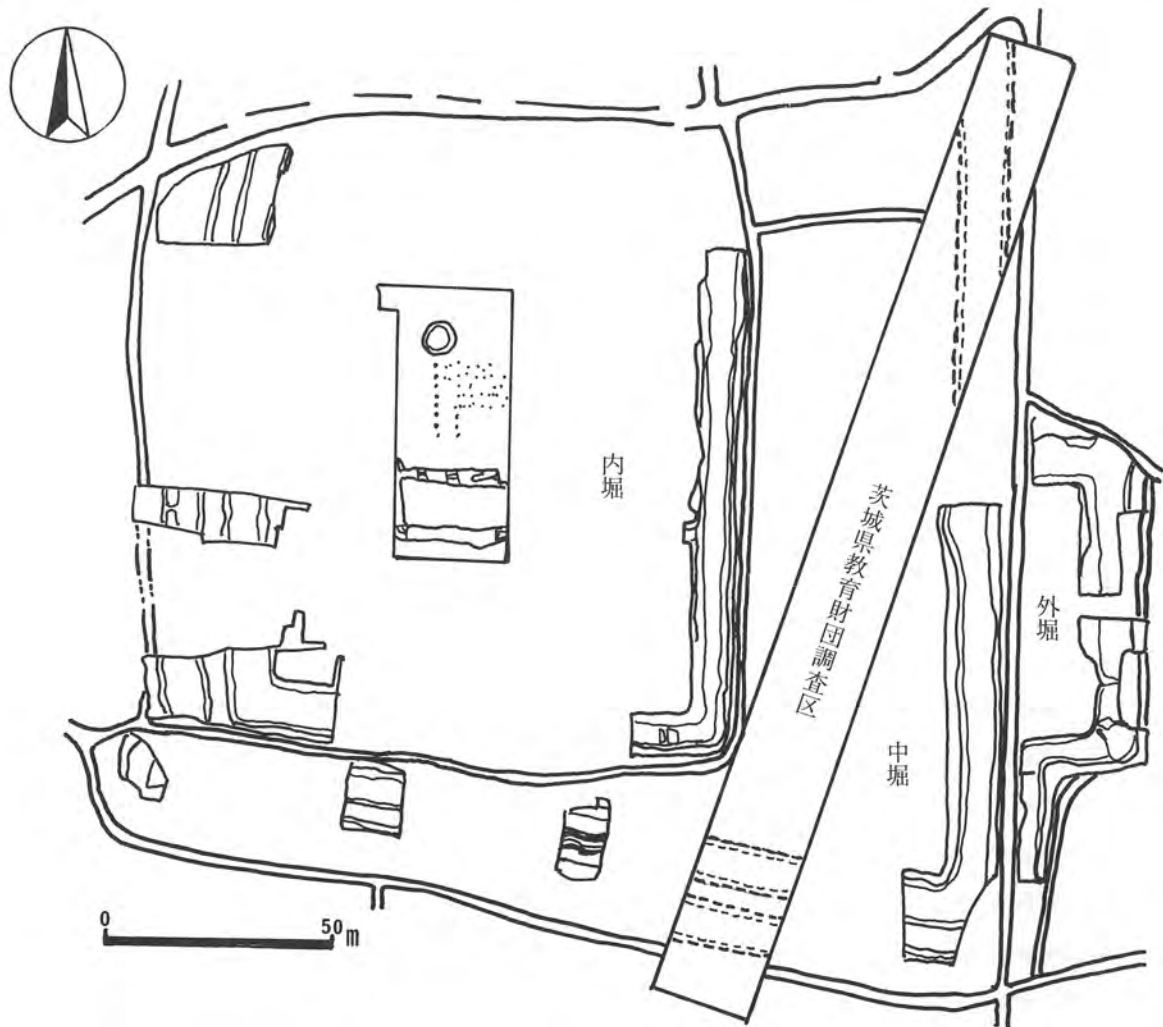
## 写真図版目次

P L 1	小泉館跡遺跡全景	P L 8	出土遺物(2)第1号堀
P L 2	完掘状況(1)堀	P L 9	出土遺物(3)第1号堀
P L 3	完掘状況(2)土坑	P L 10	出土遺物(4)第1号堀
P L 4	完掘状況(3)土坑	P L 11	出土遺物(5)第1・2号溝
P L 5	完掘状況(4)土坑・地下式壙	P L 12	出土遺物(6)土坑
P L 6	完掘状況(5)井戸	P L 13	出土遺物(7)土坑・地下式壙・井戸
P L 7	出土遺物(1)第1号堀	P L 14	出土遺物(8)井戸・表採





作業風景



つくば市教育委員会による発掘地域と茨城県教育財団による発掘区域

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

21世紀に向け県土の基盤整備を推進する茨城県の方針のもと、筑波研究学園都市を中心に総合的な開発が進められているつくば市でも、広域的な連携を図るための交通網の整備が進められている。一般県道長高野筑波線道路改良工事も、こういった趣旨に沿って計画されたものである。

平成4年6月10日、茨城県（土浦土木事務所）は、茨城県教育委員会に対し、道路建設用地内における埋蔵文化財の有無について照会した。これに対し、茨城県教育委員会は、現地踏査を実施し、工事予定地内に小泉館跡の存在を確認した。これに基づき、茨城県教育委員会は、平成5年1月17日、文化財保護の立場から茨城県と遺跡の取り扱いについて協議をし、現状保存が困難であることから、発掘調査による記録保存の措置を講じることとし、平成5年2月2日、茨城県に調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。当教育財団は、茨城県と詳細な調整を重ね、埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び、平成5年4月1日から同年6月30日にかけて、小泉館跡遺跡の発掘調査を実施することになった。

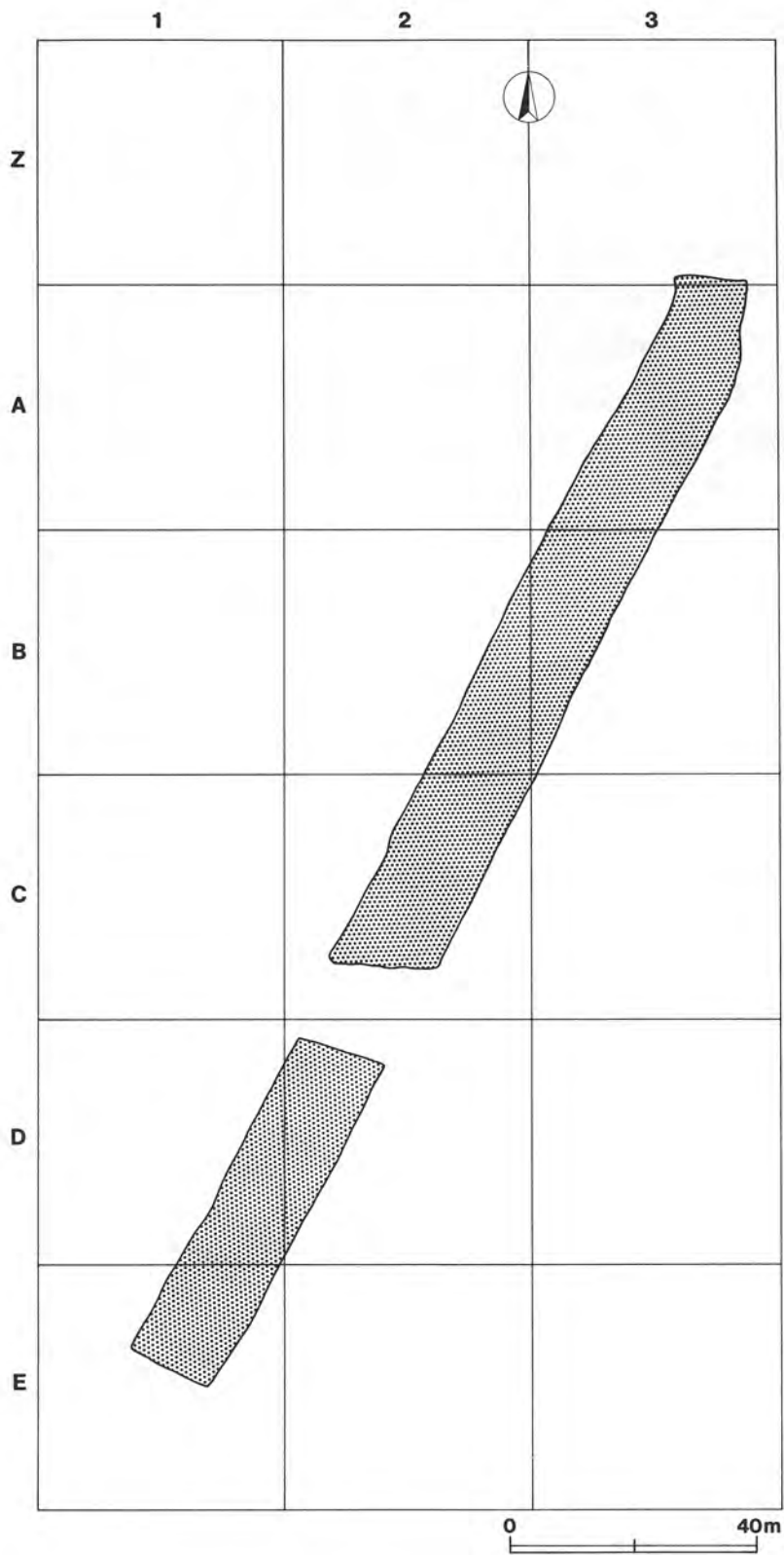
## 第2節 調査経過

茨城県教育財団は、小泉館跡遺跡の発掘調査を、平成5年4月1日から平成5年6月30日までの3か月にわたって実施した。

以下、調査経過の概要について記述する。

- 4月前半 発掘調査のための事務所や現場倉庫を建設し調査器材を搬入した。14日から室内作業員を、15日からは現場作業員を雇用した。
- 4月後半 16日午前、発掘調査の円滑な進行と作業の安全を願って、鍬入れ式を行った。午後から道路建設のためのセンター杭に沿って、2×4mのトレンチを設定し、北から試掘を開始した。試掘の結果、28日までに、堀、溝、土坑と思われる遺構を確認し、土師質土器片を多数採集した。27日からは、重機による表土除去を開始し、あわせて遺構確認作業を進めた。
- 5月前半 11日に重機による表土除去を終了した。遺構確認作業の結果、堀3条、溝3条、土坑多数を確認した。遺構確認状況の写真を撮影し、遺構確認状況図を作成した。13日からは、北端の第1号堀の調査に入り、多数の土師質土器、石臼片や木製下駄・木製椀などが出土した。土坑の調査も同時に開始した。第1号堀より木橋に用いたと思われる木杭が列をなして出土した。また、青磁片、白磁片なども同じ堀から出土した。調査の進行につれ、遺跡が低地にあるため水が湧くようになり、作業開始前には揚水ポンプで遺構にたまった水を汲み上げるのが、作業開始前の日課となった。写真撮影や実測作業も水を汲みながらの作業となった。
- 5月後半 遺構調査を継続し、多数の土師質土器が出土した。24日から基準点の測量杭打ちを業者委託（茨城県建設技術公社）により実施した。5月末までに調査区の3分の2ほど調査が終了した。
- 6月上旬 土坑調査を継続した。土師質の皿が多数出土したほか、木製の板材、曲げ物の底部、下駄など出土した。遺構完掘状況などの実測作業も順調に進んだ。

6月下旬 24日に航空写真撮影を行った。26日に現地説明会を開催し、一般参加者167名を集めた。28日から補足調査を行い、30日までに撤収を完了した。



第1図 小泉館遺跡調査区図

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

小泉館跡は、つくば市大字小泉字館ノ内45ほかに存在する。

当遺跡が所在するつくば市は、茨城県南西部に位置し、旧筑波郡大穂町・同豊里町・同谷田部町・同筑波町・旧新治郡桜村の5町村が合併して、昭和63年（1988）に誕生した市である。土浦市や牛久市をはじめ13市町村と隣接している。地形的には、北側の筑波山周辺を除けば、市域大半は筑波・稲敷台地と小貝川及び桜川流域の低地である。近年、筑波研究学園都市を中心に、県内でも最も開発の進んでいる地域のひとつである。

小泉館跡の所在する北条地区は、つくば市北部、旧筑波町の中心に位置する。この周辺の地形を概観すると、ほぼ3つに区分できる。北東側の筑波山（標高876m）とその支脈を含めた筑波山塊、南西側の筑波・稲敷台地、その間にはさまれた桜川低地である。

筑波山塊は八溝山系の南部を構成し、茨城県中央部において、東部の海岸平野と西部の小貝川・鬼怒川の流れる平野を分けている。その広がり、東西約15km、南北約23kmで、笠間・羽黒・岩瀬と連なる小盆地列の南に南北に長く横たわっている。筑波山塊は、恋瀬川により筑波東側山塊と筑波西側山塊に分けることができる。小泉館跡遺跡が位置する筑波山塊の西側は、標高400～430mの比較的高度変化の少ない尾根が連なる。山塊の西端にある筑波山は、標高876mで、古の昔より当地域の象徴となっている。筑波山塊の主峰筑波山は、男体・女体の2峰からなる双耳峰で、標高500m以上の部分は主として角閃ハンレイ岩からなっている。400～500m以下の部分は傾斜が緩く、筑波型花崗岩からなっている。また、筑波パープルライン周辺の山地では、筑波変成岩を主体としている。

一方、筑波・稲敷台地は桜川と小貝川にはさまれて、竜ヶ崎方面にまで伸びる細長い台地である。標高は20～30mで緩い起伏を持ち、北から南へ向かって徐々に低くなっている。

つくば山塊と筑波稲敷台地を分けて流れる桜川によって形成された桜川低地は、大和村高森付近では幅100mの谷底平野を形成し、下流になるに従って広がり、小泉館跡が所在する北条付近では約4kmの幅をもち、その標高は15m程度である。大部分は低湿な谷底平野からなり、その所々に、水田化された低地の中の微高地上に集落が点在している。

小泉館跡は、西方600mに桜川を臨み、北川に筑波西側山塊を背負う桜川低地の微高地に位置する。小泉館跡遺跡地点の地質断面図を見ると、火山灰層・粘土・シルト・砂・礫層とつづいている。

この様な周辺環境のもと、中世の平城である小泉館跡遺跡は標高15m、南に広がる水田との比高0.7mほどの微高地に、筑波山と小泉の集落を背に立地している。

#### 参考文献

- (1) 茨城県 「土地分類基本調査 真壁」 1983年1月
- (2) 茨城県 「土地分類基本調査 土浦」 1983年12月
- (3) 大山年次 蜂須紀夫 「茨城県地学のガイド」 1986年11月
- (4) 大森昌衛 蜂須紀夫 「茨城の地質をめぐって」 1987年8月

## 第2節 歴史的環境

小泉館跡の周辺には、縄文時代からの多数の遺跡が存在している。

縄文時代の遺跡は、白井遺跡〈1〉・立野遺跡〈2〉・上ノ台遺跡〈3〉など、筑波山麓から城山の北側部の地域や、洞下遺跡〈4〉など桜川をはさんだ対岸の地域に、加曾利E式期を中心とした中期の遺跡が多く確認されている。また、後期の遺跡としては、沼田遺跡〈5〉・小田田向遺跡〈6〉がある。いずれも発掘調査が実施されていないので詳細は不明である。なお、平成3年から4年にかけて調査された中台遺跡〈27〉は、主に中期から後期にかけての多くの土坑群が確認され、多量の遺物が出土して注目されている。

弥生時代の遺跡は、中菅間遺跡〈7〉・福王地A遺跡〈8〉など桜川右岸の微高地や筑波・稲敷台地縁辺部に多く確認されている。調査例としては、山木古墳〈9〉と神郡条里遺跡〈10〉がある。山木古墳の調査では、墳丘の下に後期の住居跡が1軒確認され、弥生式土器片や土製の紡錘車などが出土した。神郡条里遺跡の調査では、壺形土器や甕形土器、土製紡錘車などが出土している。

古墳時代の遺跡では、集落跡の調査例として、観音下遺跡〈11〉・小田橋遺跡〈12〉がある。観音下遺跡は筑波・稲敷台地上にあり、前期の住居跡が2軒確認され、五領式土器のもっとも新しい段階に位置づけられる土器が出土している。桜川左岸の微高地上にある小田橋遺跡では、7世紀前半を除く6～7世紀の住居跡が9軒確認されている。また、中菅間遺跡から手捏土器を含む多数の土師器が出土しており、古墳時代末期の祭祀遺跡として注目されている。

古墳の分布を見ると、桜川右岸の筑波・稲敷台地縁辺にある桜塚古墳〈13〉（全長30mほどの前方後方墳、長大な割竹形木棺を内蔵する粘土郭の主体部、変形四獣鏡、玉類、短剣などが出土、当地域では最も古い4世紀末の築造）、山木古墳（全長48mの柄鏡式の前方後円墳、5世紀初頭）、土塔山古墳〈14〉（前長61mの前方後円墳、5世紀後半）、八幡塚古墳〈15〉（全長91mの前方後円墳、6世紀前半）、甲山古墳〈16〉（規模不明、前方後円墳、6世紀前半）と、時代を追っていくつもの古墳が存在している。山木古墳は桜塚古墳の南東に近接し、土塔山古墳・八幡塚古墳・甲山古墳は、桜川対岸の筑波山とその支脈の麓に続く台地上にそれぞれ離れて位置している。中台遺跡でも古墳時代後期の古墳群が確認され、楯持の埴輪などが出土している。

7世紀に入ると、小泉館跡遺跡の東方約2.5kmほどの山麓に、小型の横穴式石室をもつ、山口古墳群〈17〉・平沢古墳群〈18〉が形成された。

奈良・平安時代の遺跡では、平沢官衙〈19〉や中台廃寺〈20〉が知られている。平沢官衙跡は、発掘調査によって多数の掘立柱建物跡や柵列跡、建物群をとりまく大溝跡などが確認されている。中台廃寺では、8世紀前半から9世紀初めのころの瓦片が採集されている。12世紀後半の遺跡としては、小泉館跡遺跡の北東0.6km、城山の南西麓に日向廃寺跡遺跡〈21〉がある。調査により同寺の主要建物は阿弥陀堂型式のものと判断された。

中世の遺跡としては、鎌倉時代の寺院跡の三村山清冷院極楽寺〈22〉があり、13世紀半ば、大和の高僧忍性が来住し布教に努めた場所と伝えられている。また、城郭遺跡として、当地を支配した小田氏の居城であった小田城跡〈23〉をはじめ、水守城跡〈24〉・北条城跡〈25〉・多気城跡〈26〉・小泉館跡などがある。

小泉館の所在する北条城山周辺を含む旧筑波町一帯は、平安時代後期には平氏の流れをくむ多気氏の支配が確立していたが、鎌倉時代の初期には小田氏がそれにとって代わり、戦国時代末期までこの地で勢力を持ち続けた。

小泉館については、「明応5年（1496）に小田氏13代治孝と顕兼の争いがあり、その争いにより兄弟とも死に、二人は小泉の表八幡と裏八幡に祀られた」という伝承があり、小田氏一族の出城と考えられている。館跡

は城山の南西山裾の水田地帯の中にあり、一帯には、「館の内」・「ミジョウ」・「出口」・「内堀」・「金堀」・「中堀」・「外堀」といった地名が残っている。

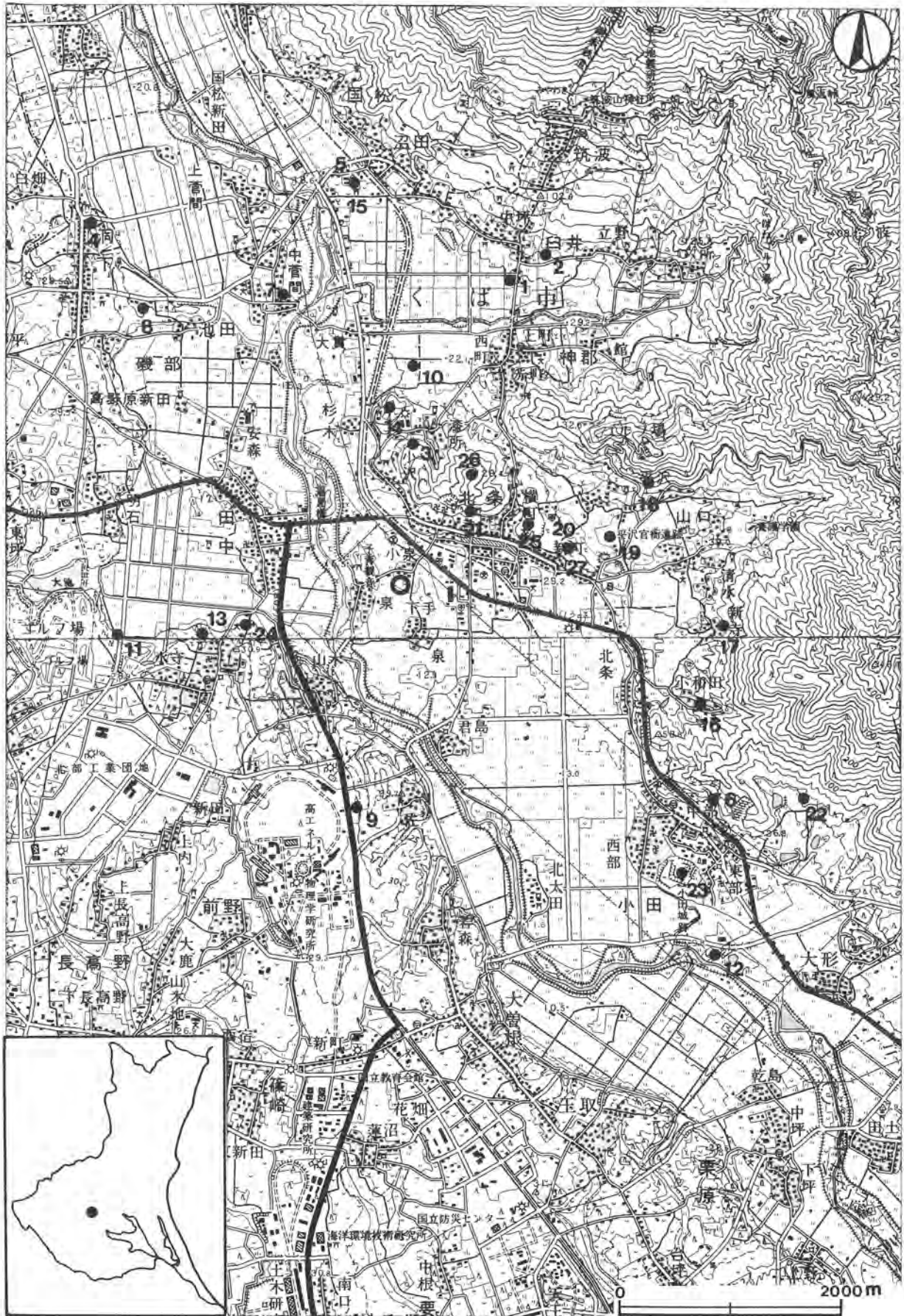
小泉館跡遺跡は、県営圃場整備事業に伴い、昭和63年（1988）部分的に、茨城県つくば市教育委員会により発掘調査が行われた。調査の結果、堀が確認され、15世紀から16世紀にかかる頃の遺物が多数出土している。

#### 参考文献

- (1) 筑波町史編纂専門委員会 「筑波町史 上巻」 1989年9月
- (2) 茨城県つくば市教育委員会 「小泉館 一発掘調査概報一」 1989年3月
- (3) 茨城県つくば市教育委員会 「神郡条里遺跡発掘調査報告」 1988年3月
- (4) 木村繁 「筑波山」 1994年3月

表1 小泉館跡遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺 跡 名	県 遺跡番号	時 代						番号	遺 跡 名	県 遺跡番号	時 代					
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世				旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世
1	白井遺跡	2950		○					15	八幡塚古墳	2153				○		
2	立野遺跡	2954		○					16	甲山古墳	3000				○		
3	上ノ台遺跡	2949		○	○	○	○		17	山口古墳群	2982				○		
4	洞下遺跡	2963		○		○			18	平沢古墳群	2150				○		
5	沼田遺跡	2955		○					19	平沢官衙遺跡	4089				○	○	
6	小田田向遺跡	2999		○				○	20	中台廃寺跡	2148					○	
7	中菅間遺跡	2957			○	○			21	日向廃寺跡	5860					○	
8	福王地A遺跡	2960		○	○	○			22	三村山清冷院極楽寺跡	2991						○
9	山木古墳	2983			○	○			23	小田城跡	2151						○
10	神郡条理遺跡	2994			○		○		24	水守城跡	2998						○
11	観音下遺跡					○			25	北条城跡	2995						○
12	小田橋遺跡	5862				○	○		26	多気城跡	2996						○
13	桜塚古墳	5859				○			27	中台遺跡		○	○	○	○	○	○
14	土塔山古墳					○		◎	小泉館跡遺跡	5863							○



第2図 周辺遺跡分布図

# 第3章 遺 跡

## 第1節 調査方法と遺構・遺物の記載方法

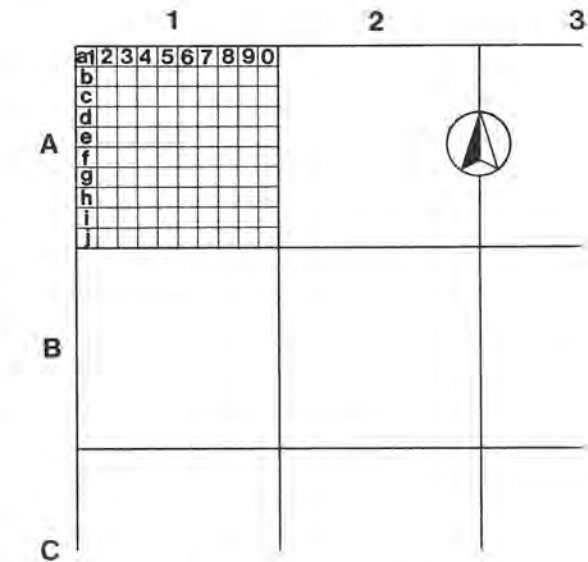
### 1 地区設定

小泉館跡遺跡の発掘調査を実施するに当たり、遺跡及び遺構の位置を明確にするため調査区を設定した。調査区の設定は、日本平面直角座標第IX系、X軸（南北）・Y軸（東西）を基準点として、40m方眼を設定し、この40m四方の区画を大調査区（大グリッド）とした。さらに、この大調査区を東西、南北に各々十等分して、4m四方の小調査区（小グリッド）を設定した。

調査区の名前は、アルファベットと算用数字を用いて表記した。まず、大調査区の名前は、北から南へA・B……、西から東へ1・2……とし、その組み合わせで「A1区」・「B2区」……のように称した。さらに、大調査区を4m方眼に100分割した小調査区を、各々同様に、北から南へa・b……j、西から東へ1・2……9・0と小文字を付した。各小調査区の名前は、大調査区の名前と合わせて、「A1a1」区、「B2b2」区のように呼称した。

調査区の名前は、アルファベットと算用数字を用いて表記した。まず、大調査区の名前は、北から南へA・B……、西から東へ1・2……とし、その組み合わせで「A1区」・「B2区」……のように称した。さらに、大調査区を4m方眼に100分割した小調査区を、各々同様に、北から南へa・b……j、西から東へ1・2……9・0と小文字を付した。各小調査区の名前は、大調査区の名前と合わせて、「A1a1」区、「B2b2」区のように呼称した。

（第3図）



第3図 調査区呼称方法概念図

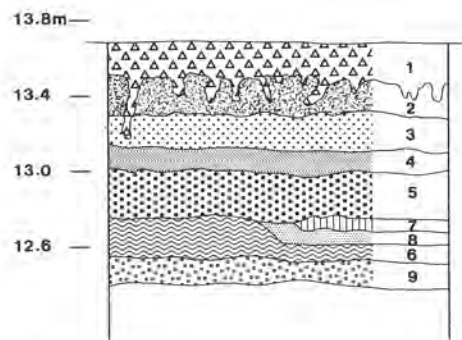
遺跡における基準点の座標は、「A1a1」X = +19,120m Y = +22,800m

### 2 基本層序の検討

小泉館跡遺跡においては、調査区中央部C2f7区にテストピットを設定し、第4図に示すような土層の堆積状況を確認した。

第1層は、ローム・粘土混じりの黒褐色の層で、厚さはおよそ30cmである。第2層は浅黄橙のローム層で、厚さはおよそ20cmである。第3層は橙色のローム層で、厚さはおよそ30cmである。第4層は灰褐色のローム層で、厚さはおよそ15cmである。第5層はにぶい褐色のローム層で、厚さはおよそ40cmである。第6層はにぶい褐色の砂層で、厚さはおよそ35cmである。第7層は明褐色の砂層で、厚さはおよそ10cmである。第8層は粘土が多量に混じったにぶい褐色の砂層で、厚さはおよそ10cmである。第9層は灰褐色の粘土の層で、厚さはおよそ20cmである。

小泉館跡遺跡の遺構は第1層上面で確認されている。



第4図 基本土層図



### 3 遺構・遺物の記載方法

本書における遺構及び遺物の記載方法は、以下のとおりである。

#### (1) 使用記号

遺構 土坑-SK 堀・溝-SD SA-柵列 掘立柱建物跡-SB  
井戸-SE 柱穴・貯蔵穴-P

遺物 土器-P 土製品-DP 石器・石製品-Q 古銭・金属製品-M 拓本土器-TP

#### (2) 遺構及び遺物の実測図中の表示

● 土器 ○ 土製品 ▲ 石器・石製品 ■ 木製品 □ 金属製品  黒色処理

#### (3) 土層の分類

土層観察における色相の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄 日本色研事業株式会社）を使用した。

#### (4) 遺構・遺物実測図作成方法と掲載方法

- ① 小泉館跡遺跡の遺跡全体図は縮尺400分の1、遺構図は縮尺60分の1にした。
- ② 遺物は原則として3分の1に縮尺した。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては、 $=1/2$ 等と表示した。

#### (5) 出土遺物観察表の計測値

計測値は、A…口径 B…器高 C…底径 D…高台径 E…高台高とし、( )は現存値、[ ]は復元推定値を表す。

## 第2節 遺跡の概要

小泉館遺跡は、つくば市役所の北15km、標高15mほどの桜川の低地に位置する。現況は水田や畑で、今回の調査区域の面積は3,364㎡である。今回の調査によって確認された遺構は、堀3条、溝3条、掘立柱建物跡4棟、柵列2列、土坑111基、地下式竈2基、井戸14基である。遺物は比較的量が多く、土師質土器、陶磁器、石製品、古銭などが出土している。

## 第3節 遺構と遺物

### 1 堀

本遺跡では3条の堀が確認されている。

#### 第1号堀（第5図）

位置 調査区の北部で確認。

規模と形状 上幅9.1～11.2m，下幅7.8～10.4m，深さ0.63～0.81mで，断面形は「┌」状を呈している。壁は40～60°の傾斜で立ち上がっている。調査では内側で42.5m程確認されている。堀の内側の堀岸を見ると，A3b<sub>6</sub>区からA3c<sub>6</sub>区にかけてやや曲がっている。また，深さはそれほどではないが，礫層の直前まで掘り込まれ，床面は礫の間に粘土が入り込んで，溜まった水が容易にはひかないような状態となっている。A3f<sub>6</sub>区からA3g<sub>6</sub>区にかけては，内側の堀岸が上幅で4.1m～4.8m，堀の中に向かって1.8m～1.3mせり出している部分がある。そのせり出し部分の延長上の堀中には，1.8mほどの間隔をおいて，木橋に用いたと思われる直径10～20cmの杭と幅11.5cm，厚さ4.3cmのほぞ穴の穿たれた材が発見されている。さらに，せり出し部分の南側には，床面が部分的に50cmほどの幅でわずかに高く調整されているのも確認された。

方向 ほぼ南北方向を向く。

覆土(1) 調査区北端（SP：A---A'）4層から成る。第1層はローム粒子を中量含む黒褐色土層である。第2層はローム粒子中量，炭化粒子微量，砂粒中量，小石を少量含む黒褐色土層である。第3層はローム粒子多量，炭化粒子少量，小石を少量含む極暗褐色土層である。第4層はローム粒子多量，砂粒多量含む灰褐色土層である。自然堆積と考えられる。

(2) 調査区北より（SP：B---B'）6層から成る。第1層はローム大ブロック少量，炭化粒子微量，礫を少量含む黒褐色土層である。第2層はローム粒子少量，炭化粒子微量，焼土粒子微量含む黒褐色土層である。第3層はローム粒子少量，炭化粒子少量，焼土粒子少量，砂粒多量含む暗褐色土層である。第4層はローム中ブロック少量，ローム粒子中量，炭化粒子微量，焼土粒子微量含む黒褐色土層である。第5層はローム粒子多量，炭化粒子微量，焼土粒子微量含む極暗褐色土層である。第6層はローム粒子多量，炭化粒子微量，小土粒子微量，粘土粒子多量含む暗褐色土層である。自然堆積と考えられる。床面は礫，粘土混じりで，水を通しにくくなっている。

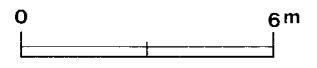
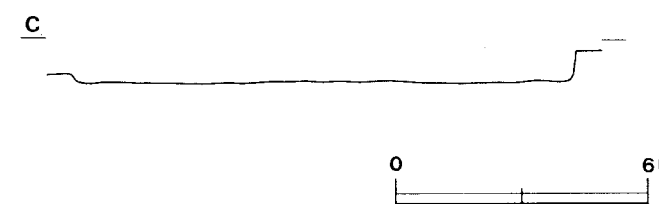
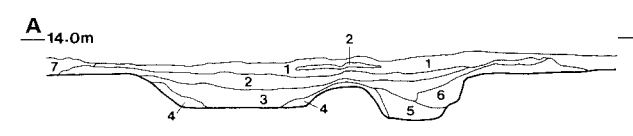
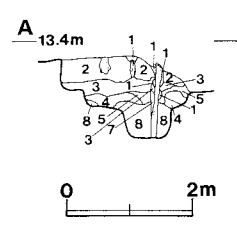
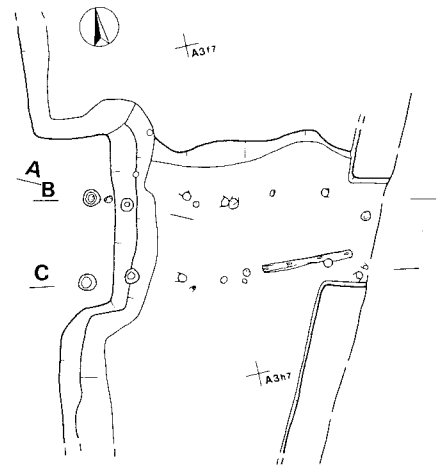
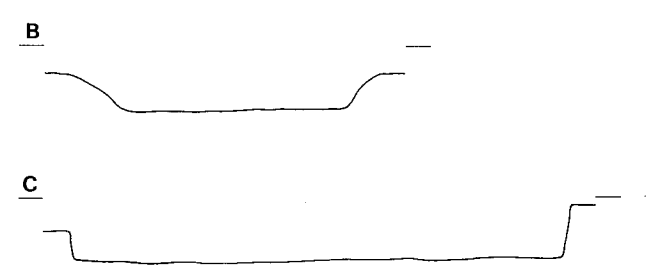
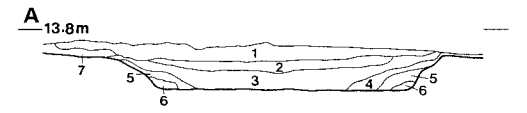
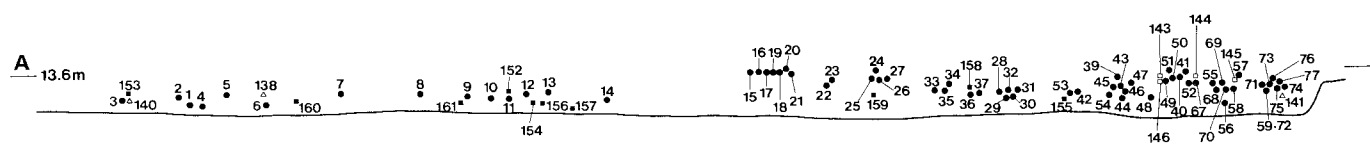
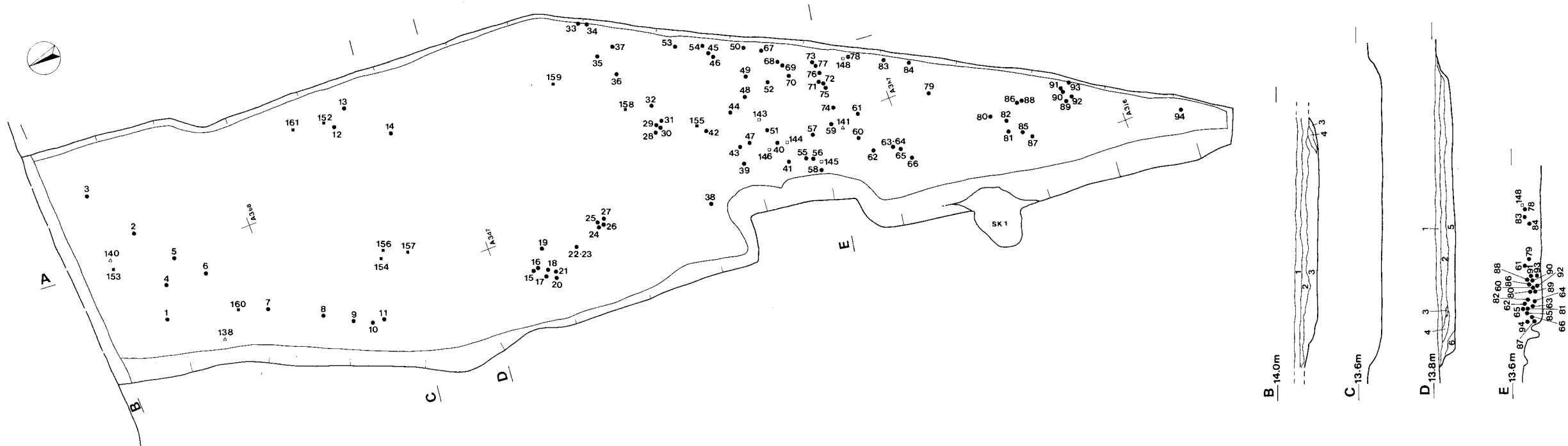
遺物 調査区内に確認した第1号堀の中央部の木橋出土周辺を中心に，土師質土器（皿・内耳鍋など），陶器片（甕など），石製品（石臼など），輸入磁器，中国古銭，木製品（椀・下駄など）多くの遺物が出土している。特に，明代の龍泉窯の青磁鉢，保存状態の良い下駄などの木製品など特筆すべき物も多い。

所見 本跡は伝わっている古地図などから，館の中堀と思われる。

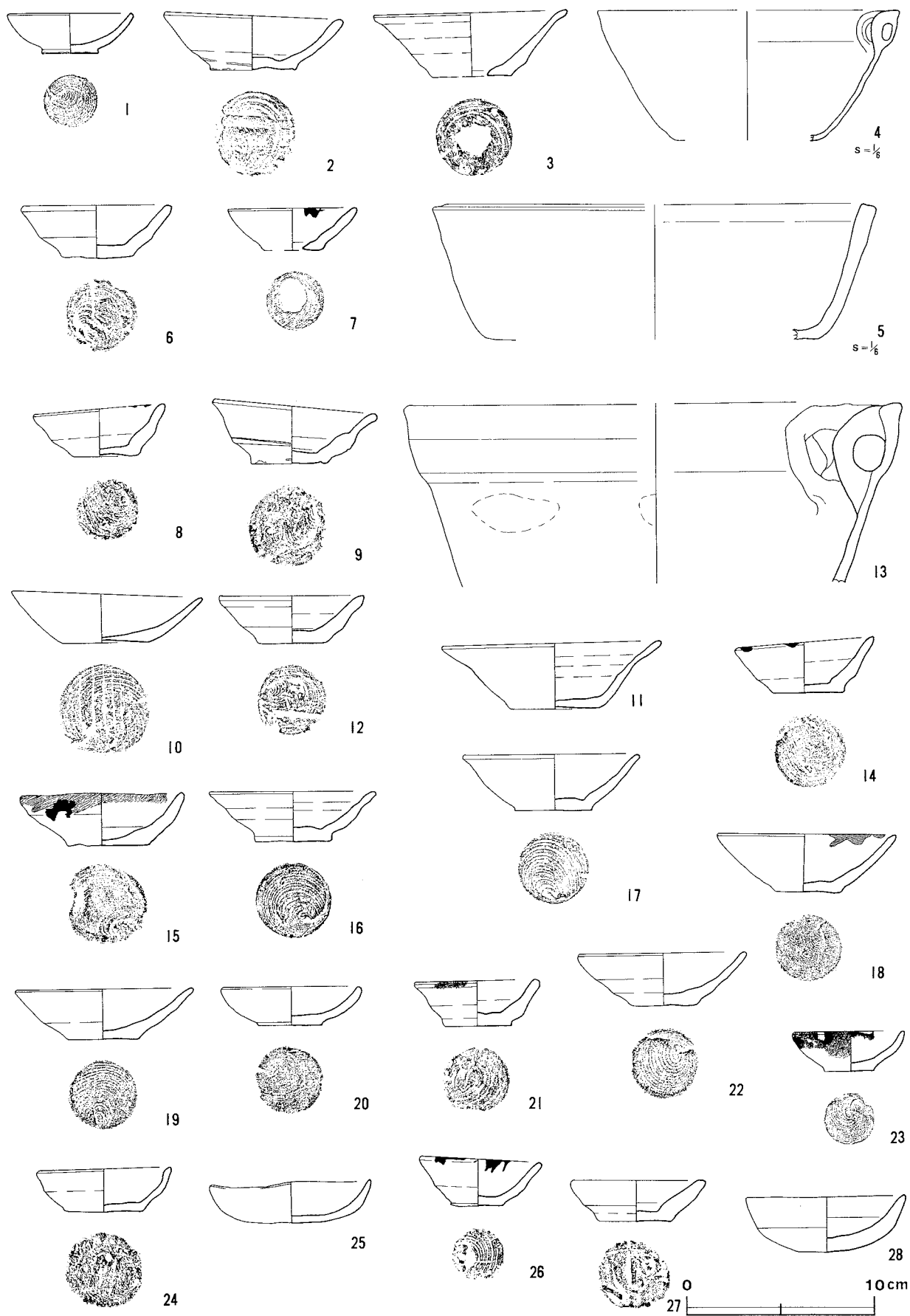
#### 第1号堀出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第6図 1	土師質土器	A 6.8	口縁部一部欠損。平底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。口縁部外面横ナデ	砂粒・長石・雲母 鈍い橙色 良好	P 145 98% 覆土
		B 2.2				
		C 3.0				
2	土師質土器	A 9.7	底部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。低部は突出気味。	水挽き成形。体部内面ヘラナデ。底部回転糸切り後ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 スコリア 浅黄橙色，普通	P 119 98% 覆土
		B 3.2				
		C 4.6				

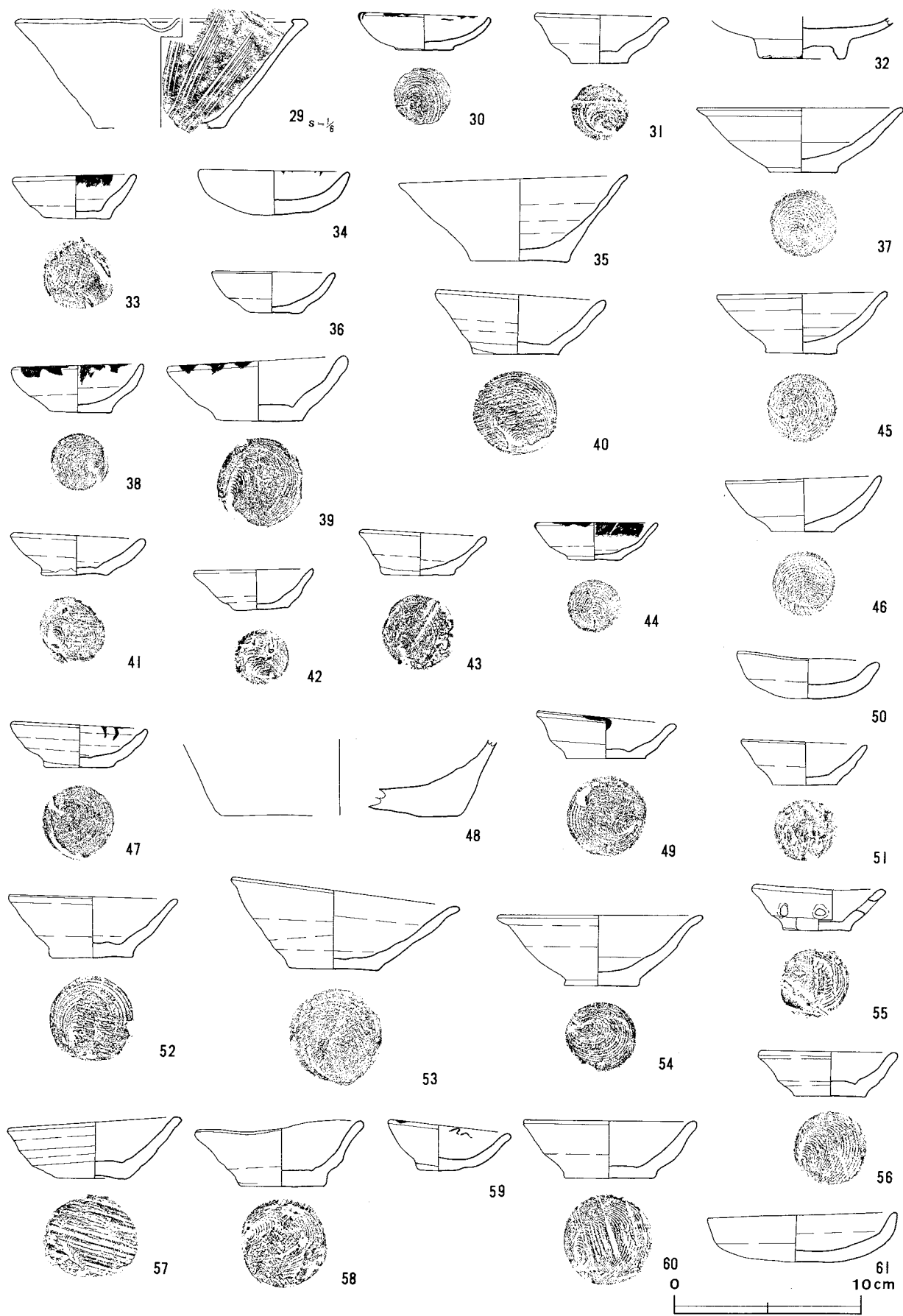
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第6図 3	皿 土師質土器	A [10.4]	低部から口縁部片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反しながら外に開く。低部は突出気味。	水挽き成形。低部回転糸切り。体部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 鈍い橙色 普通	P 146 50% 底部穿孔 覆土
		B 3.6				
		C 2.2				
4	内耳鍋 土師質土器	A 32.4	体部、口縁部片。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。口縁部外面(耳下付け根)を一本の沈線が巡る。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・石英・雲母 スコリア 鈍い赤褐色、普通	P 196 40% 覆土
		B 14.2				
		C [19.2]				
5	火鉢 土師質土器	A [48.0]	底部から口縁部片。体部、口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部上端は厚みを増す。	体部内面、口縁部内・外面ナデ。口縁部外面に菊花の押印紋。	砂粒・長石・石英 雲母・スコリア 赤褐色、普通	P 189 35% 覆土
		B 14.6				
		C [36.0]				
6	皿 土師質土器	A 8.1	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。底部は突出気味。	水挽き成形。 低部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 スコリア 浅黄橙色、普通	P 128 100% 覆土
		B 2.8				
		C 3.9				
7	皿 土師質土器	A 6.9	口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。底部は突出気味。	水挽き成形。 底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 スコリア 灰白色、普通	P 185 99% 底部穿孔、口縁部 煤付着、覆土
		B 2.3				
		C 3.0				
8	皿 土師質土器	A 7.0	平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。底部は突出気味。	水挽き成形。 底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 スコリア 浅黄橙色、普通	P 159 100% 口縁部煤付着 覆土中層
		B 2.8				
		C 3.4				
9	皿 土師質土器	A 8.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。底部は突出気味。	水挽き成形。 底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 スコリア 橙色、普通	P 120 100% 覆土中層
		B 3.4				
		C 4.4				
10	皿 土師質土器	A 10.3	口縁部一部欠損。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。器肉は薄い。	水挽き成形。底部回転糸切り後へラナデ。	砂粒・長石・石英 雲母 鈍い橙色、良好	P 117 98% 覆土中層
		B 2.8				
		C 4.5				
11	皿 土師質土器	A 11.6	平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部は直線的に外に開く。口縁部径に比して底部径が小さい。	水挽き成形。	石英・雲母 抹 スコリア 赤褐色、普通	P 114 100% 覆土中層
		B 3.7				
		C 4.8				
12	皿 土師質土器	A 7.8	口縁部一部欠損。平底。底部は突出気味。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り後へラ削り。	砂粒・雲母 淡橙色 普通	P 129 99% 覆土
		B 2.6				
		C 3.7				
13	内耳鍋 土師質土器	A 26.9	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎する。体部と口縁部の境に段が巡り、口縁部下位外面に指頭圧痕。	口縁部、体部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母 暗赤褐色、普通	P 201 10% 覆土
		B 9.7				
14	皿 土師質土器	A 7.4	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 スコリア 淡橙色、普通	P 155 100% 口縁部煤付着 床面
		B 3.0				
		C 3.8				
15	皿 土師質土器	A 8.8	平底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。歪みが激しい。	水挽き成形。低部回転糸切り。	砂粒・雲母 スコリア 鈍い橙色、普通	P 239 100% 口縁部外面煤付着 覆土中層
		B 2.8				
		C 4.3				
16	皿 土師質土器	A 9.0	平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 スコリア 黄橙色、普通	P 229 100% 覆土
		B 2.7				
		C 4.0				
17	皿 土師質土器	A 9.5	口縁部一部欠損。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	雲母・スコリア 淡黄色 良好	P 233 98% 覆土
		B 3.0				
		C 4.1				
18	皿 土師質土器	A 9.4	口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 スコリア 鈍い黄橙色、良好	P 240 99% 口縁部煤付着 覆土中層
		B 3.2				
		C 3.4				
19	皿 土師質土器	A 9.4	口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・石英 スコリア 鈍い橙色、良好	P 232 95% 覆土
		B 2.8				
		C 3.6				
20	皿 土師質土器	A 7.7	口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 鈍い橙色 良好	P 237 100% 覆土上層
		B 2.2				
		C 3.3				
21	皿 土師質土器	A 9.1	口縁部一部欠損。丸底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。底部外面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母 明褐色、普通	P 243 98% 覆土
		B 3.1				
		C 3.6				
22	皿 土師質土器	A 8.8	平底。体部、口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	雲母・スコリア 橙色 良好	P 230 100% 覆土中層
		B 2.8				
		C 3.5				
23	皿 土師質土器	A 6.0	平底。体部、口縁部は強く内彎しながら立ち上がる。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 橙色 良好	P 244 100% 口縁部煤付 覆土
		B 2.1				
		C 2.7				
24	皿 土師質土器	A 7.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 スコリア 浅黄橙色、普通	P 235 100% 覆土
		B 2.5				
		C 4.0				



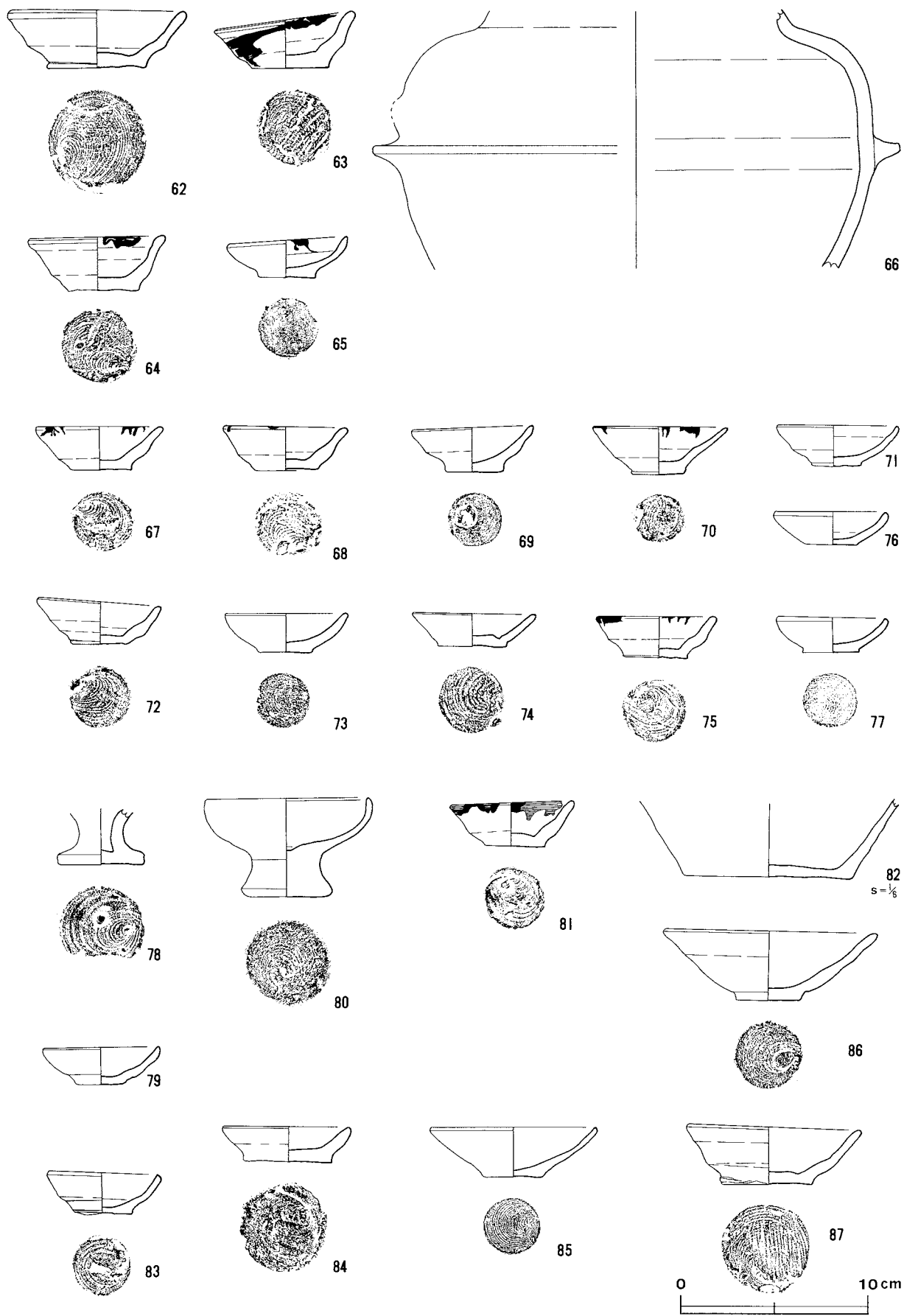
第5图 第1·2·3号堀·第3号溝実測图



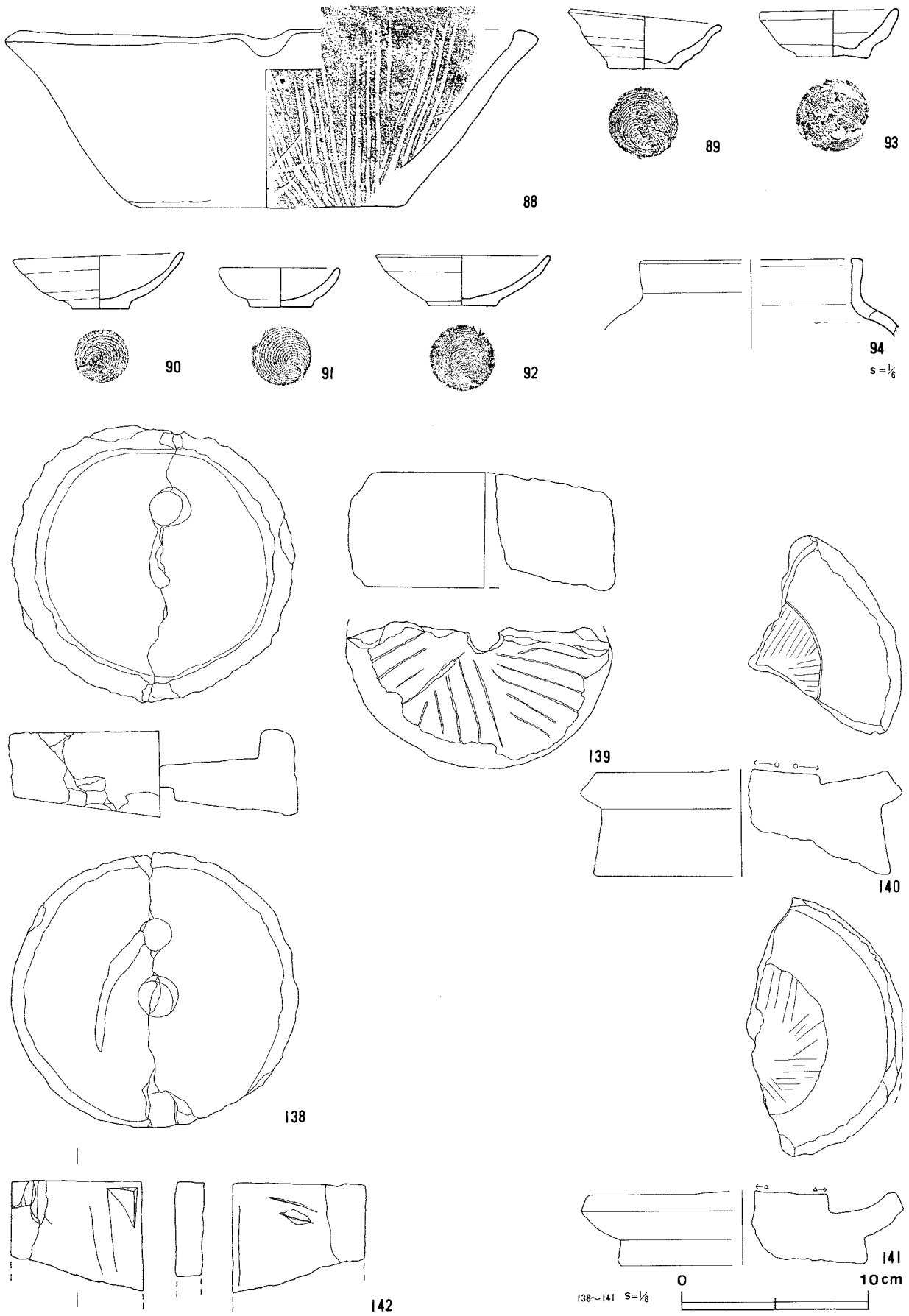
第6图 第1号堀出土遺物実測図(1)



第7图 第1号掘出土遗物实测图(2)

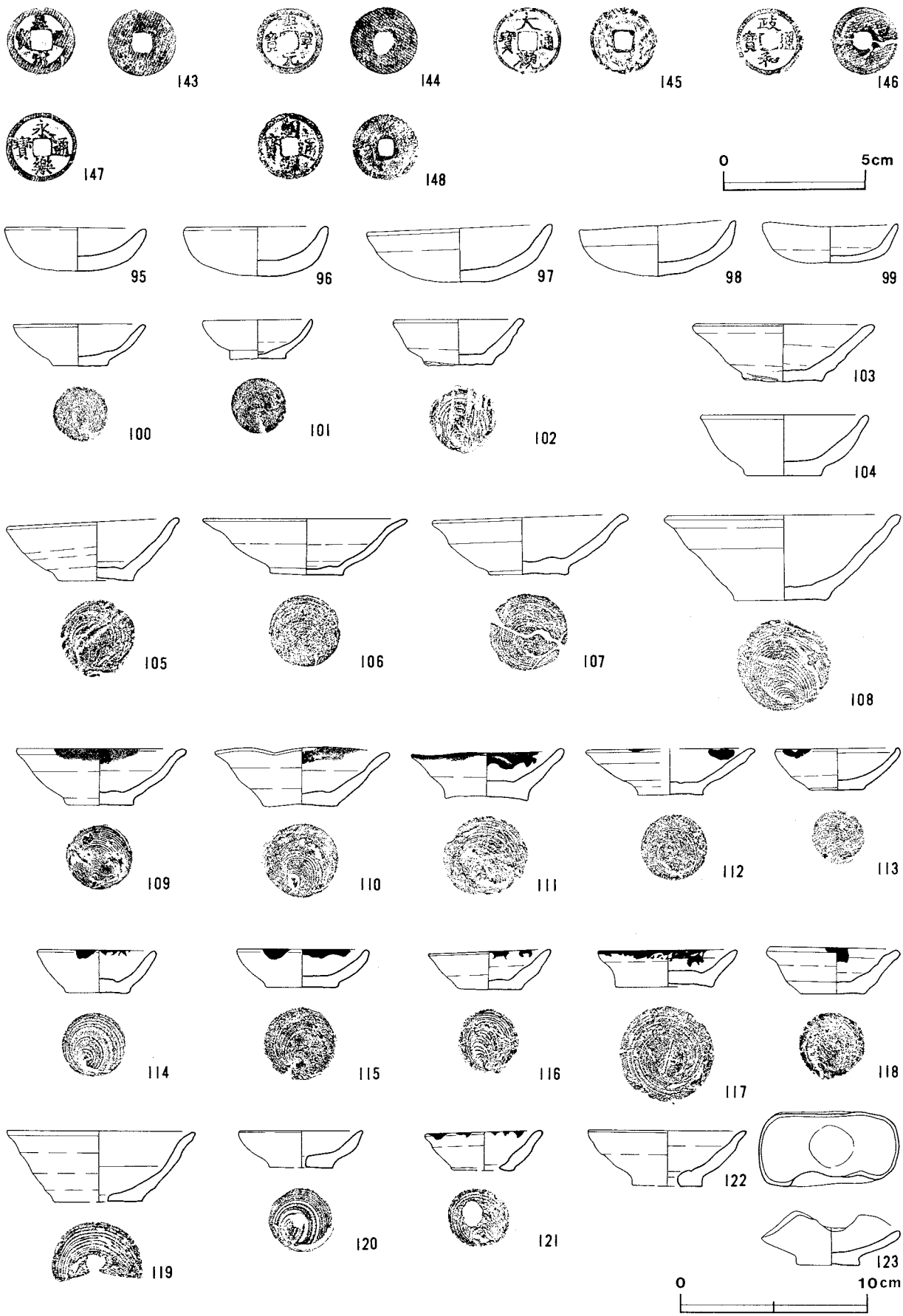


第 8 图 第 1 号掘出土遺物実測図(3)

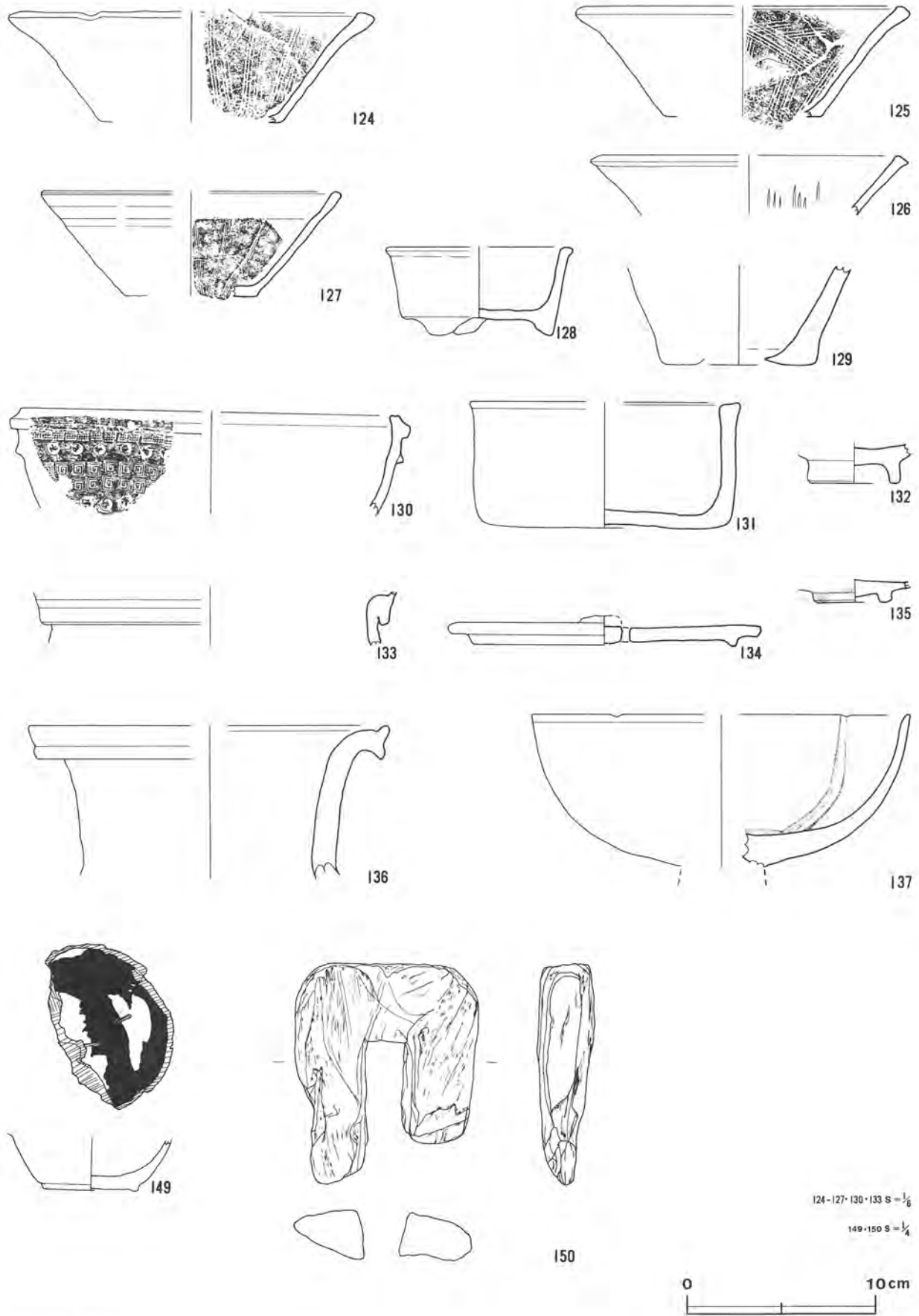


第9図 第1号掘出土遺物実測図(4)

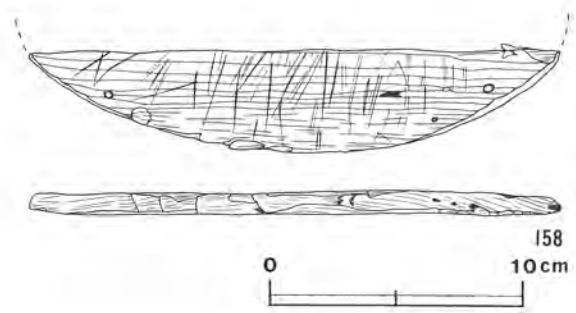
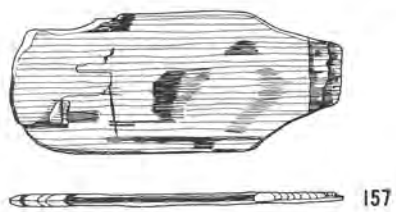
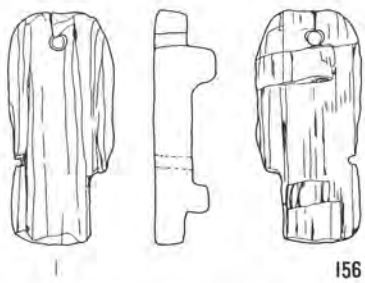
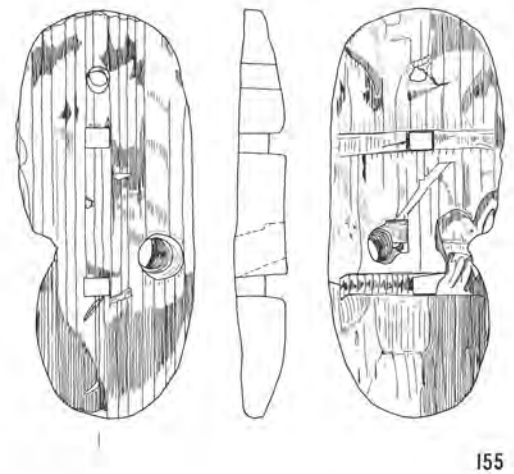
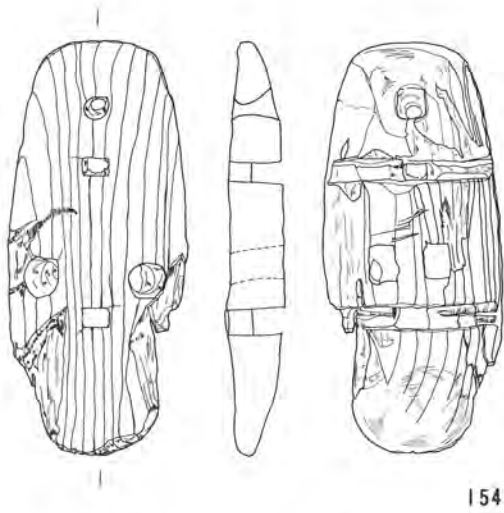
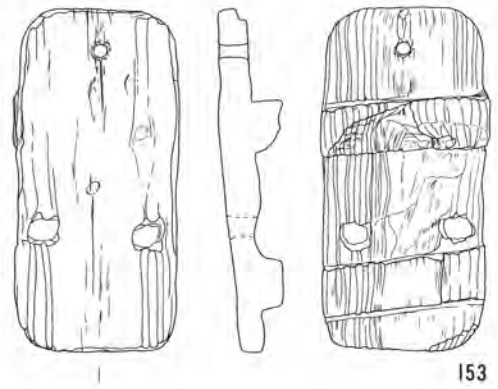
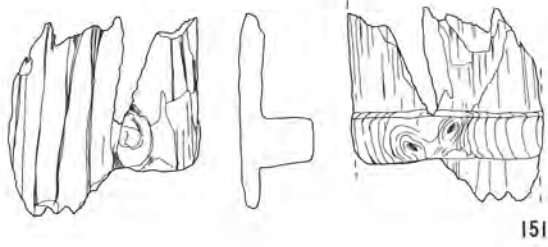
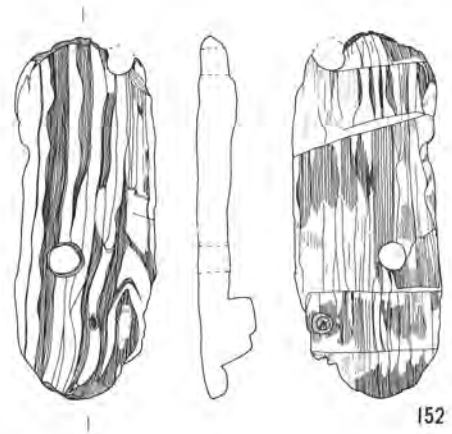
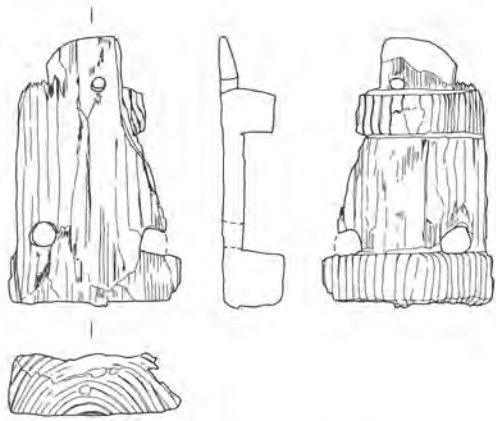




第10图 第1号掘出土遺物実測图(5)

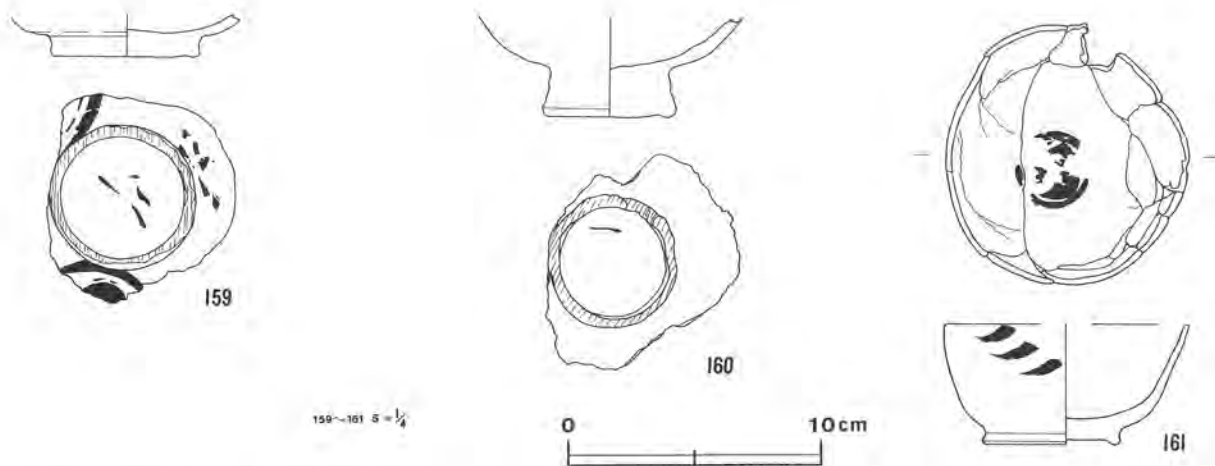


第11图 第1号掘出土遺物実測図(6)



151~158  $s = \frac{1}{4}$

第12図 第1号堀出土遺物実測図(7)



第13図 第1号堀出土遺物実測図(5)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
25	皿 土師質土器	A 8.6 B 2.2	口縁部一部欠損。丸底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・石英・雲母 スコリア 灰白色、普通	P 234 95% 覆土中層
26	皿 土師質土器	A 6.6 B 2.7 C 2.8	平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。底部突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英 雲母 鈍い黄色、普通	P 165 100% 口縁部内面煤付着 覆土
27	皿 土師質土器	A 7.2 B 2.4 C 3.9	平底。体部、口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母 スコリア 淡橙色、普通	P 236 100% 覆土
28	皿 土師質土器	A 8.6 B 3.1	口縁部一部欠損。丸底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石 雲母・スコリア 灰白色、普通	P 150 97% 覆土
第7図 29	搦鉢 土師質土器	A [30.8] B 12.0 C [13.6]	底部から口縁部片。体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに厚みを増す。口縁部上端が内側にわずかにせり出す。	口縁部内・外面ナデ。体部内面に4本単位の欄目が施されている。	砂粒・長石・雲母 スコリア 鈍い褐色 普通	P 259 15% 内外面煤付着 覆土
30	皿 土師質土器	A 7.2 B 2.3 C 3.1	平底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。底部は突出気味。	底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 スコリア 橙色、良好	P 171 100% 口縁部煤付着 覆土
31	皿 土師質土器	A 7.3 B 2.7 C 3.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	底部回転糸切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母 スコリア 浅黄橙色、不良	P 135 100% 覆土
32	高台付盤 青磁	B (2.3) D [4.6] G 1.1	平底。高台部は短く直立する。体部は緩やかに内彎しながら立ち上がる。高台部内側を除き釉が均等に施されている。	底部ヘラ切り。付け高台。	灰白色 (軸)明緑橙色 良好	P 212 20% 覆土
33	皿 土師質土器	A 6.7 B 2.5 C 3.6	平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。口縁部内・外面横ナデ。底部回転糸切り後ナデ。	砂粒・スコリア 灰白色 普通	P 161 100% 口縁部内面煤付着 覆土
34	皿 土師質土器	A 8.1 B 2.4	丸底。器肉が厚い。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母 橙色、良好	P 153 100% 口縁部煤付着 覆土
35	皿 土師質土器	A 12.2 B 4.8 C 5.2	平底。体部、口縁部は直線的に立ち上がる。	内外面ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。	雲母抹・スコリア 浅黄橙色 普通	P 116 95% 床面
36	皿 土師質土器	A 6.8 B 2.2 C 2.9	平底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母 橙色、良好	P 172 100% 床面
37	皿 土師質土器	A 11.1 B 3.6 C 3.7	口縁部一部欠損。平底。口縁部径に比して底部径が小さい。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 スコリア 浅黄橙色 普通	P 122 95% 覆土
38	皿 土師質土器	A 7.0 B 2.7 C 3.2	平底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 スコリア 鈍い橙色、普通	P 162 100% 口縁部煤付着 覆土
39	皿 土師質土器	A 9.7 B 3.5 C 4.7	平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	長石・雲母 スコリア 浅黄橙色、普通	P 256 100% 内面全体煤付着 床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第7図 40	皿 土師質土器	A 9.1	平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 スコリア 灰白色、普通	P 250 100% 内面全体煤付着 覆土
		B 3.4				
		C 4.6				
41	皿 土師質土器	A 7.4	平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 スコリア 灰白色、普通	P 132 100% 床面
		B 2.4				
		C 3.6				
42	皿 土師質土器	A 6.5	平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英 雲母・スコリア 橙色、普通	P 133 100% 覆土
		B 2.3				
		C 3.0				
43	皿 土師質土器	A 6.9	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。	砂粒・雲母 スコリア 橙色、普通	P 168 100% 口縁部煤付着 覆土
		B 2.4				
		C 3.9				
44	皿 土師質土器	A 6.7	平底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。底部は突出気味。	水挽き成形。口縁部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 鈍い橙色 良好	P 163 100% 口縁部煤付着 覆土
		B 2.0				
		C 2.8				
45	皿 土師質土器	A 9.2	口縁部一部欠損。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。底部は突出気味。体部内面低位に一条の沈線。	水挽き成形。口縁部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英 雲母・スコリア 灰白色 普通	P 124 90% 覆土
		B 3.3				
		C 3.8				
46	皿 土師質土器	A 8.4	平底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。底部内面に指先ほどの窪み。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英 雲母、スコリア 灰黄褐色、普通	P 126 100% 覆土
		B 3.0				
		C 3.3				
47	皿 土師質土器	A 7.4	口縁部一部欠損。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 鈍い褐色 良好	P 178 95% 口縁部煤付着 覆土
		B 2.4				
		C 3.7				
48	鉢 陶器	B(4.1)	平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。底部の厚みに比して体部が薄い。	体部内面にロクロ痕。	礫 灰色 普通	P 228 5% 覆土下層
		C[13.0]				
49	皿 土師質土器	A 7.5	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英 雲母 鈍い黄橙色、良好	P 257 100% 口縁部煤付着 覆土
		B 2.6				
		C 4.2				
50	皿 土師質土器	A 7.8	平底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。底部は突出気味。外面底部と体部境に細い沈線が巡る。	水挽き成形。底部回転糸切り後ヘラ削り。	砂粒・長石・石英 雲母 灰褐色、良好	P 253 100% 口縁部から体部内面煤付着、覆土
		B 2.5				
51	皿 土師質土器	A 6.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り後ヘラ削り。	砂粒・長石・石英 鈍い橙色 不良	P 252 99% 覆土上層
		B 2.5				
		C 3.5				
52	皿 土師質土器	A 9.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 橙色 普通	P 251 98% 口縁部煤付着 覆土下層
		B 3.5				
		C 4.5				
53	皿 土師質土器	A 12.5	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 橙色 良好	P 115 5% 体部内面煤付着 覆土
		B 5.0				
		C 5.0				
54	皿 土師質土器	A 11.1	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。底部は突出気味。口縁部径に比して底部径が小さい。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 鈍い褐色 普通	P 123 90% 体部内面褐色物付着 覆土
		B 3.9				
		C 3.9				
55	皿 土師質土器	A 7.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、体部上位から口縁部は外反する。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	長石・雲母 淡橙色 良好	P 268 100% 体部中位に2か所穿孔、覆土
		B 2.5				
		C 3.5				
56	皿 土師質土器	A 7.5	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、体部上位から口縁部は外反する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 橙色 普通	P 270 100% 口縁部煤付着 床面
		B 2.4				
		C 3.8				
57	皿 土師質土器	A 9.5	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。底部内面は膨らむ。	水挽き成形。底部回転糸切り後ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 灰褐色 普通	P 265 98% 覆土中層
		B 3.4				
		C 3.8				
58	皿 土師質土器	A 8.9	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、体部上位から口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 鈍い褐色 普通	P 264 100% 覆土中層
		B 3.6				
		C 4.5				
59	皿 土師質土器	A 6.3	平底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り後ヘラナデ。	砂粒・雲母 スコリア 灰白色、普通	P 164 100% 口縁部内面煤付着 覆土
		B 2.8				
		C 2.0				
60	皿 土師質土器	A 9.3	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。	水挽き成形。底部回転糸切り後ヘラナデ。	長石・雲母 スコリア 鈍い褐色、普通	P 266 100% 内面全体厚く煤付着、床面
		B 3.1				
		C 4.9				
61	皿 土師質土器	A 10.2	口縁部一部欠損。丸底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母・スコリア 灰白色、普通	P 125 95% 覆土
		B 2.8				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8図 62	皿 土師質土器	A 9.7	平底。器肉が厚い。体部外面中位をわずかな膨らみが巡る。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 鈍い橙色 良好	P 151 100% 底部、体部内面煤 付着 覆土
		B 3.2				
		C 5.3				
63	皿 土師質土器	A 7.6	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。	水挽き成形。底部回転糸切り後ヘラナデ。	砂粒・雲母 スコリア 灰白色、普通	P 271 95% 口縁部、体部外面 煤付着、床面
		B 3.1				
		C 4.1				
64	皿 土師質土器	A 7.4	体部から口縁部にかけて部分的に欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。	水挽き成形。底部回転糸切り後ヘラナデ。	砂粒・雲母 スコリア 鈍い橙色、普通	P 275 80% 口縁部煤付着 覆土下層
		B 2.3				
		C 3.7				
65	皿 土師質土器	A 6.5	底部から口縁部片。平底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英 雲母・スコリア 灰褐色、良好	P 184 70% 口縁部煤付着 覆土
		B 2.3				
		C 3.1				
66	茶 釜 土師質土器	B (13.9)	体部片。体部は内彎し下脹れ気味に下位が膨らむ。体部中央部には幅13mm、厚さが5mmほどの鑊が付く。	体部外面ナデ。体部内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 雲母 橙色、普通	P 206 25% 覆土
67	皿 土師質土器	A 6.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 スコリア 淡橙色、普通	P 181 98% 口縁部煤付着 覆土
		B 2.4				
		C 3.3				
68	皿 土師質土器	A 6.7	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 スコリア 鈍い橙色、良好	P 158 100% 口縁部煤付着 覆土
		B 2.5				
		C 3.4				
69	皿 土師質土器	A 6.5	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 スコリア 鈍い褐色、普通	P 176 99% 体部内・外面煤付 着、覆土
		B 2.5				
		C 3.0				
70	皿 土師質土器	A 7.4	平底。体部、口縁部は直線的に立ち上がる部分と直線的に外傾する部分とがある。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 鈍い褐色 良好	P 166 100% 口縁部内面煤付着 覆土
		B 2.7				
		C 2.8				
71	皿 土師質土器	A 6.8	平底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英 雲母 鈍い橙色、良好	P 167 100% 内面全体煤付着 覆土
		B 2.2				
		C 3.6				
72	皿 土師質土器	A 6.8	平底。体部、口縁部は直線的に立ち上がる部分と直線的に外傾する部分とがある。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石 灰白色 良好	P 160 100% 口縁部煤付着 覆土
		B 2.5				
		C 3.1				
73	皿 土師質土器	A 6.7	平底。体部、口縁部は直線的に立ち上がる。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 鈍い黄橙色 普通	P 139 100% 覆土
		B 2.1				
		C 2.9				
74	皿 土師質土器	A 6.8	口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 鈍い黄橙色 良好	P 137 100% 覆土
		B 2.0				
		C 3.6				
75	皿 土師質土器	A 6.5	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 スコリア 鈍い橙色、普通	P 177 100% 口縁部煤付着 覆土
		B 2.3				
		C 3.4				
76	皿 土師質土器	A 6.3	平底。体部、口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り後ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母 灰褐色、良好	P 143 100% 覆土
		B 1.8				
		C 2.7				
77	皿 土師質土器	A 6.0	平底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 スコリア 鈍い黄橙色、良好	P 142 100% 覆土
		B 2.0				
		C 3.0				
78	花 瓶 陶 器	B ( 3.0)	底部から体部片。平底。底部から強く絞り込むように外彎しながら立ち上がる。	底部回転糸切り。底部周辺を除いて釉が施されている。	灰白色 (釉) 灰白色 普通	P 217 10% 覆土
		C 4.6				
79	皿 土師質土器	A 6.3	平底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。体部下位に底部を取り巻く形でヘラによる線。	水挽き成形。底部回転糸切り後ヘラ削り。	砂粒・長石・石英 雲母 鈍い橙色、普通	P 173 100% 覆土
		B 2.0				
		C 2.6				
80	高台付 坏 土 師 器	A ( 8.7)	およそ20mmの高台部は外彎しながら広がる。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部に近づくにつれ彎曲の度を強める。底部内面中央に押印が見られる。	底部回転糸切り。体部外面ナデ。	石英・雲母 スコリア 鈍い褐色 普通	P 292 60% 覆土下層
		B 5.3				
		C 4.6				
		E 2.0				
81	皿 土師質土器	A 6.7	平底。体部は内彎しながら立ち上がり口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り後ヘラナデ。	雲母・スコリア 灰白色 普通	P 291 100% 口縁部煤付着 覆土上層
		B 2.5				
		C 3.1				
82	播 鉢 土師質土器	B ( 8.0)	底部、体部片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。	体部内面ナデ。底部から体部内面には4本単位の櫛目が密に施されている。	砂粒・長石・石英 雲母 鈍い褐色、普通	P 195 40% 覆土
		C (17.9)				
83	皿 土師質土器	A 6.3	口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り後ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 雲母 鈍い褐色、普通	P 144 98% 覆土
		B 2.3				
		C 3.1				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8図 84	皿 土師質土器	A 7.0	平底。底部が突出気味。口縁部上端径に比して底部径が大きい。体部、口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・石英 スコリア 鈍い橙色、普通	P 131 100% 覆土
		B 1.9				
		C 4.8				
85	皿 土師質土器	A 8.8	口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。底部は突出気味。口縁部径に比して底部径が小さい。	水挽き成形。底部回転糸切り。	雲母 鈍い黄橙色 良好	P 282 99% 覆土上層
		B 2.7				
		C 3.0				
86	皿 土師質土器	A 11.5	平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。底部は突出気味。口縁部径に比して底部径が小さい。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英 雲母・スコリア 鈍い橙色 良好	P 280 100% 口縁部外面煤付着 内面全体厚く煤付着、覆土
		B 3.8				
		C 3.4				
87	皿 土師質土器	A 9.4	口縁部から体部にかけて一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り後ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 鈍い橙色 良好	P 285 80% 覆土
		B 3.3				
		C 4.9				
第9図 88	播鉢 土師質土器	A [28.6]	口縁部から体部にかけて一部欠損。平底。体部、口縁部は直線的に外傾する。口縁部に一箇所注ぎ口。	口縁部内・外面横ナデ。底部から体部にかけて、内面に5本単位の櫛目が施されている。	長石・石英・雲母 スコリア 鈍い黄橙色、普通	P 295 70% 底部から体部下位 外面煤付着、覆土
		B 9.6				
		C 14.0				
89	皿 土師質土器	A 8.5	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 橙色 良好	P 286 95% 内外面全体煤付着 覆土
		B 3.3				
		C 3.8				
90	皿 土師質土器	A 9.2	口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。口縁部径に比して底部径が小さい。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 スコリア 鈍い橙色 良好	P 283 98% 覆土中層
		B 3.1				
		C 3.0				
91	皿 土師質土器	A 6.4	平底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・スコリア 灰白色 良好	P 288 100% 覆土中層
		B 2.1				
		C 3.3				
92	皿 土師質土器	A 9.4	平底。体部、口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。口縁部径に比して底部径が小さい。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英 雲母 黄橙色 良好	P 281 100% 覆土下層
		B 2.7				
		C 3.6				
93	皿 土師質土器	A 7.5	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り後ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 黄橙色、普通	P 290 95% 覆土
		B 2.7				
		C 3.9				
94	羽籠 土師質土器	A 24.1	体部から口縁部片。体部は内彎しながら口縁部に至る。口縁部は垂直に立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母 橙色、普通	P 294 10% 覆土
		B 8.5				
第10図 95	皿 土師質土器	A 7.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。比較的器肉が厚い。	口縁部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 鈍い橙色 普通	P 255 75% 覆土
		B 2.3				
96	皿 土師質土器	A 7.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。比較的器肉が厚い。	口縁部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 スコリア 鈍い橙色、普通	P 254 90% 覆土
		B 2.7				
97	皿 土師質土器	A 10.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。比較的器肉が厚い。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母 鈍い橙色、普通	P 260 95% 赤味が強く重厚 覆土
		B 3.1				
98	皿 土師質土器	A 8.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。比較的器肉が厚い。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・石英・雲母 スコリア 灰黄橙色、普通	P 262 80% 覆土下層
		B 3.0				
99	皿 土師質土器	A 7.2	口縁部一部欠損。丸底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・雲母 スコリア 灰白色、普通	P 263 90% 覆土
		B 2.1				
100	皿 土師質土器	A 7.2	口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部は緩やかに内彎しながら立ち上がる。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石 スコリア 浅黄橙色、普通	P 238 95% 覆土
		B 2.3				
		C 3.1				
101	皿 土師質土器	A 6.0	平底。体部、口縁部は緩やかに内彎しながら立ち上がる。底部は突出気味。器形が整っている。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英 雲母 鈍い黄橙色、普通	P 287 100% 覆土
		B 2.1				
		C 3.0				
102	皿 土師質土器	A 7.0	口縁部一部欠損。平底。体部は中位にわずかな膨らみをもって内彎しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	水挽き成形。底部回転糸切り後ヘラナデ。	砂粒・雲母 灰褐色 良好	P 138 99% 覆土下層
		B 2.5				
		C 3.4				
103	皿 土師質土器	A 9.5	口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部は直線的に外傾する。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	長石・雲母 鈍い橙色 不良	P 121 90% 覆土
		B 4.2				
		C 3.2				
104	皿 土師質土器	A 9.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英 雲母 橙色、普通	P 284 95% 覆土
		B 3.3				
		C 4.0				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
105	土師質土器	A 9.3	口縁部一部欠損。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英 雲母 浅黄橙色，良好	P 118 98% 覆土
		B 3.4				
		C 4.0				
106	土師質土器	A 11.0	口縁部一部欠損。平底。体部は緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 灰褐色 普通	P 152 80% 覆土
		B 3.1				
		C 3.9				
107	土師質土器	A 10.5	平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反して外に開く。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英 雲母 橙色，普通	P 231 100% 覆土
		B 3.4				
		C 4.2				
108	土師質土器	A 12.8	口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 灰白色 普通	P 249 75% 覆土下層
		B 4.6				
		C 4.9				
109	土師質土器	A 9.1	口縁部微小欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英 雲母 明褐色，普通	P 241 98% 口縁部煤付着 覆土
		B 3.1				
		C 3.6				
110	土師質土器	A 9.4	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部は外反して外に開く。造りが雑。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 スコリア 灰黄色，普通	P 242 80% 口縁部煤付着 覆土
		B 3.1				
		C 4.0				
111	土師質土器	A 8.2	底部から口縁部片。平底。体部、口縁部は直線的に外傾する。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 スコリア 鈍い黄橙色，普通	P 246 60% 口縁部煤付着 覆土
		B 2.8				
		C 4.4				
112	土師質土器	A [ 9.1]	体部から口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部は直線的に外傾する。体部上位外面がやや膨らむ。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英 雲母・スコリア 灰黄色，普通	P 223 70% 口縁部煤付着 覆土
		B 2.5				
		C 3.6				
113	土師質土器	A 6.5	口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 灰黄色 良好	P 170 98% 覆土
		B 2.9				
		C 2.3				
114	土師質土器	A 6.4	平底。体部、口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。底部内面が膨らむ。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石 スコリア 普通	P 174 100% 口縁部煤付着 覆土
		B 2.3				
		C 3.5				
115	土師質土器	A 7.2	口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部は緩やかに内彎しながら立ち上がる。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 スコリア 鈍い黄橙色，普通	P 179 95% 口縁部煤付着 覆土
		B 2.1				
		C 3.3				
116	土師質土器	A 6.6	口縁部一部欠損。平底。体部中位がわずかに膨らみ、直線的に外傾する。口縁部はわずかに外反する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 スコリア 灰白色，普通	P 222 80% 口縁部煤付着 覆土
		B 2.2				
		C 3.3				
117	土師質土器	A 7.4	口縁部微小欠損。平底。体部はわずかに外反しながら立ち上がる。口縁部径に比して底部径が大きい。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P 272 98% 口縁部煤付着 覆土
		B 2.0				
		C 5.2				
118	土師質土器	A 7.1	口縁部一部欠損。平底。体部は中位外面に膨らみをもってわずかに内彎しながら立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英 雲母・スコリア 灰白色，普通	P 274 85% 覆土
		B 2.5				
		C 3.4				
119	土師質土器	A 10.1	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反して外に開く。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・スコリア 淡橙色 普通	P 147 55% 底部穿孔 覆土
		B 3.8				
		C 4.2				
120	土師質土器	A 6.7	底部から口縁部片。平底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。全体に器肉が厚い。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	雲母 黒色 普通	P 149 50% 底部穿孔 覆土
		B 2.0				
		C 3.3				
121	土師質土器	A 6.4	底部から口縁部片。平底。体部、口縁部は直線的に外傾する。体部中位外面がやや膨らむ。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 スコリア 淡橙色，普通	P 186 55% 底部穿孔 覆土
		B 2.2				
		C 3.3				
122	土師質土器	A [ 8.4]	底部から口縁部片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 橙色 良好	P 148 60% 底部穿孔 覆土
		B 3.0				
		C 3.2				
123	耳 土師質土器	A 7.4	口縁部一部欠損。平底。突出した底部から立ち上がる体部は、向かい合う面が内側に強く曲げられている。	水挽き成形。底部回転糸切り。	雲母・スコリア 橙色 普通	P 187 80% 覆土
		B 3.0				
		C 3.4				
第11図 124	播 鉢 土師質土器	A [36.0]	底部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部近くから外反する。	内・外面ナデ。底部から体部内面には6本単位の櫛目が施されている。	長石・石英・雲母 スコリア 黄橙色，普通	P 192 30% 底部外面煤付着 覆土
		B (11.9)				
		C [19.2]				
125	播 鉢 土師質土器	A [35.6]	底部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部近くから外反する。	内・外面ナデ。体部内面には6本単位の櫛目が施されている。	砂粒・長石・石英 雲母 鈍い橙色，普通	P 193 15% 覆土
		B 11.9				
		C [17.1]				
126	播 鉢 土師質土器	A [ 6.8]	体部から口縁部片。体部、口縁部はわずかに外反する。	体部、口縁部内・外面ナデ。体部内面には3本単位の櫛目が施されている。	石英・雲母 スコリア 普通	P 194 10% 覆土
		B ( 2.5)				
127	播 鉢 土師質土器	A [32.0]	底部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部は外にわずかに膨らんで内彎する。	内・外面ナデ。底部から体部内面には6本単位の櫛目が施されている。	砂粒・長石・石英 雲母 鈍い褐色，普通	P 225 10% 外面煤付着 覆土
		B 11.2				
		C [14.0]				



図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第11図 128	香炉 土師質土器	A〔10.0〕 B 4.7 C〔8.0〕	底部から口縁部片。4足。平底。体部、口縁部は直線的に外傾する。口縁部上端は外側に摘み出されている。	内・外面ナデ。体部中位には方形の渦巻紋が施されている。	砂粒・長石・石英 雲母 鈍い橙色、普通	P 209 45% 体部内面煤附着 覆土
129	香炉 土師質土器	B〔5.3〕 C〔8.0〕	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母・スコリア 明赤褐色、良好	P 210 35% 体部内面煤附着 覆土
130	火鉢 土師質土器	A〔40.4〕 B〔10.8〕	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎しながら隆帯の巡る口縁部に至る。	内・外面ナデ。体部には方形の渦巻紋、格子紋、粘土貼り付け後に竹管で刺突した円錐形装飾が付く。	砂粒・長石・石英 雲母 鈍い黄橙色、普通	P 190 10% 覆土
131	香炉 土師質土器	A〔14.2〕 B 6.7 C〔13.0〕	底部から体部片。平底。3足。体部はわずかに内彎しながら垂直方向に立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部上端は外側に摘み出されている。	内・外面ナデ。	雲母・石英 スコリア 褐灰色 普通	P 208 45% 覆土
132	高台付碗 磁器	B〔2.1〕 D 4.8 E 1.0	高台部から底部片。高台部は直線的にわずかに外に開く。	底部回転ヘラ切り。	灰色 (釉)灰白色 普通	P 213 10% 覆土
133	甕 陶器	B〔5.7〕	体部上位から口縁部片。体部から強く外反して下方に7cmほど折れた口縁部は、折り返し上端から外斜め上方に向けつけられた隆起帯と相俟って幅広い縁帯をなす。	内面ナデ。	灰色 (釉)灰色 普通	P 279 2% 常滑産 覆土
134	蓋 土師質土器	A〔16.6〕 B 1.6	上面中央部には、円柱の下端がトンネル状に穿孔された形態の摘みが付き、その端も蓋を上下に貫いて穿孔され、紐の通し穴が作られている。	内・外面ナデ。下面黒色処理。	砂粒・長石・石英 雲母 橙色 普通	P 207 25% 瀬戸産 覆土
135	皿 磁器	B〔1.2〕 D 4.1 E 0.6	高台部から底部片。高台部は低く垂直に付く。	底部回転ヘラ切り。	灰白色 (釉)灰白色 普通	P 214 15% 覆土
136	甕 陶器	A〔19.0〕 B〔8.2〕	体部上位から口縁部片。わずかに外反する体部から続く口縁部は、下方45度近くまで折れ、口縁部上端は中央が窪んで先端は上下に分かれる。	口縁部内・外面横ナデ。	灰色 (釉)灰オリーブ色 普通	P 218 5% 常滑産 覆土
137	鉢 磁器	A〔20.2〕 B〔8.1〕	底部から口縁部片。高台部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。体部内面は片彫りによる線描により5分割される。口縁部には輪花が認められる。	底部から口縁部にかけて均等に釉が施されている。	灰色 (釉)オリーブ灰色 良好	P 211 45% 覆土

図版番号	器種	石質	計測値		出土層位	整理番号	備考
			直径(cm)	高さ(cm)			
第9図138	粉挽臼・上臼	安山岩	30.7	9.3	覆土下層	Q 3	
139	粉挽臼・下臼	安山岩	[28.7]	12.4	覆土下層	Q 4	上面に櫛目状の溝。
140	粉挽臼・下臼	安山岩	[34.6]	16.5	覆土下層	Q 5	上面に櫛目状の溝。
141	粉挽臼・下臼	安山岩	[34.6]	11.3	覆土下層	Q 6	上面に櫛目状の溝。

図版番号	器種	石質	計測値			出土層位	整理番号	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)			
第9図142	硯	粘板岩	(5.9)	7.1	1.5	覆土下層	Q 8	

図版番号	銭名	国名	時代	初鋳年代	出土層位	整理番号	備考
第10図143	皇宋通宝	中国	宋	1039	覆土中層	M 6	木橋付近より出土。
144	熙寧元宝	中国	宋	1068	覆土中層	M 8	木橋付近より出土。
145	大観通宝	中国	宋	1107	覆土中層	M 7	木橋付近より出土。
146	政和通宝	中国	宋	1111	覆土中層	M 10	木橋付近より出土。
147	永楽通宝	中国	明	1408	覆土	M 5	
148	朝鮮通宝	朝鮮	李	1423	覆土	M 9	

図版番号	器種	計測値					出土層位	整理番号	備考
		口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	高台径(cm)	高台高(cm)			
第11図149	碗	………	………	6.8	6.8	(0.4)	覆土下層	W29	内外面黒漆塗り。


図版番号	器種	計測値				出土層位	整理番号	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	最大高(cm)			
第12図151	下駄	(14.8)	(9.1)	1.2	(3.2)	覆土下層	W22	一枚の厚板から台と歯を削り出す。
152	下駄	(19.3)	(7.4)	1.9	(2.9)	覆土下層	W27	一枚の厚板から台と歯を削り出す。

図版番号	器種	計測値				出土層位	整理番号	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	最大高(cm)			
第12図153	下駄	18.2	8.7	1.9	( 3.4)	覆土下層	W49	一枚の厚板から台と歯を削り出す。歯が下駄の台の長軸方向と垂直にならない。
154	下駄	22.0	9.5	3.0	…………	覆土下層	W50	台に別作りの歯をはめ込む。歯を取める溝の中にホゾ穴が穿たれ、差し歯の木口が台上に現れる。
155	下駄	21.6	9.3	2.7	…………	覆土下層	W51	台に別作りの歯をはめ込む。歯を取める溝の中にホゾ穴が穿たれ、差し歯の木口が台上に現れる。
156	下駄	12.4	( 5.6)	2.0	( 3.2)	覆土下層	W52	一枚の厚板から台と歯を削り出す。歯が下駄の台の長軸方向と垂直にならない。
157	杓子	(17.6)	7.5	0.6	…………	床面	W24	
158	曲物底部	直径(23.1)	…………	1.2	…………	床面	W16	側面に4か所釘穴と思われる穿孔痕。

図版番号	器種	計測値					出土層位	整理番号	備考
		口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	高台径(cm)	高台高(cm)			
第13図159	椀	…………	…………	7.8	7.8	1.1	覆土下層	W28	内外面黒漆塗り。
160	椀	…………	…………	6.2	7.1	2.6	覆土下層	W33	内外面黒漆塗り。朱漆で模様が描かれる。
161	椀	[ 12.9]	6.4	7.3	7.3	0.6	覆土下層	W53	内外面黒漆塗り。朱漆で模様が描かれる。

## 第2号堀 (第5・14図)

位置 調査区の南側で確認。

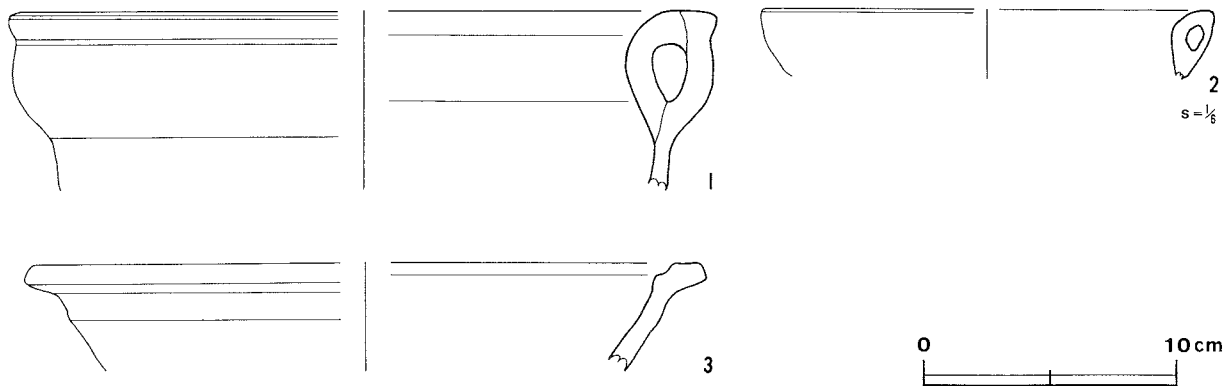
規模と形状 上幅7.6~7.8m, 下幅5.9~6.2m, 深さ0.5~1.1mで, 断面形は「」状を呈していて, 二重構造となっている。壁は45°前後の傾斜で立ち上がっている。

方向 ほぼ東西方向を向く。

覆土 7層から成る。第1層はローム中ブロック微量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量含む暗褐色土層である。第2層はローム大・中・小ブロック多量, 炭化物微量含む褐色土層である。第3層はローム粒子微量, 炭化粒子微量含む黒褐色土層である。第4層はローム粒子を多量に含む褐色土層である。第5層はローム粒子微量, 炭化物微量含む極暗褐色土層である。第6層はローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量, 砂や礫多量含む鈍い褐色土層である。第7層はローム中ブロック中量, 礫少量含む褐色土層である。自然堆積と考えられる。底面は小さめの礫の間に粘土が入り込んでおり, 水が溜まりやすい状態になっている。

遺物 覆土から土師質土器片(皿16片・内耳鍋20片・挿鉢1片), 陶磁器片(5片)が出土している。

所見 本跡は伝わっている古地図などから, 館の中堀の南側部分と考えられ, 出土遺物から15世紀の遺構と思われる。



第14図 第2号堀出土遺物実測図

## 第2号堀出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	内耳鍋 土師質土器	A(28.0) B(7.1)	体部から口縁部片。体部、口縁部は内彎する。口縁部上端は厚みを増して器内方向にわずかにせり出す。口縁部下位(耳下付け根)外面に指頭による窪み。	口縁部内・外面, 体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石 雲母 明赤褐色 普通	P 297 3% 覆土
2	内耳鍋 土師質土器	A(36.0) B(5.5)	体部から口縁部片。体部、口縁部は内彎する。体部と口縁部の境外面に段をもつ。口縁部下位(耳下付け根)外面に指頭による深い窪み。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石 雲母 鈍い赤褐色 普通	P 296 5% 覆土
3	深皿 陶器	A(26.4) B(4.4)	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎しながら口縁部に至る。口縁部上位内面は段が巡り、幅1cmほどの口縁部上端は中央がやや窪む。	釉は内外面に施されているが、部分的に剝離している。	灰白色 (釉)オリブ黄色 普通	P 298 5% 瀬戸産 覆土

## 第3号堀(第5図)

**位置** 調査区の南側, 第2号堀の南側で確認。

**規模と形状** 上幅7.6~8.0m, 下幅5.4~6.0m, 深さ約0.7~1.25mで, 断面形は「└」状を呈している。壁は30°から40°の傾斜で立ち上がっている。

**方向** ほぼ東西方向を向く。

**覆土** 7層から成る。第1層はローム小ブロック微量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量含む暗褐色土層である。第2層はローム中・小ブロック多量, ローム粒子多量, 炭化物微量含む褐色土層である。第3層はローム粒子微量, 炭化粒子微量含む黒褐色土層である。第4層はローム粒子を多量に含む褐色土層である。第5層はローム粒子多量, 炭化物少量, 砂粒・礫多量含む鈍い褐色土層である。第6層はローム粒子多量, 砂多量含む灰褐色土層である。第7層はローム粒子少量, 礫少量含む暗褐色土層である。第3・4層は人為堆積, 第5・6層は自然堆積と考えられる。底面は小さめの礫の間に粘土が入り込んで水が溜まり易い状態になっている。

**遺物** 覆土から土師質土器片(皿3片・内耳鍋1片), 瓦2片が出土している。

**所見** 本跡は伝わっている古地図などから, 館の外堀の南側部分と思われる。

## 2 溝

本遺跡では3条の溝が確認されている。

## 第1号溝(第15図)

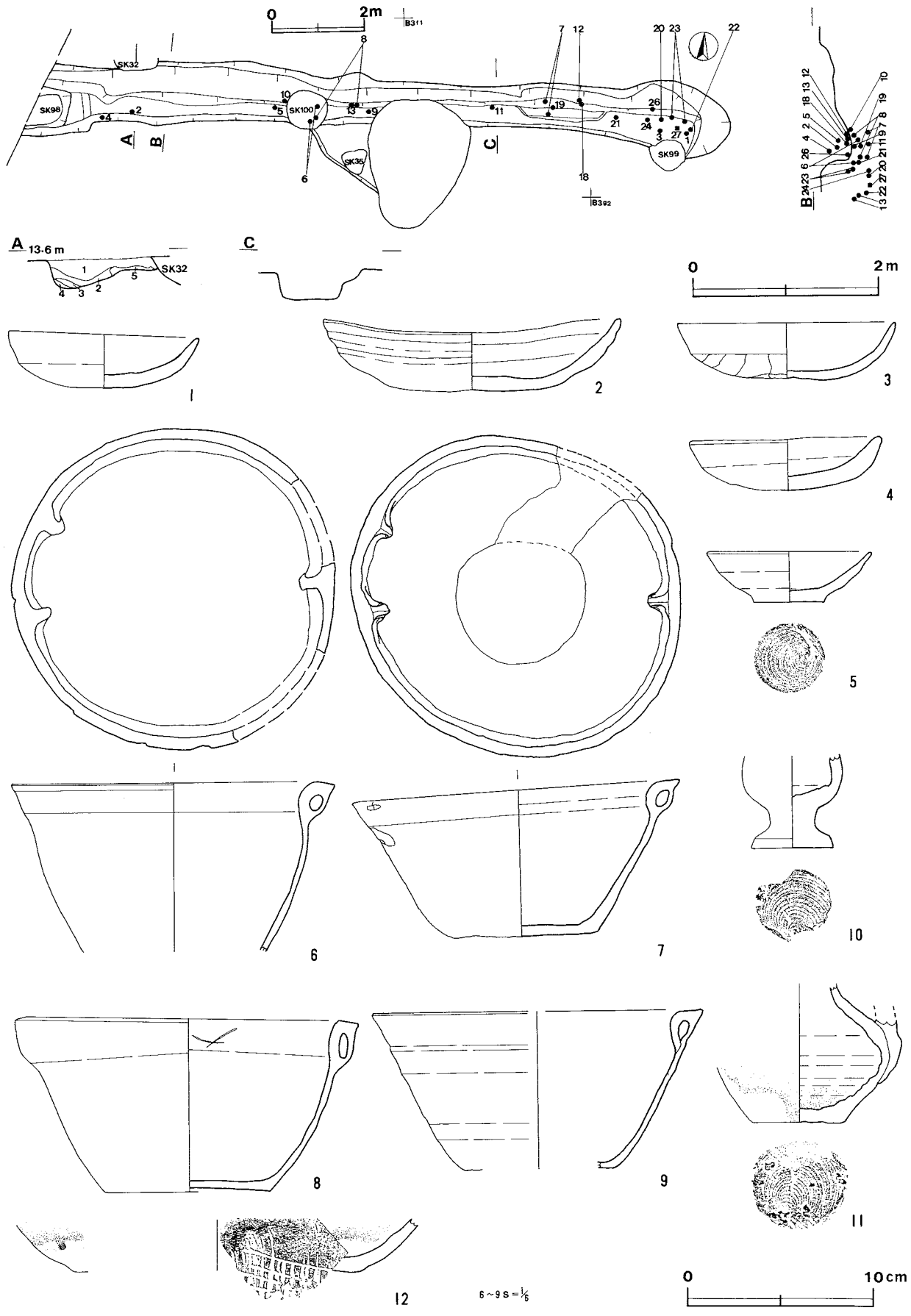
**位置** 調査区の中央部で確認。

**規模と形状** 上幅約0.5~0.6m, 深さ約0.3~0.7mで, 断面形は「└」状を呈している。

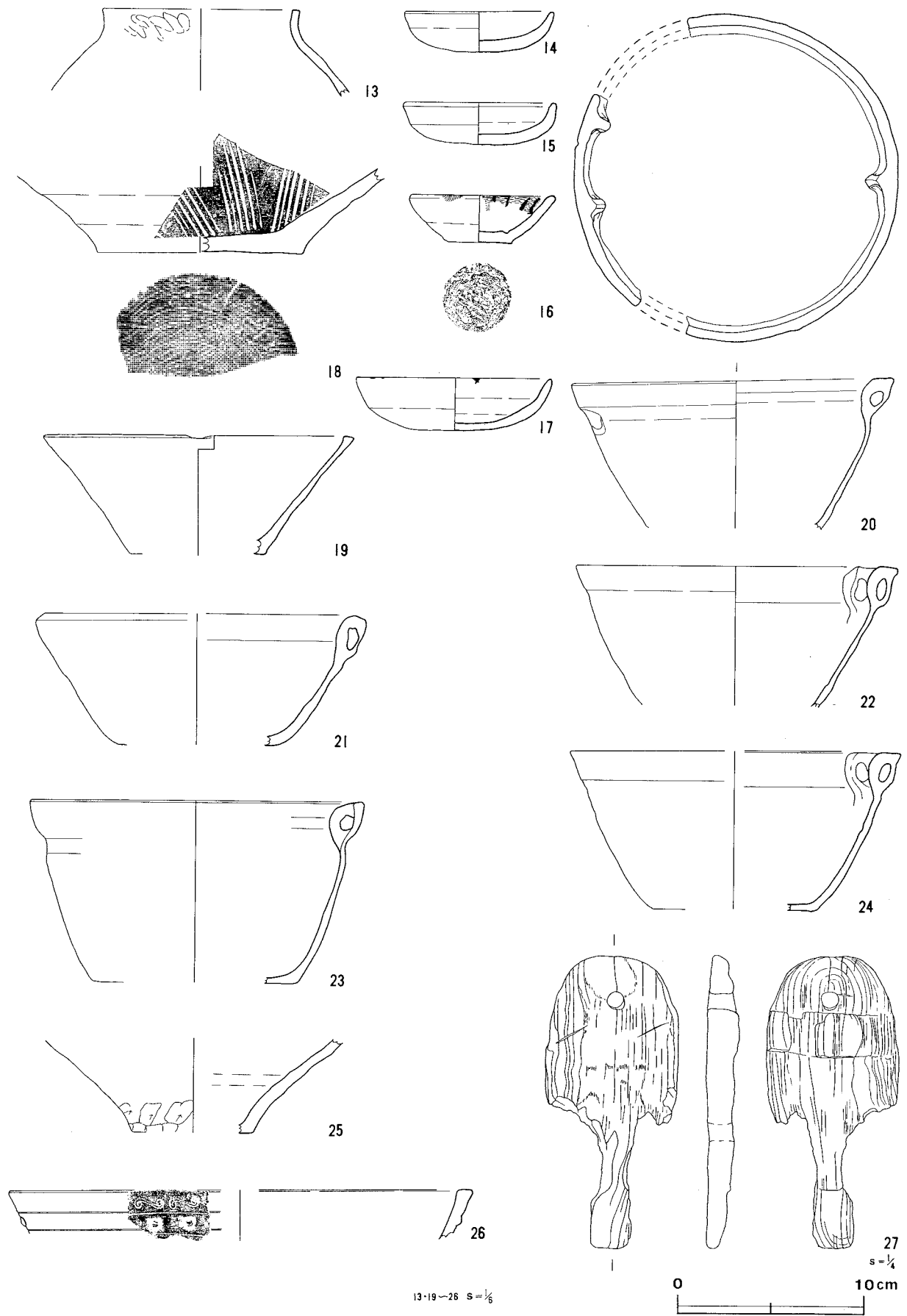
**方向** ほぼ東西方向を向く。

**覆土** 5層から成る。第1層はローム粒子少量, 炭化粒子微量, 粘土小ブロック中量含む褐色土層である。第2層はローム粒子少量, 炭化粒子微量含む黒褐色土層である。第3層はローム粒子多量, 粘土ブロック少量含む褐色土層である。第4層はローム小ブロックを少量含む黒褐色土層である。第5層はローム粒子を多量に含む褐色土層である。自然堆積と考えられる。

**遺物** 覆土から土師質土器片(皿・内耳鍋・播鉢), 陶磁器片が出土している。



第15图 第1号溝実測・出土遺物実測図(1)



第16图 第1号沟出土遗物实测图(2)

所見 本跡は柵列との位置関係や第1号堀に直交すること、室町時代の土師質土器が多量に出土したことなどから、館の区画溝と考えられる。

第1号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第15図 1	皿 土師質土器	A 10.2	口縁部一部欠損。丸底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母スコリア 橙色、普通	P 302 98% 覆土
		B 3.2				
2	皿 土師質土器	A 16.0	底部から口縁部片。丸底。体部・口縁部は緩く内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。口縁部は強い。ナデ調整のために浅い2本の溝を成す。	砂粒・長石・雲母スコリア 鈍い橙色、普通	P 306 45% 覆土
		B 3.9				
3	皿 土師質土器	A 11.8	底部から口縁部片。丸底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面、体部内面ナデ。	砂粒・雲母スコリア 浅黄橙色、普通	P 305 55% 覆土
		B 3.1				
4	皿 土師質土器	A 10.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は緩く内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。器肉が厚め。	口縁部内・外面、体部内面上位ナデ。	砂粒・長石・石英雲母・スコリア 灰白色、普通	P 303 90% 胎土に砂を多く含む、覆土
		B 2.9				
5	皿 土師質土器	A 8.9	口縁部微小欠損。平底。体部は緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母スコリア 橙色 普通	P 300 98% 覆土
		B 2.8				
		C 3.8				
6	内耳鍋 土師質土器	A 35.1	底部欠損。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。口縁部は厚みを増し、わずかに外反する。口縁部(耳下付け根)内面を段が巡る。3耳。	口縁部内面、体部内面上位ナデ。	砂粒・長石・雲母スコリア 赤色 普通	P 314 60% 体部外面低位煤付着 覆土
		B (18.4)				
7	内耳鍋 土師質土器	A 35.0	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、厚みを増して口縁部に至る。口縁部上端は外に向けて水平にわずかにせり出す。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英雲母 橙色 普通	P 312 75% 外面全体煤付着 覆土
		B 16.2				
		C 14.0				
8	内耳鍋 土師質土器	A 37.1	平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は厚みを増して口縁部上端に至る。口縁部(耳下付け根)内面を段が巡る。3耳。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英雲母 鈍い橙色 普通	P 311 85% 口縁部内面に「×」印 覆土
		B 18.4				
		C 17.6				
9	内耳鍋 土師質土器	A (35.7)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、厚みをわずかに増して口縁部に至る。耳数不明。	口縁部内・外面、体部内面ナデ。	砂粒・長石・石英雲母 赤褐色、普通	P 316 40% 外面全体煤付着 覆土
		B 17.1				
		C (16.1)				
10	花瓶 陶器	B (5.0)	底部から口縁部片。平底。体部はしぼり込むように内彎してから反転して円を描くようにして上に続く。	水挽き成形。底部回転糸切り。外面は底部を除いて釉が施されている。内面は一部露胎している。	灰色 (釉)灰オリーブ色 普通	P 216 30% 覆土
		C 4.5				
11	水滴器 陶器	B (7.5)	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、体部中で大きく内彎して口縁部に至る。注ぎ口、把手欠損。	水挽き成形。底部回転糸切り。外面は底部と体部下位を除いて釉が施されている。内面は全体に釉が施されているが所々露胎している。	灰色 (釉)灰オリーブ色 普通	P 326 40% 覆土
		C 5.0				
12	卸陶 皿器	B 2.8	底部から体部片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。底部内面に網目状に櫛目が施されている。	水挽き成形。底部回転糸切り。外面の底部と体部下位を除いて釉が施されている。	灰色 (釉)オリーブ灰色 普通	P 325 2% 覆土
		C 15.5				
第16図 13	鍋 土師質土器	A (21.2)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部はわずかに外反しながら垂直方向に立ち上がる。	口縁部外面を調整のための指頭圧痕が巡る。	砂粒・石英・雲母スコリア 褐色、普通	P 321 5% 体部外面煤付着 覆土
		B (9.4)				
14	皿 土師質土器	A 8.0	口縁部部分的に欠損。丸底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。	雲母・スコリア 浅黄橙色、普通	P 307 70% 覆土
		B 2.2				
15	皿 土師質土器	A 8.3	底部から口縁部片。丸底(平底気味)体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は垂直に立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・雲母スコリア 普通	P 308 60% 覆土
		B 2.4				
16	皿 土師質土器	A 7.7	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに内彎する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 普通	P 310 95% 口縁部煤付着 覆土
		B 2.6				
		C 3.5				
17	皿 土師質土器	A 10.5	底部から口縁部片。丸底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英雲母・スコリア 淡橙色、普通	P 304 60% 覆土
		B 2.9				
18	播鉢 陶器	B (4.7)	底部から体部片。体部は直線的に外傾する。体部内面には6本単位の櫛目が施されている。	体部内面ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英 鈍い橙色 良好	P 324 15% 覆土
		C (11.0)				
19	播鉢 土師質土器	A (33.4)	底部から口縁部片。体部、口縁部は直線的に外傾する。口縁部はわずかに厚みを増す。	口縁部内・外面ナデ。体部内面ナデ。体部内面には2本単位の櫛目が施されている。	長石・石英・雲母スコリア 鈍い橙色、普通	P 320 40% 覆土
		B 17.9				
		C (14.4)				
20	内耳鍋 土師質土器	A 34.4	底部欠損。体部、口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。口縁部上端は厚みを増す。3耳。	口縁部内・外面、体部内面ナデ。	砂粒・長石・石英雲母・スコリア 明赤褐色、普通	P 315 60% 外面全体煤付着 覆土
		B 16.0				
		C 18.0				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
21	内耳鍋 土師質土器	A [35.6] B 14.2 C [17.0]	底部から口縁部片。体部、口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。口縁部上端は内側にせり出す。	口縁部内・外面。体部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 鈍い橙色、普通	P 317 50% 体部外面薄く煤付着、覆土
22	内耳鍋 土師質土器	A 34.7 B [15.0]	底部欠損。体部、口縁部は直線的に外傾する。		砂粒・雲母 スコリア 橙色、普通	P 317 50% 体部外面煤付着 覆土
23	内耳鍋 土師質土器	A [36.0] B 19.2 C [22.0]	底部から口縁部片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部との境にくびれをつくり、厚みを増して口縁部上端に至る。	口縁部内・外面。体部内面横ナデ。	砂粒・石英 スコリア 鈍い橙色 普通	P 319 45% 体部外面煤付着 覆土
24	内耳鍋 土師質土器	A [35.7] B 19.2 C [17.4]	底部から口縁部片。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。口縁部上端は外側にわずかにせり出す。	口縁部内・外面。体部内面横ナデ。	砂粒・雲母 スコリア 鈍い褐色 普通	P 313 60% 体部外面煤付着 覆土
25	甕 陶器	B (10.2) C [13.0]	底部から体部片。体部は外反しながら立ち上がる。	腰部下位ヘラナデ。	長石・石英 スコリア 赤色、普通	P 328 10% 常滑産 覆土
26	火鉢 土師質土器	A [50.0] B ( 5.4)	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎しながら口縁部に至る。2本の沈線と、粘土貼り付け後竹管で押し成形した突起帯と、蕨模様が体部上位と口縁部を巡る。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・石英・雲母 スコリア 橙色 普通	P 323 3% 覆土

図版番号	器種	計測値				出土層位	整理番号	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	最大高(cm)			
27	下駄	21.0	9.5	2.3	………	覆土下層	W46	1枚の材から削り出している。

## 第2号溝（第17図）

位置 調査区の中央部で確認。

規模と形状 上幅約2.0m、深さ約0.6mで、断面形は「┌」状を呈している。

方向 ほぼ東西方向を向く。

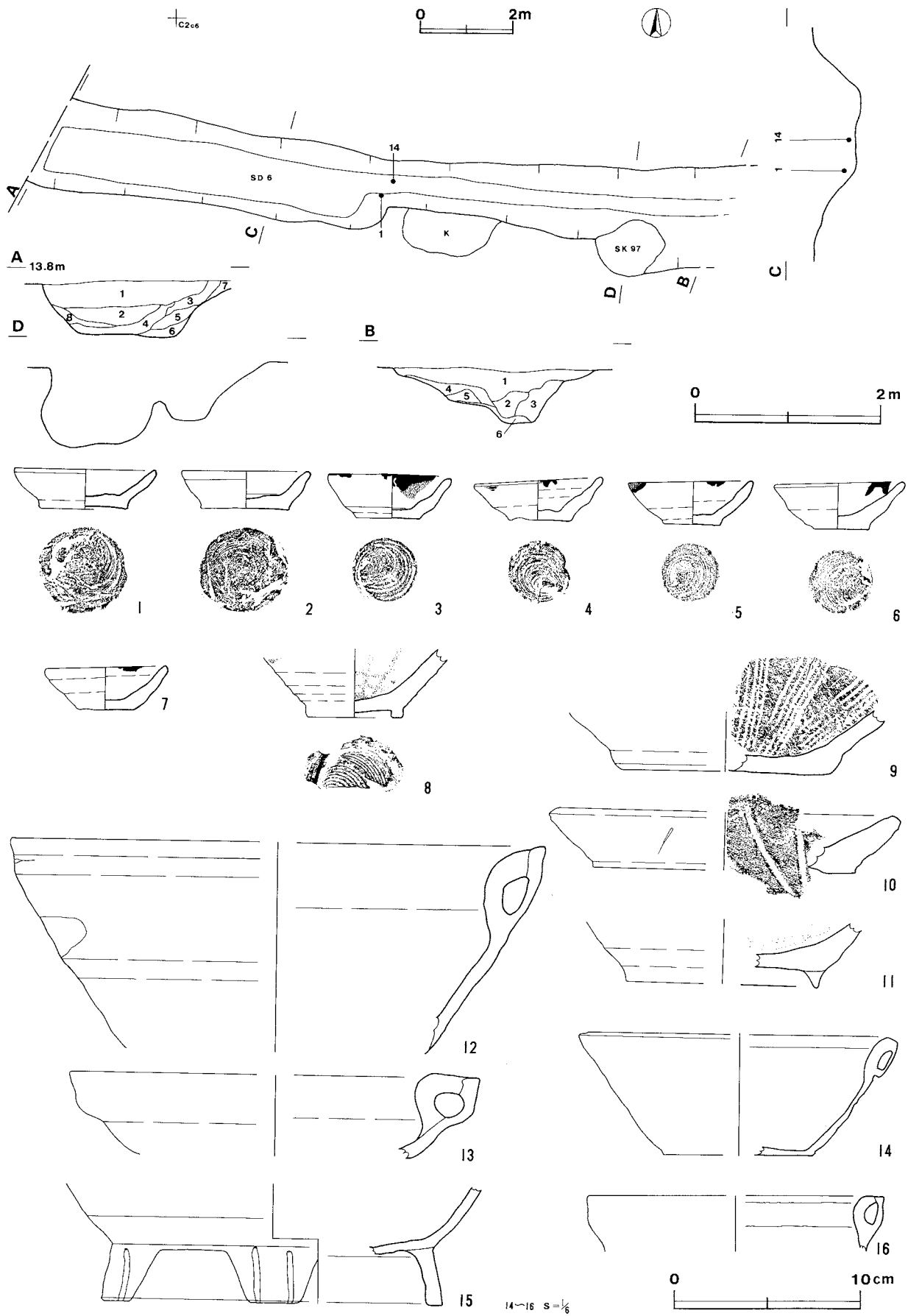
覆土 8層から成る。第1層はローム粒子を中量含む褐色土層である。第2層はローム中ブロック中量、ローム粒子多量、炭化物少量含む黒褐色土層である。第3層はローム粒子中量、炭化粒子微量含む暗褐色土層である。第4層はローム中ブロック中量、ローム粒子多量、炭化物多量に含む黒褐色土層である。第5層はローム中ブロック中量、ローム粒子多量、炭化粒子微量含む暗褐色土層である。第6層はローム中ブロック中量、ローム粒子多量、炭化粒子微量含む暗褐色土層である。第7層はローム大ブロック多量、ローム粒子多量含む明褐色土層である。第8層はローム大・中ブロック中量、ローム粒子中量、炭化物中量含む褐色土層である。自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿・内耳鍋・播鉢）が多量に出土している。

所見 本跡は柵列との位置関係や第1号堀に直交すること、室町時代の土師質土器が多量に出土したことなどから、館の区画溝と考えられ、時期は15世紀と思われる。

## 第2号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第17図 1	皿 土師質土器	A 7.8 B 2.2 C 4.7	口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。口縁部径に比して底部径が大きく器高が低い。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英 雲母 橙色 普通	P 330 75% 覆土
2	皿 土師質土器	A 7.0 B 2.1 C 4.8	口縁部一部欠損。平底。口縁部は直線的に外傾する。口縁部径に比して底部径が大きい。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英 雲母 灰白色、普通	P 331 95% 覆土中層
3	皿 土師質土器	A 6.7 B 2.3 C 3.5	平底。体部は膨らみをもってわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 スコリア 淡黄色、普通	P 332 100% 覆土



第17图 第2号溝・実測出土遺物実測図



図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	皿 土師質土器	A 7.0 B 2.4 C 3.3	口縁部一部欠損。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。体部下位がやや膨らみをもつ。造りが雑。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・スコリア 淡橙色 普通	P 333 98% 口縁部煤付着 覆土中層
5	皿 土師質土器	A 6.8 B 2.5 C 3.0	口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 スコリア 赤褐色、普通	P 334 85% 口縁部煤付着 覆土
6	皿 土師質土器	A 7.1 B 2.7 C 3.0	体部、口縁部一部欠損。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。体部下位外面が膨らむ。	水挽き成形。底部回転糸切り。	雲母・スコリア 橙色 普通	P 335 70% 覆土
7	皿 土師質土器	A 6.6 B 2.5 C 3.1	口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 スコリア 橙色、普通	P 336 80% 覆土
8	高台付碗 陶器	B(3.2) C(5.1)	高台部から体部片。平底。高台部は短く垂直に着く。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。	底部回転糸切り。底部から体部下位内面には釉が施されている。外面は露胎している。付け高台。	灰白色 (釉)浅黄色 普通	P 346 15% 瀬戸灰釉平碗 覆土
9	播鉢 土師質土器	C(11.3)	底部から体部片。平底。体部はわずかに外傾しながら立ち上がる。	体部内面には5本単位の櫛目が施されている。	砂粒・長石・石英 雲母 褐灰色、普通	P 342 5% 覆土
10	播鉢 土師質土器	A(8.8) B(3.4)	底部から体部片。平底。体部は外傾しながら立ち上がる。	体部内面には1本単位の櫛目が疎に施されている。	砂粒・長石・石英 スコリア 明赤褐色、普通	P 344 5% 覆土
11	高台付碗 陶器	B(9.0) C(2.7)	高台部から体部片。平底。高台部は短い三角高台。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。	底部内面に灰釉が施される。	灰色 (釉)オリーブ灰色 普通	P 347 5% 瀬戸灰釉碗 覆土
12	内耳鍋 土師質土器	A(28.9) B(11.4)	底部から口縁部片。平底。体部、口縁部はわずかに内彎する。器内が薄い。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母 鈍い赤褐色、普通	P 338 8% 覆土
13	内耳鍋 土師質土器	A(22.2) B(4.5)	口縁部片。口縁部はわずかに内彎する。耳部は比較的小さめである。	口縁部内面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母・スコリア 赤褐色、普通	P 340 10% 覆土
14	内耳鍋 土師質土器	A(34.4) B 13.1 C(16.2)	底部から口縁部片。平底。体部、口縁部は直線的に外傾する。口縁部上端は内側に向かってややせり出す。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・雲母 スコリア 鈍い赤褐色、普通	P 337 40% 覆土
15	火鉢 土師質土器	B 12.9 D 37.0 E 6.3	脚部から体部片。脚部はわずかに内彎しながら外に開く。脚部外面にはへら先状のものでつけた2本の沈潜が施されている。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部、底部内面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母 褐灰色 普通	P 345 10% 覆土
16	内耳鍋 土師質土器	A(32.0) B(6.0)	口縁部片。口縁部はわずかに内彎する。口縁部上端は厚みを増して内側にわずかにせり出す。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・雲母 スコリア 橙色、普通	P 341 5% 覆土

### 第3号溝 (第5図)

位置 調査区の南端部で確認。第2号堀と第3号堀との間に位置する。

規模と形状 上幅1.10m～1.20m、深さ約0.70mで、断面形は「┌」状を呈している。

方向 ほぼ東西方向を向く。

覆土 7層から成る。第1層はローム小ブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量含む暗褐色土層である。第2層はローム中・小ブロック多量、ローム粒子多量、炭化物微量含む褐色土層である。第3層はローム粒子微量、炭化粒子微量含む黒褐色土層である。第4層はローム粒子多量、粘土粒子多量、砂粒多量含む褐色土層である。第5層はローム粒子多量、炭化物少量、砂粒・礫多量含む鈍い褐色土層である。第6層はローム粒子を少量含む灰褐色の粘土層である。第7層はローム粒子を少量含む暗褐色土層である。自然堆積と考えられる。

遺物 遺物は出土していない。

所見 本跡は第2・3号堀と平行していることから、それらと関わりのある施設で、同時期の構築物と考えられるが、性格は不明である。

### 3 掘立柱建物跡

本遺跡では4棟の掘立柱建物跡が確認されている。

#### 第1号掘立柱建物跡（第18図）

位置 調査区の北寄り，第1号溝（SD-5）の北側，B2e0区を中心に確認。

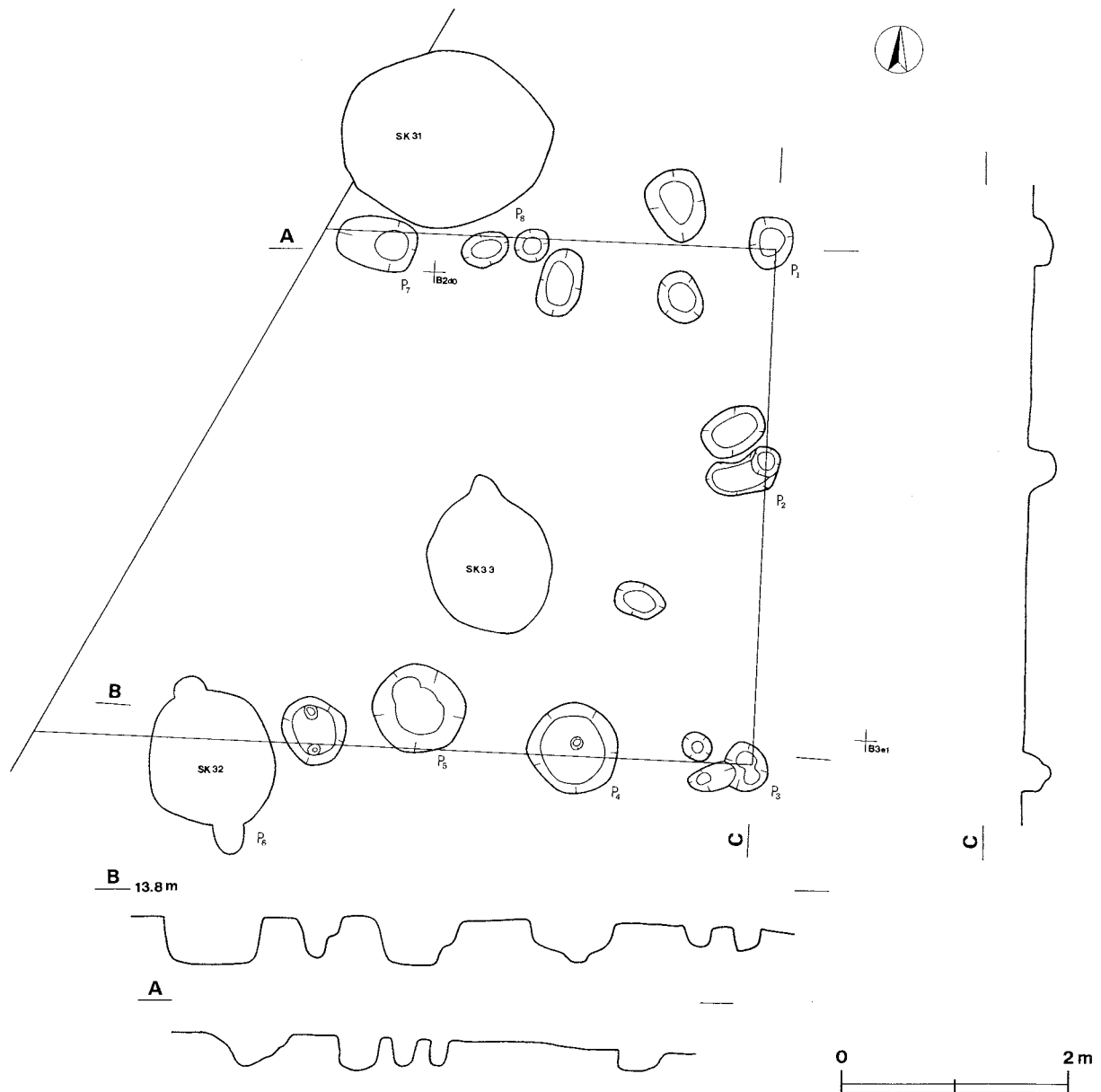
規模 遺構が調査区外まで伸びているので東西の間数は確認できない。南北2間。柱間寸法は，桁行1.5m～2.0m，梁行き2.5mである。柱穴の深さは30～40cmである。

長軸方向 N-88°-E。

覆土 不明

遺物 柱穴から，土師質土器片（皿6片・内耳鍋1片・播鉢3片・甕1片）が出土している。

所見 長軸方向が第1号溝と平行であり，第1号掘と直行する位置関係にあることから，建物の1つであったと考えられる。



第18図 第1号掘立柱建物跡・実測図

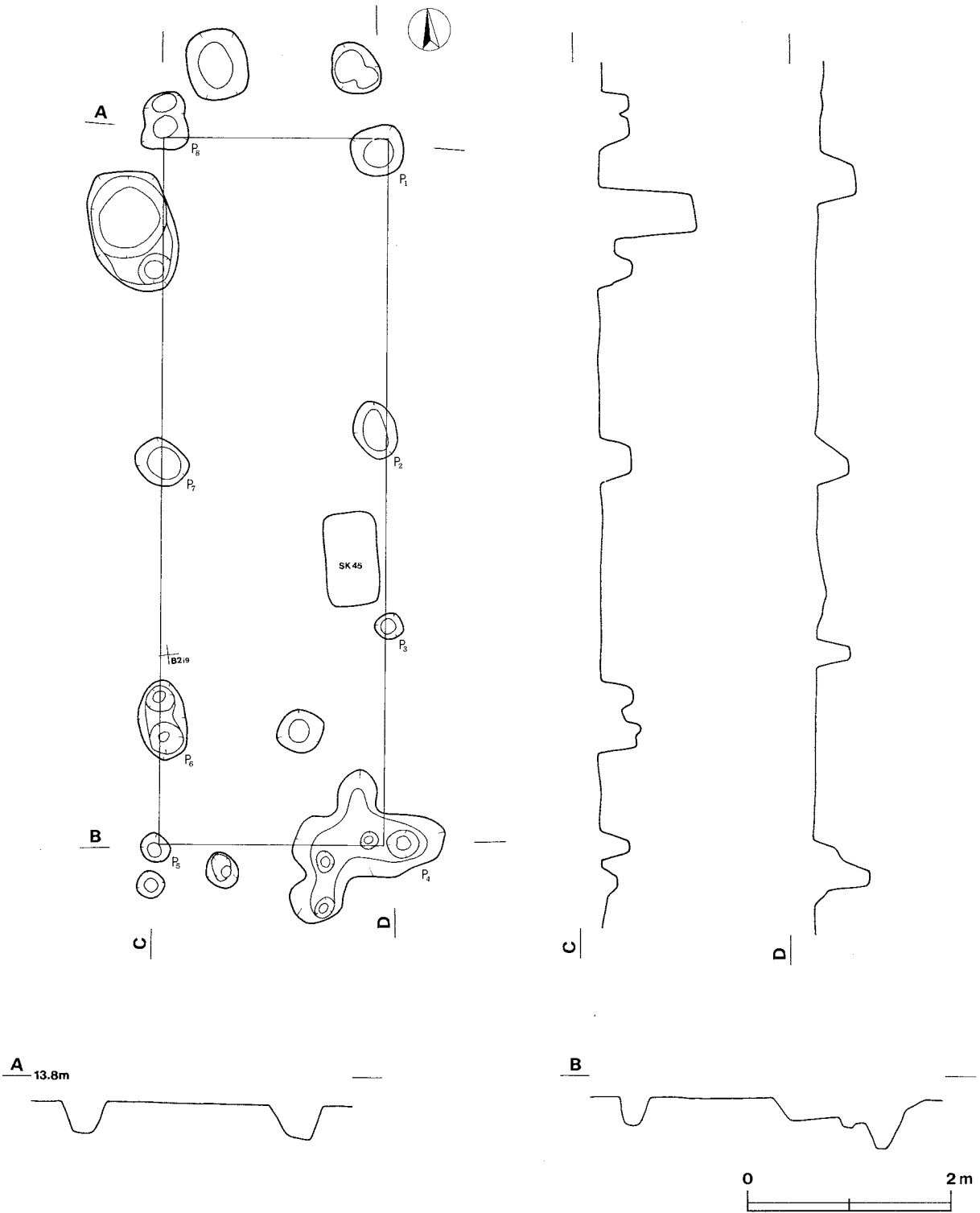
第2号掘立柱建物跡 (第19図)

位置 調査区の北寄り, 第1号溝 (SD-5) の南側, B2h9区を中心に確認。

規模 東西1間, 南北3間。柱間寸法は, 桁行2.2m~2.3m, 梁行き2.3m~3.3mで, 柱穴の深さは0.3m~1.0mである。ピット2か所から, 根堅めに用いたと思われる20cm大の石が出土している。

長軸方向 N-8°-E。

覆土 不明



第19図 第2号掘立柱建物跡・実測図

遺物 柱穴から土師質土器片（皿15片・内耳鍋7片・鉢1片）が出土している。

所見 建物の長軸方向は第1・第2号溝，第1号柵列と直行し，第1号堀や第2号柵列と平行な位置関係にあることから，堀や柵列と同時期に存在したものと考えられる。

### 第3号掘立柱建物跡（第20・21図）

位置 調査区の中央部，第2号溝（SD-6）の北側，C2a8区を中心に確認。

規模 東西3間，南北2間の建物で，柱間寸法は桁行き1.0mから2.9m，梁行2.2～2.5mである。柱穴の深さは30～50cmで在る。

長軸方向 N-82°-E。

覆土 不明

遺物 柱穴から土師質土器片（皿1片・内耳鍋8片・播鉢1片）が出土している。

所見 建物は長軸が第2号溝と平行で，第1号堀と直行する形で位置していることから，この堀や溝と同じ時期に存在したものと考えられる。

### 第4号掘立柱建物跡（第21図）

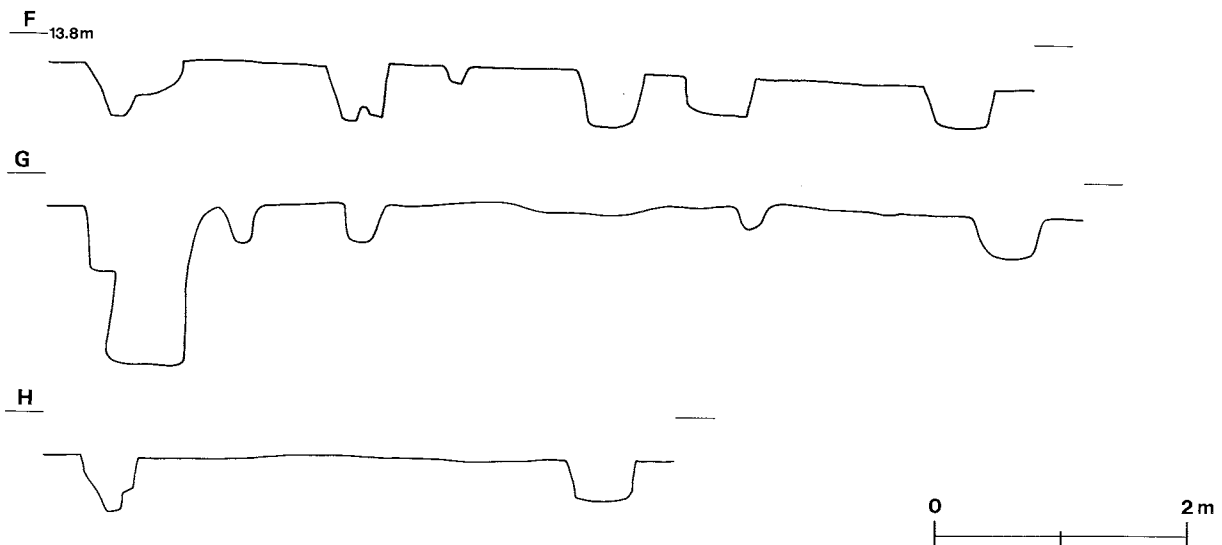
位置 調査区の北寄り，第2号溝（SD-6）の北側，C2a9区を中心に確認。

規模 東西3間，南北1間の建物で，柱間寸法は桁行き2.0～2.7m，梁行3.8mほどである。柱穴の深さは40～60cmである。

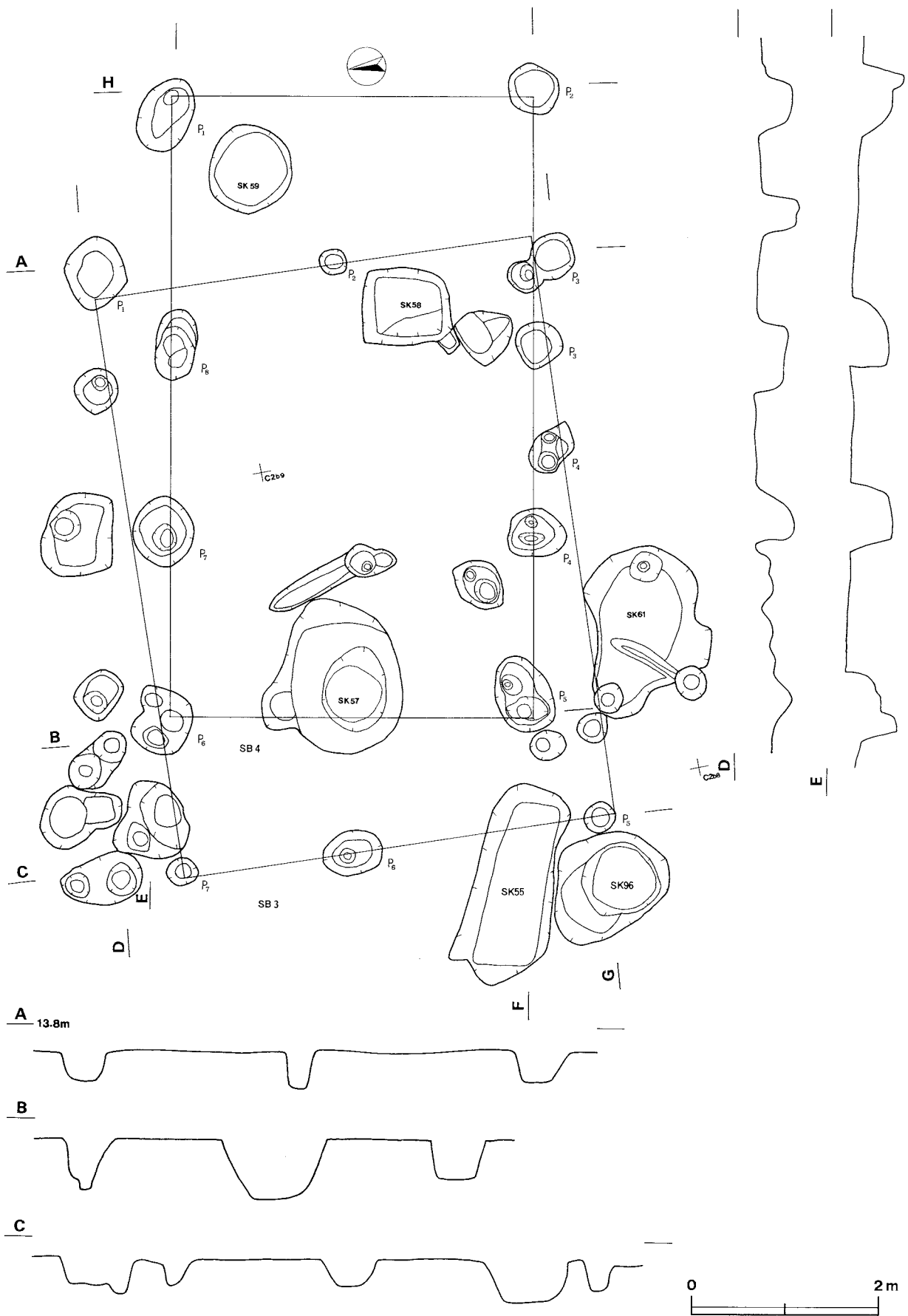
長軸方向 N-80°-E。

覆土 不明

所見 本跡は第3号掘立柱建物跡と位置が重複している。この建物跡も堀や溝，柵列との位置関係から同時期と考えられる。



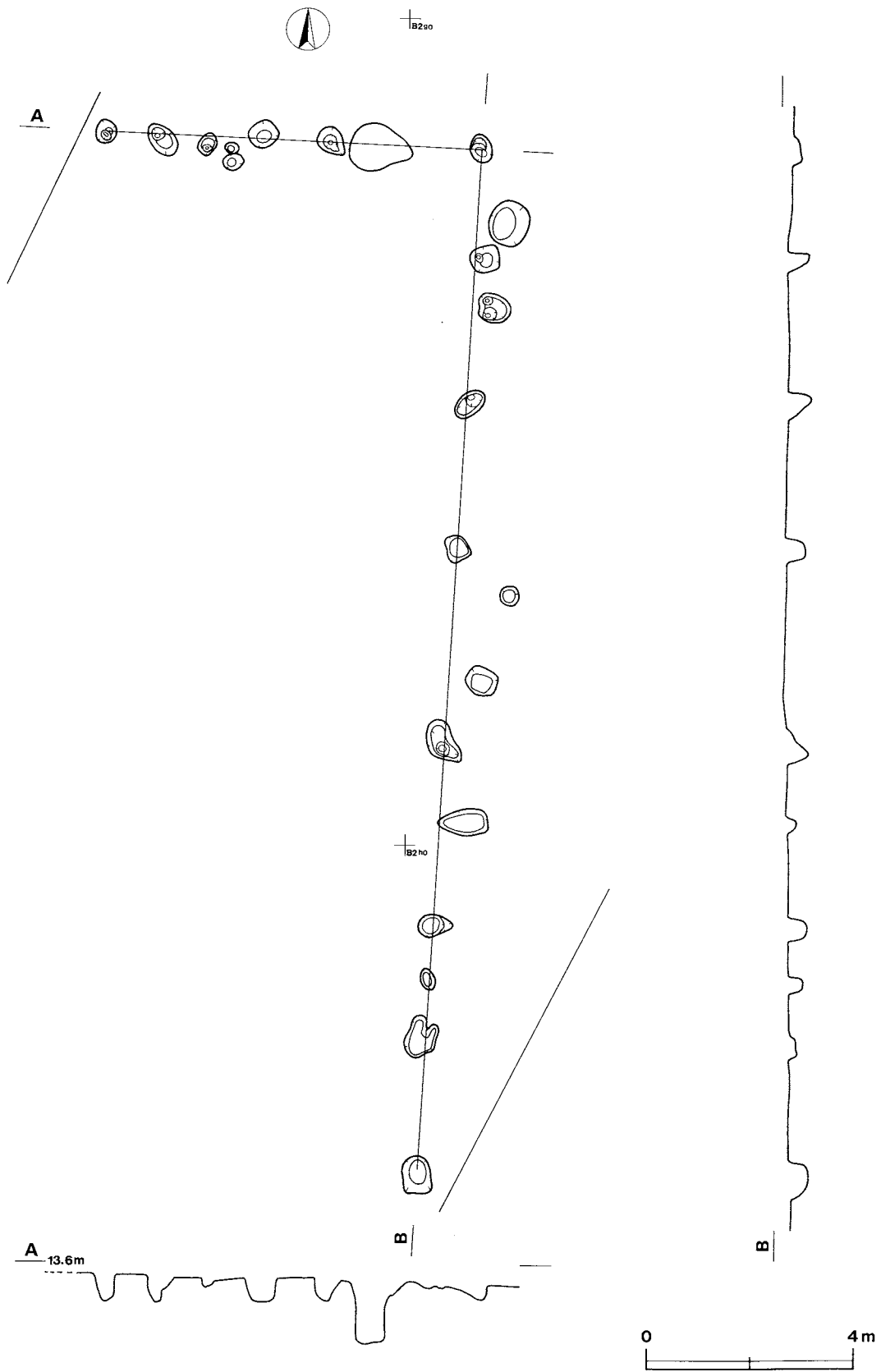
第20図 第3号掘立柱建物跡・実測図



第21图 第3・4号掘立柱建物跡・実測図

4 柵 列

第 1 号柵列 (第 22 图)



第 22 图 第 1 · 2 号柵列实测图

位置 調査区中央北寄り，第1号溝（SD-5）と第2号溝（SD-6）の間で確認。

規模 直線上に，6か所のピット（P1～P6）が確認された。柱間の寸法は1.0mから2.0mで，西に向かって伸びている。

方向 N-86°-W。

覆土 不明

所見 本跡は1本柱のもので，第1号溝（SD-5）と第2号溝（SD-6）に平行に，第1号堀（SD-1）に直交するように構築されている。また，第2号柵列とも直交するように位置している。これらの溝や堀，柵列に囲まれるように，第2号～第4号掘立柱建物跡が配置されており，これらは同じ時期に機能していたものと思われる。

### 第2号柵列（第22図）

位置 調査区の中央部，平行に走る第1号溝（SD-5）と第2号溝（SD-6）と直角に間を繋ぐ形で位置する。第1号溝（SD-5）と第2号溝（SD-6）と第2号柵列が取り囲むように第2号～第4号掘立柱建物跡が確認されている。

規模 直線上に10か所のピット（P1～P10）が確認されている。柱間の寸法は1.1m～3.9mで，北から南へ伸びている。

方向 N-3°-E。

覆土 不明

所見 本跡は，第1号堀に平行に，第2号～第4号掘立柱建物跡の前面に位置していることから，これらと同じ時期に機能していたものと考えられる。

## 5 土 坑

小泉館跡では，調査区全域で111基の土坑が確認されている。土坑は形や大きさ，出土する遺物の数や種類なども様々である。土坑の分布状況を見ると，密に存在するのは第1号溝と第2号溝が平行して並ぶ周辺で，この地区の土坑は壁の立ち上がりや床面の形状がしっかりしていて，遺物を伴うものが多い。

ここでは，遺物の出土した土坑について解説を加え，その他の土坑については一覧表にまとめ，実測図を示した。

### 第3号土坑（第23図）

位置 調査区の北側，A3g5区を中心に確認。

規模と平面形 長径0.70m，短径0.65mの円形で，深さは0.40mである。

長径方向 N-81°-E。

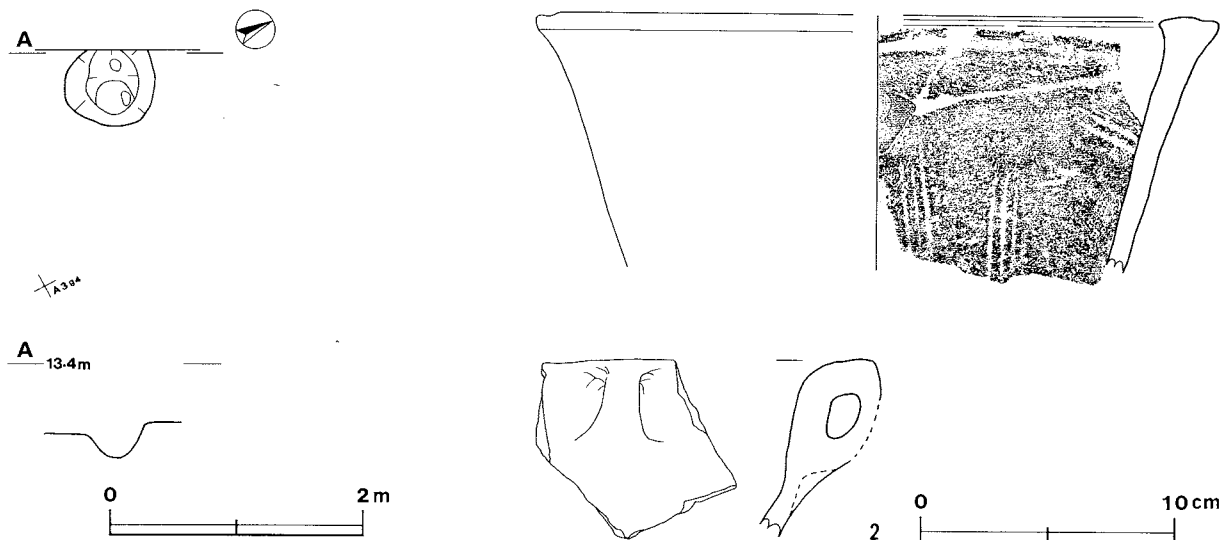
壁面 内彎しながら立ち上がる。

底面 皿状である。

覆土 黒色土で自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿8片・内耳鍋4片・甕1片・播鉢1片）が出土している。皿8片は丸底皿片。

所見 時期，性格は不明である。



第23図 第3号土坑実測出土遺物・実測図

第3号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第23図 1	播鉢 土師質土器	A(27.0) B(10.5)	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口縁部上端は厚みを増して器内方向へせり出している。	体部内・外面ナデ。体部内面には4本単位の櫛目が施されている。	砂粒・長石・石英 雲母・スコリア 鈍い黄橙色 普通	P 2 10% 覆土
2	内耳鍋 土師質土器	B(7.1)	口縁部片。口縁部は内彎しながら立ち上がる。口縁部(耳下付け根外面)に指頭圧痕による窪みが見られる。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 鈍い橙色、普通	P 1 5% 外面全体煤付着 覆土

第6号土坑（第24図）

位置 調査区の北側、A3g4区を中心に確認。

規模と平面形 長径6.50m、短径3.15mの不整楕円形で、深さは0.80mである。

長径方向 N-66°-E。

壁面 内彎しながら立ち上がる。

底面 凹状である。

覆土 暗褐色土で自然堆積と考えられる。

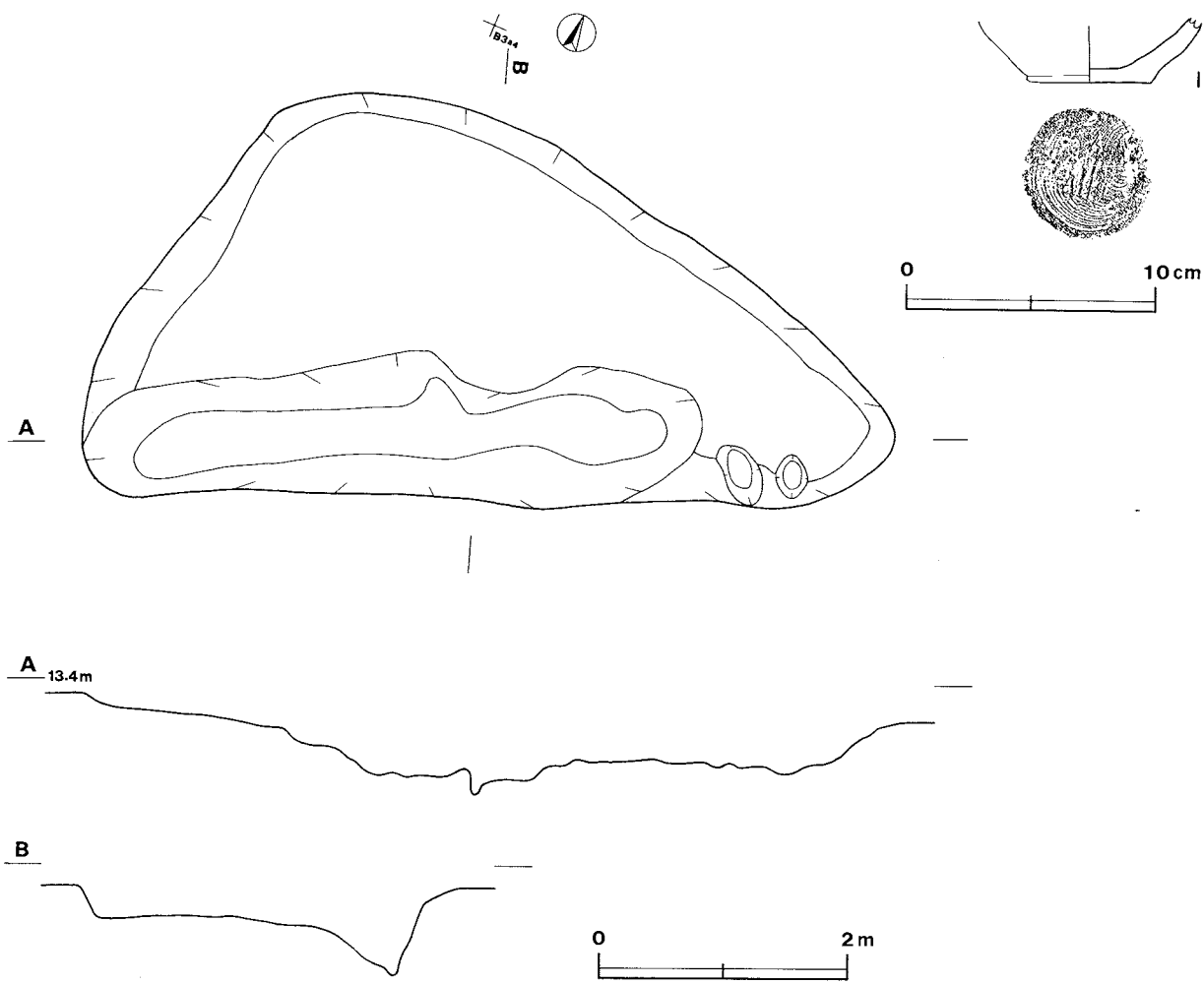
遺物 覆土から土師質土器片（皿1片・内耳鍋3片・甕1片）が出土している。皿1片は平底皿片。

所見 出土遺物から15世紀の遺構と考えられる。

第6号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第24図 1	皿 土師質土器	B(2.6) C 4.9	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石 灰黄褐色 普通	P 3 50% 覆土上層





第24図 第6号土坑実測図・出土遺物実測図

第8号土坑（第25図）

位置 調査区の北側，A3c4区を中心に確認。

規模と平面形 長径5.45m，短径2.30mの不整楕円形で，深さは0.85mである。

長径方向 N-12°-E。

壁面 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

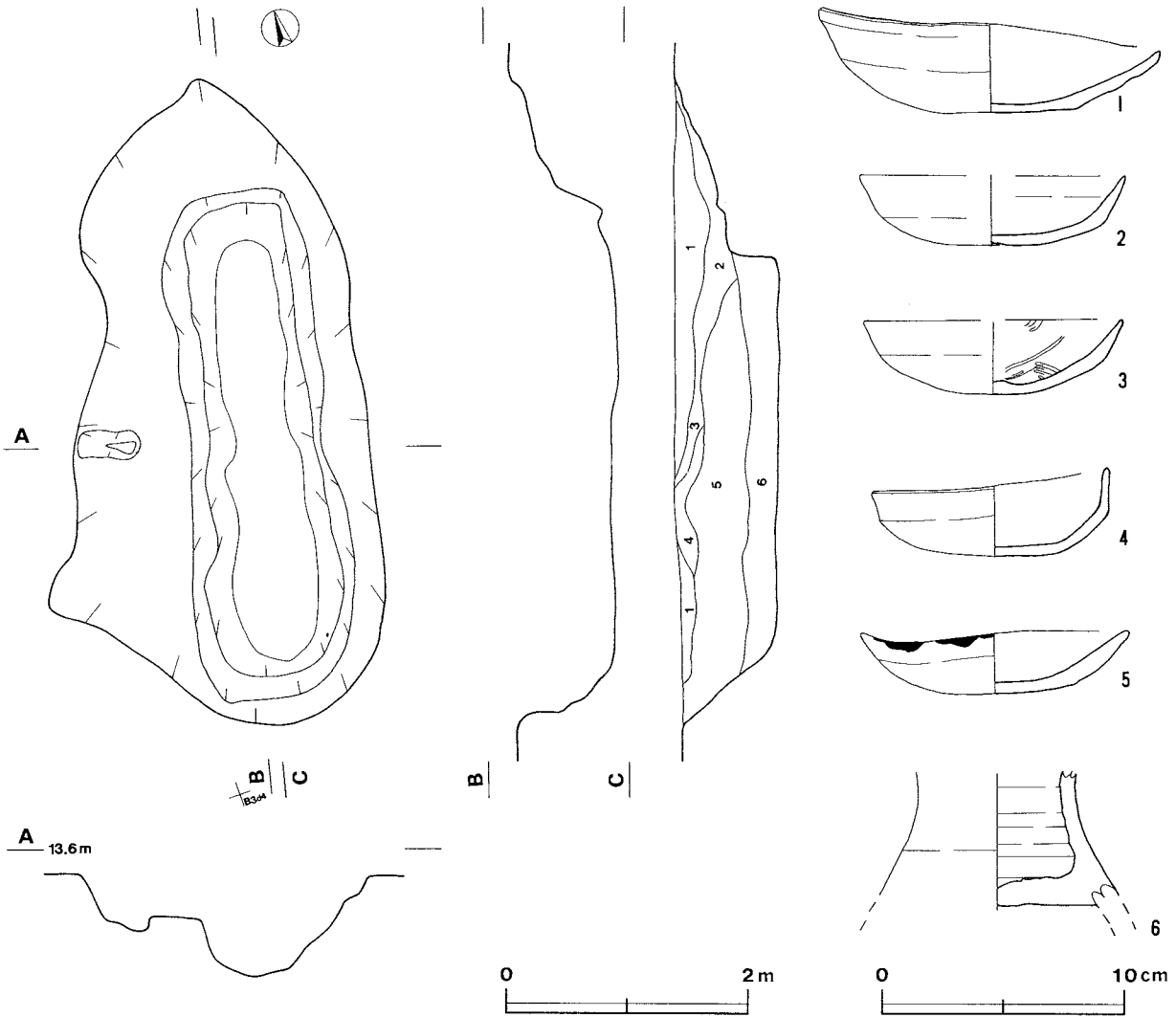
覆土 6層から成る。第1層はローム粒子少量，粘土小ブロック少量含む黒褐色土層である。第2層は粘土中・大ブロックを中量含む黒褐色土層である。第3層は粘土粒子を多量に含む黒褐色土層である。第4層は粘土粒子を中量含む黒褐色土層である。第5層は粘土ブロックを少量含む黒色土層である。第6層は粘土中ブロックを中量含む黒褐色土層である。主に第5層から遺物が出土している。人為堆積と考えられる。

遺物 覆土下層から土師質土器片（皿45片），常滑陶器片（甕2片），瀬戸陶器片（碗1片・花瓶1片），木製椀片（1片）が出土している。皿45片はほとんどが丸底皿片である。

第8号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第25図 1	皿 土師質土器	A 14.2 B 4.5	口縁部一部欠損。丸底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面ナデ。底部，体部内面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母 褐色，普通	P 4 75% 覆土上層

所見 丸底皿片の出土状況から、13~14世紀の遺構と考えられるが、性格は不明である。



第25図 第8号土坑実測図・出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
2	皿 土師質土器	A (10.5) B 2.9	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面ナデ。体部内面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母 鈍い橙色、普通	P 5 50% 覆土中層
3	皿 土師質土器	A 10.8 B 3.1	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面ナデ。体部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 灰白色、普通	P 6 60% 覆土下層
4	皿 土師質土器	A 9.9 B 3.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母 スコリア 浅黄橙色、普通	P 7 95% 覆土中層
5	皿 土師質土器	A 11.1 B 2.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面ナデ。体部内面ナデ。	砂粒・雲母 スコリア 浅黄橙色、普通	P 8 90% 口縁部煤付着 覆土
6	花 陶 瓶 器	B (5.5)	底部から胴部片。平底。胴部下位は内傾したのち外彎する。	水挽きロクロ成形。底部回転糸切り。	灰白色 (釉)オリーブ灰色 良好	P 9 10% 瀬戸産 覆土

### 第12号土坑（第26図）

位置 調査区の北側，B3d3区を中心に確認。

規模と平面形 長径 0.95m，短径0.80mのほぼ円形で，深さは 0.45mである。

長径方向 N-88°-E。

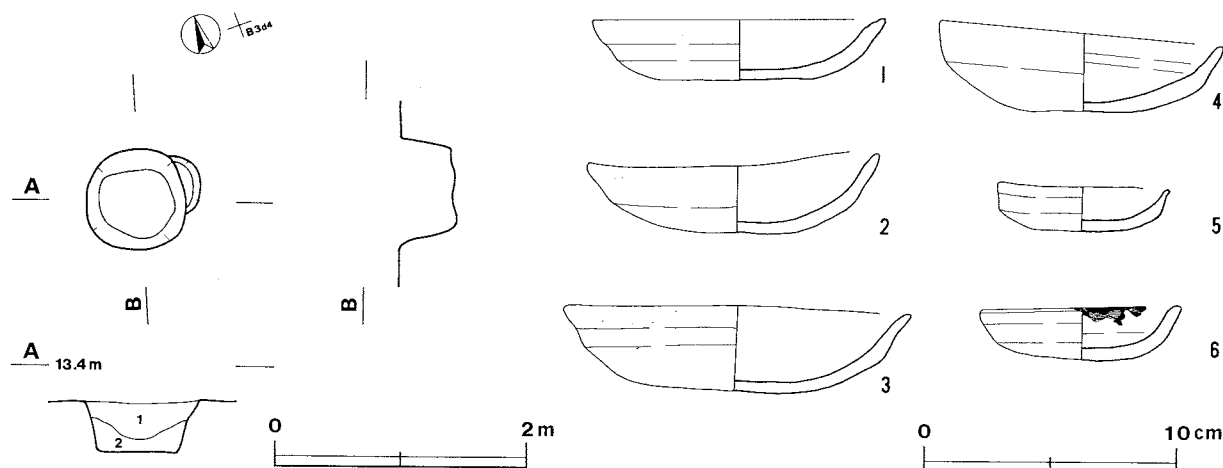
壁面 外傾しながら立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 黒褐色土で自然堆積と考えられる。

遺物 覆土下層から土師質土器片（皿16片）が出土している。

所見 出土遺物から13～14世紀の遺構と思われる。



第26図 第12号土坑実測図・出土遺物実測図

#### 第12号土坑遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第26図 1	皿 土師質土器	A 11.4 B 2.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面ナデ。体部，底部内面ナデ。	砂粒・長石・石英 スコリア 浅黄橙色，普通	P 18 95% 覆土
2	皿 土師質土器	A 11.6 B 3.2	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面ナデ。体部，底部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 鈍い黄橙色，普通	P 19 100% 口縁部煤付着 覆土
3	皿 土師質土器	A 13.8 B 3.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部，底部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 鈍い黄橙色，普通	P 20 70% 覆土
4	皿 土師質土器	A 11.4 B 3.6	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面ナデ。体部，底部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 浅黄橙色，普通	P 21 55% 覆土
5	皿 土師質土器	A 6.8 B 1.8	口縁部一部欠損。丸底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，口縁部は垂直に近い角度で立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部，底部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 灰白色，普通	P 22 80% 底部，体部内面に 墨書，覆土
6	皿 土師質土器	A 8.0 B 2.3	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。大きさに比して厚みがある。	口縁部内・外面ナデ。体部，底部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 浅黄橙色，普通	P 23 100% 口縁部煤付着 覆土

### 第13号土坑（第27図）

位置 調査区の北側，B3c3区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.50m，短径0.90mの楕円形で，深さは0.90mである。

長径方向 N-18°-E。

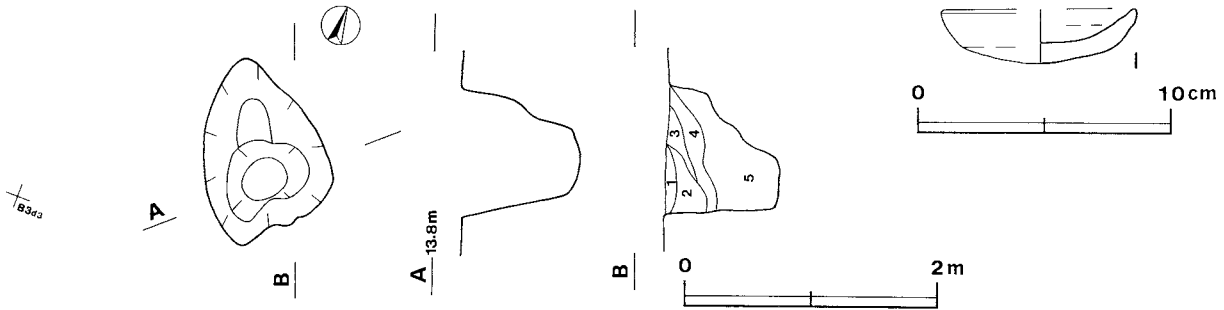
壁面 垂直に立ち上がる。

底面 皿状である。

覆土 5層から成る。第1層は粘土粒子を微量含む黒褐色土層である。第2層は炭化物少量，粘土小・中ブロック多量含む黒褐色土層である。第3層は粘土小ブロックを少量含む黒褐色土層である。第4層は粘土小・中ブロック多量，砂粒少量含む黒褐色土層である。第5層は粘土中・大ブロックを中量含む黒褐色土層である。下層は自然堆積で，上層はロームブロックを多量に含んでいることから人為堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿7片・内耳鍋6片）が出土している。皿7片は丸底皿片。

所見 時期，性格は不明である。



第27図 第13号土坑実測図・出土遺物実測図

第13号土坑遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第27図 1	皿 土師質土器	A 7.8 B 1.2	底部から口縁部片。丸底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。大きさに比して器肉が厚い。	口縁部内・外面ナデ。体部，底部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 灰黄色，普通	P 24 45% 覆土

第18号土坑（第28図）

位置 調査区の北側，B3d<sub>2</sub>区を中心に確認。

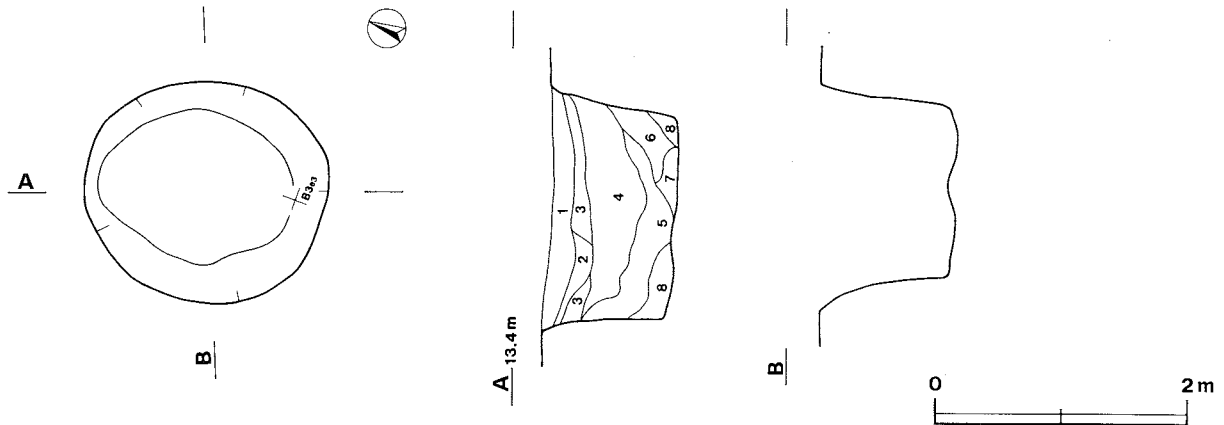
規模と平面形 長径1.95m，短径1.76mのほぼ円形で，深さは1.10mである。

長径方向 N-20°-W。

壁面 垂直に立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 8層から成る。第1層はローム粒子中量，粘土小ブロック中量，粘土大ブロック少量含む黒褐色土層である。第2層は粘土粒子中量，砂粒少量含む黒褐色土層である。第3層はローム粒子少量，粘土小ブロック少量含む黒褐色土層である。第4層は粘土小ブロック少量，粘土中ブロック微量含む黒褐色土層である。第5層



第28図 第18号土坑実測図・出土遺物実測図

は粘土中・大ブロック中量含む黒褐色土層である。第6層は粘土粒子多量，黒褐色ブロックを少量含む灰オリーブ色土層である。第7層は粘土中ブロック少量含む黒褐色土層である。第8層は粘土粒子を多量に含む灰色土層である。粘土のブロックが見られることから，人為堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿8片・内耳鍋3片）が出土している。皿8片は丸底皿片。

所見 時期・性格は不明である。

### 第19号土坑（第29図）

位置 調査区の北側，B3e3区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.72m，短径1.56mのほぼ円形で，深さは1.28mである。

長径方向 N-15°-E。

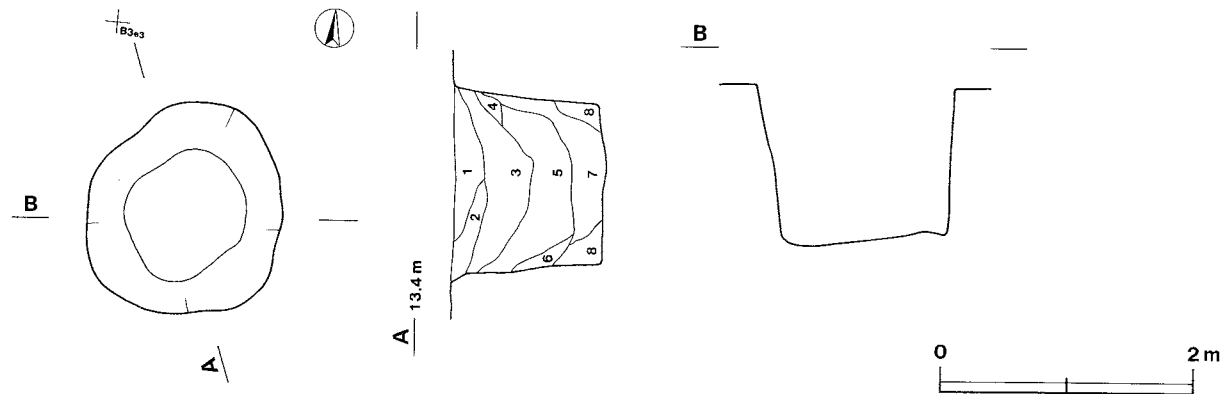
壁面 垂直に立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 8層から成る。第1層は焼土の大・中ブロックを多量に含む褐灰色土層である。第2層はローム粒子微量，焼土小ブロック少量含む黒褐色土層である。第3層は焼土小ブロック少量，粘土中ブロック少量含む黒褐色土層である。第4層は粘土の中ブロックを中量含む褐灰色土層である。第5層は粘土の大ブロックを多量に含む黒褐色土層である。第6層は灰色の粘土層である。第7層は粘土の大ブロックを多量に含むオリーブ灰色土層である。第8層は灰色の砂層である。粘土ブロックが見られることから，人為堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿1片・播鉢1）が出土している。皿1片は丸底皿片。

所見 時期，性格は不明である。



第29図 第19号土坑実測図

### 第22号土坑（第30図）

位置 調査区の北側，B3d1区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.43m，短径1.25mの楕円形で，深さは0.85mである。

長径方向 N-35°-W。

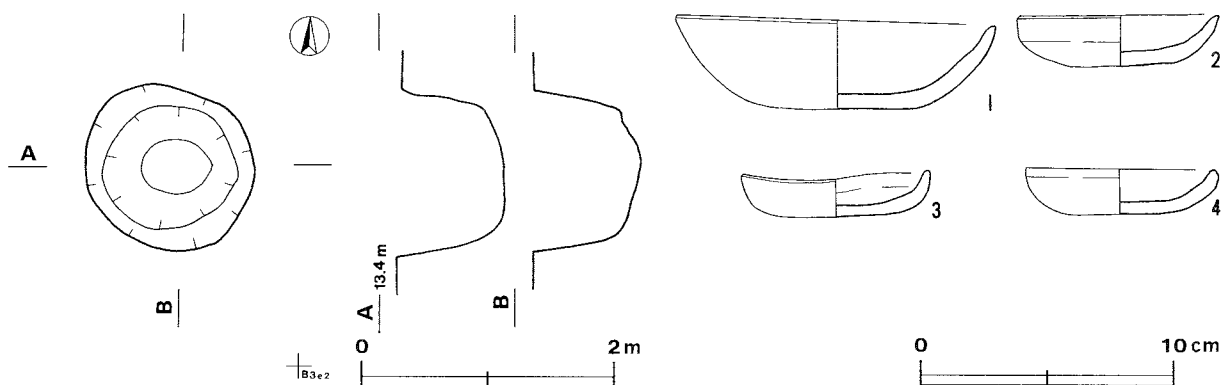
壁面 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 ロームブロック混じりの黒褐色土で，人為堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿18片・甕1片），陶器片（1片）が出土している。また，覆土上層から20cm大の礫と木片，下層から多数の礫が出土している。皿18片はほとんど丸底皿片。

所見 出土遺物から13～14世紀の遺構と考えられる。形状、遺物の出土状況から墓壙と思われる。



第30図 第22号土坑実測・出土遺物実測図

第22号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第30図 1	土師質土器 皿	A 12.1	底部から口縁部片。平底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色、普通	P 49 85% 覆土
		B 3.8				
2	土師質土器 皿	A 8.0	丸底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部内面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母、橙色、普通	P 50 100% 覆土
		B 2.1				
3	土師質土器 皿	A 7.5	体部から口縁部一部欠損。丸底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は垂直に立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部内面ナデ。	砂粒・長石 スコリア 橙色、普通	P 51 90% 覆土
		B 1.8				
4	土師質土器 皿	A 7.7	体部から口縁部一部欠損。丸底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は垂直に立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部、底部内面ナデ。	砂粒・長石・石英 スコリア 橙色、普通	P 52 60% 覆土
		B 1.9				

### 第23号土坑（第31図）

位置 調査区の北側，B3e1区を中心に確認。

規模と平面形 長径 0.82m，短径0.78mの円形で，深さは0.98mである。

長径方向 N-19°-E。

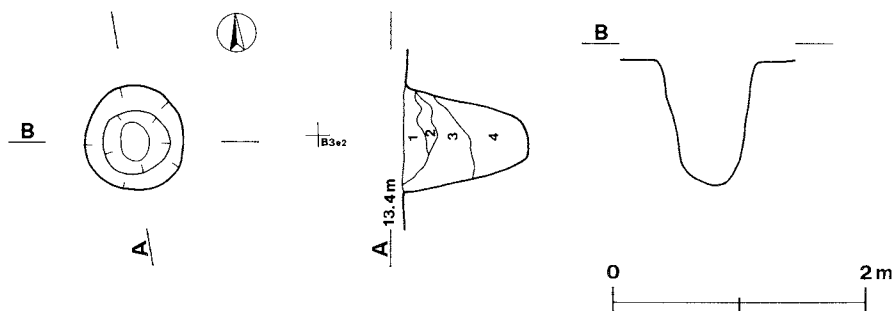
壁面 外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

覆土 4層から成る。第1層はローム粒子少量，粘土小ブロック少量含む黒褐色土層である。第2層は粘土大ブロック中量，粘土小ブロック少量含む黒褐色土層である。第3層は炭化粒子少量，粘土小ブロック少量含む黒色土層である。第4層は粘土の大・中ブロックを少量含む黒色土層である。粘土ブロックがみられることから，人為堆積と考えられる。

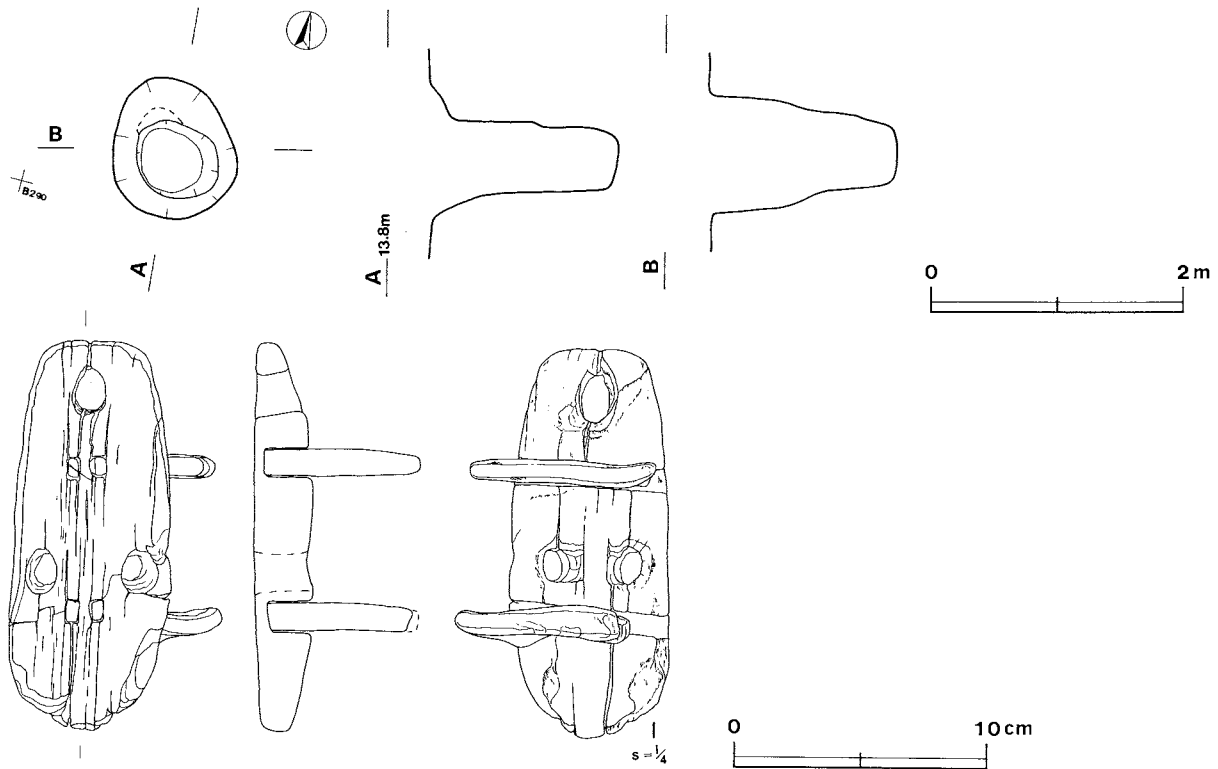
遺物 覆土から土師質土器片（皿4片・内耳鍋1片）が出土している。皿4片は丸底皿片。

所見 時期，性格は不明である。



第31図 第23号土坑実測図





第33図 第34号土坑実測・出土遺物実測図

第34号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土層位	整理番号	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	最大高(cm)			
第33図1	下駄	20.6	11.2	2.3	8.8	覆土下層	W48	台に別作りの歯をはめ込む。歯を取めるのに溝の中にホゾ穴が穿たれ、差し歯の木口が台上に現れる。

第35号土坑（第34図）

位置 調査区の中央部，B2f0区を中心に確認。

規模と平面形 長径0.82m，短径0.50mの不整円形で，深さは0.78mである。第1号地下式墳と隣接する。

長径方向 N-30°-W。

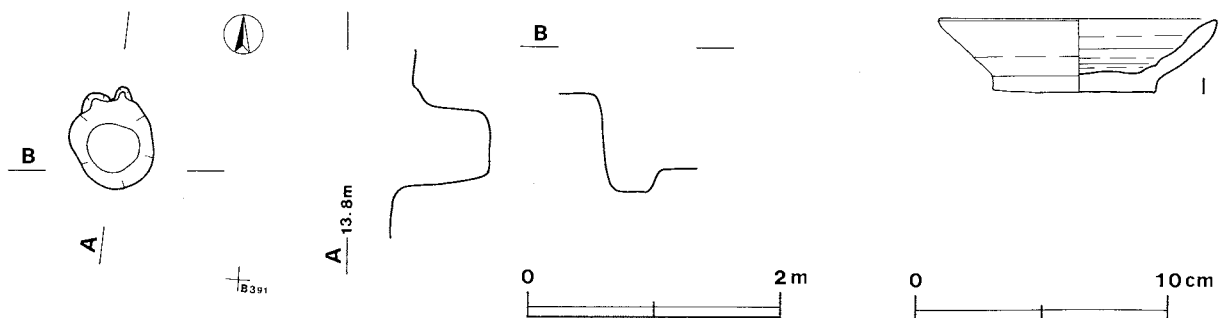
壁面 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 黒褐色土で自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿1片）が出土している。皿1片は平底皿片。

所見 時期，性格は不明である。



第34図 第35号土坑実測・出土遺物実測図



第35号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第34図 1	皿 土師質土器	A 11.1 B 2.9 C 6.4	口縁部微小欠損。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。底部は突出気味。	口縁部、体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 スコリア 橙色 普通	P 75 99% 覆土

第36号土坑（第35図）

位置 調査区の中央部，B 3g<sub>2</sub>区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.30m，短径1.28mの円形で，深さは0.96mである。

長径方向 N-45°-W。

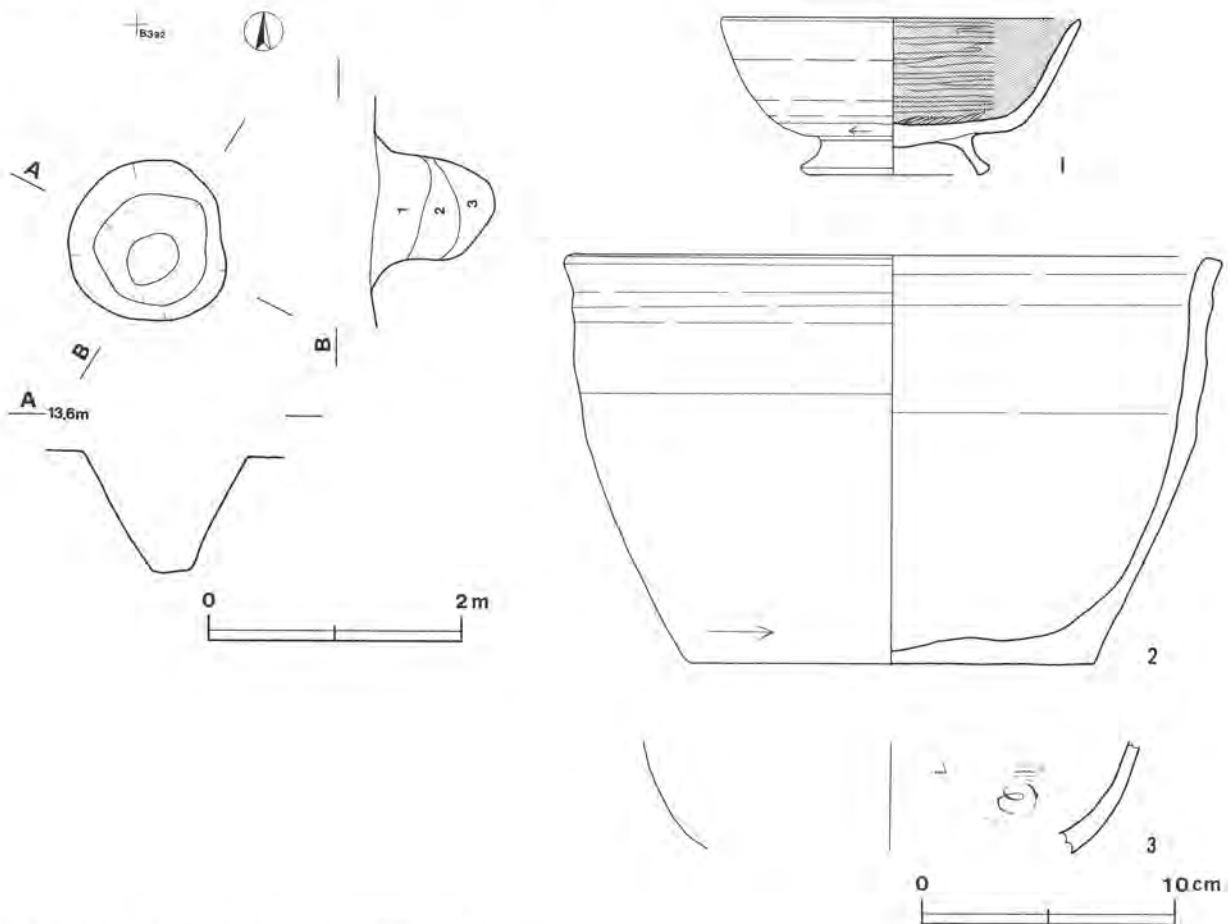
壁面 外傾しながら立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 3層から成る。1層はローム粒子中量，粘土小ブロック中量，焼土小ブロック中量，炭化物微量含む黒色土の層である。2層はローム粒子中量，粘土小ブロック多量含む黒褐色土の層である。3層は黒褐色土を少量含む粘土層で色は橙色である。自然堆積と考えられる。

遺物 最下層の第3層から土師器片（高台付坏4片），中・上層から土師質土器片（皿21片・鉢4片），覆土から青磁片（碗1片）が出土した。自然堆積と考えられる。皿片はほとんど丸底皿片である。

所見 出土遺物から，平安時代に掘られた土坑が埋没してゆく過程で，土師質土器片が流れ込んだものと考えられる。性格は不明である。



第35図 第36号土坑実測・出土遺物実測図

第36号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第35図 1	高台付 土師器	A 14.2	体部から口縁部一部欠損。高台は短く外罫しながら開く。体部はわずかに内罫しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	水挽成形。体部、口縁部内・外面横ナデ。底部内面へラ磨き。内面全体黒色処理	砂粒・長石・石英 雲母 鈍い橙色 普通	P 76 85% 覆土
		B 6.2				
		D 7.8				
		E 1.7				
2	鉢 土師質土器	A〔26.0〕	底部から口縁部片。平底。体部はわずかに内罫しながら立ち上がる。口縁部上位はわずかに外反する。	口縁部内・外面ナデ。底部、体部内面へラナデ。	砂粒・長石・石英 雲母・スコリア 鈍い橙色、普通	P 77 35% 体部外面煤附着 覆土上層
		B 16.2				
		C〔16.0〕				
3	鉢 青磁	A〔9.7〕	体部片。体部は内罫する。		褐灰色 (釉)灰オリーブ色 普通	P 78 5% 器面全体に均等に 施釉、覆土
		B〔4.6〕				

第41号土坑（第36図）

位置 調査区の中央部、B2g<sub>9</sub>区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.19m、短径0.96mのほぼ円形で、深さは1.46mである。

長径方向 N-4°-E。

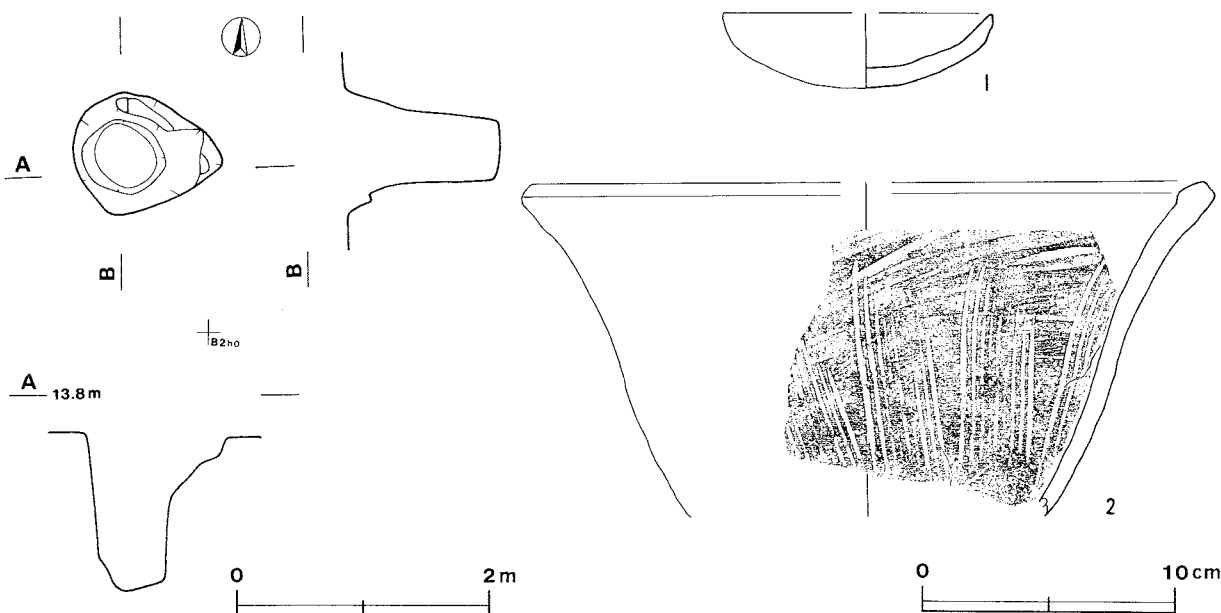
壁面 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 黒色土で自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿17片・内耳鍋2片・播鉢1片）が出土している。丸底・平底皿片が混じる。

所見 時期、性格は不明である。



第36図 第41号土坑実測・出土遺物実測図

第41号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第36図 1	皿 土師質土器	A 10.7	底部から口縁部片。丸底。体部、口縁部はわずかに内罫しながら立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。	雲母・スコリア 鈍い橙色 普通	P 79 70% 覆土
		B 3.0				
2	播鉢 土師質土器	A〔26.8〕	体部から口縁部片。体部は内罫し、口縁部は外反する。口縁部上端はわずかに内側にせり出す。	口縁部内・外面ナデ。体部内面へラナデ。体部内面に9本単位の櫛目が施されている。	砂粒・長石・石英 雲母 灰黄褐色、普通	P 80 20% 覆土
		B 13.3				

### 第42号土坑（第37図）

位置 調査区の中央部，B2g区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.30m，短径1.00mの不整楕円形で，深さは0.85mである。

長径方向 N-14°-W。

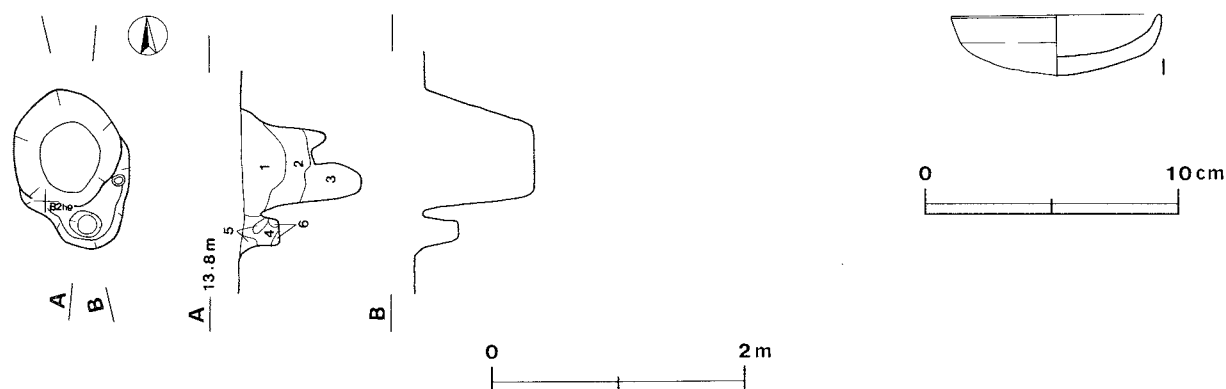
壁面 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 6層から成る。第1層はローム粒子微量，焼土粒子微量含む黒褐色土層である。第2層はローム粒子，焼土粒子，炭化粒子微量含む極暗褐色土層である。第3層はローム粒子少量，ローム小ブロック少量含む黒色土層である。第4層はローム粒子微量，炭化粒子微量含む黒褐色土層である。第5層はローム粒子多量，炭化粒子微量含む褐色土層である。第6層はローム粒子を多量に含む褐色土層である。人為堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿3片・内耳鍋1片）と，礫が多量に出土している。皿3片は丸底皿片。

所見 時期，性格は不明である。



第37図 第42号土坑実測・出土遺物実測図

第42号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第37図 1	皿 土師質土器	A 8.4 B 2.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は緩やかに内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英スコリア 淡橙色，普通	P 81 90% 覆土

### 第47号土坑（第38図）

位置 調査区の中央部，B2h区を中心に確認。

規模と平面形 長径0.98m，短径0.65mの不整楕円形で，深さは1.20mである。

長径方向 N-7°-W。

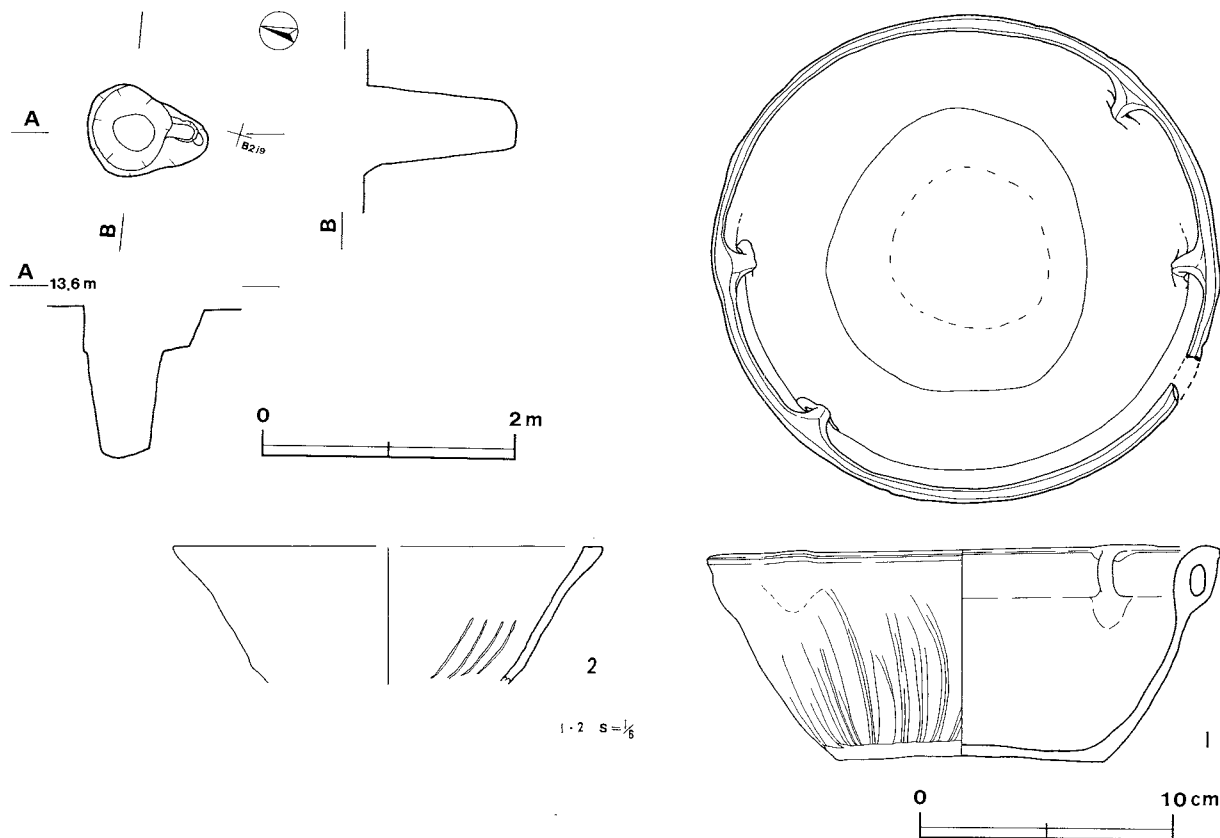
壁面 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 黒褐色土で，自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿6片・内耳鍋3片・播鉢32片）が出土している。皿6片は丸底皿片。

所見 時期，性格は不明である。



第38図 第47号土坑実測・出土遺物実測図

第47号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第38図 1	内耳鍋 土師質土器	A 40.7 B 17.3 C 20.1	口縁部一部欠損。4耳。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。口縁部は外側に膨らむ。	口縁部内・外面ナデ。体部外面縦位のヘラナデ。	砂粒・長石・石英 雲母・スコリア 鈍い橙色、普通	P 82 95% 外面煤付着 覆土
2	播鉢 土師質土器	A 34.0 B 11.0	体部から口縁部片。体部中位はわずかに内彎し、体部上位は外反する。口縁部は厚み増してわずかに内彎する。	口縁部内・外面ナデ。体部内面には4本単位の櫛目が施されている。	砂粒・石英・雲母 スコリア 鈍い橙色 普通	P 83 20% 覆土

第48号土坑（第39図）

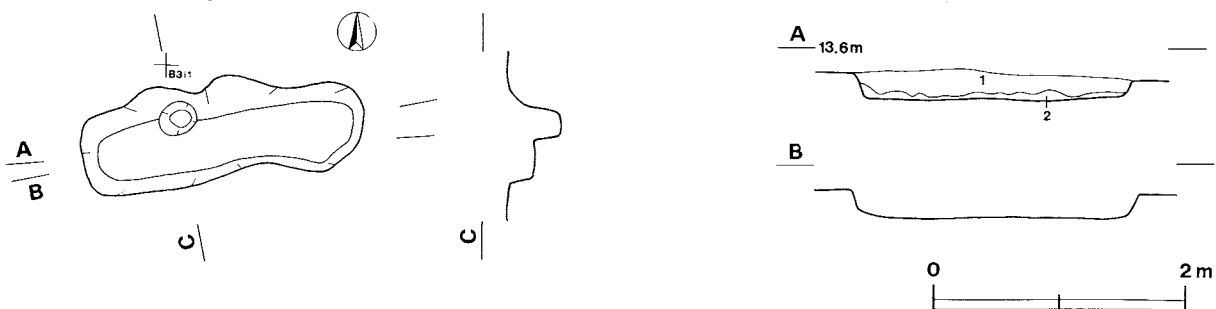
位置 調査区の中央部，B3i1区を中心に確認。

規模と平面形 長径2.25m，短径0.60mの不整楕円形で，深さは0.40mである。

長径方向 N-71°-E。

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 凹状である。



第39図 第48号土坑実測・出土遺物実測図

覆土 2層から成る。第1層はローム粒子微量，炭化物微量，焼土粒子微量含む暗褐色土層である。第2層はローム粒子を多量に含む明褐色土層である。自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿2片）が出土している。

所見 時期，性格は不明である。

### 第51号土坑（第40図）

位置 調査区の中央部，B2j<sub>0</sub>区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.40m，短径1.15mの不定形で，深さは0.35mである。

長径方向 N-36°-E。

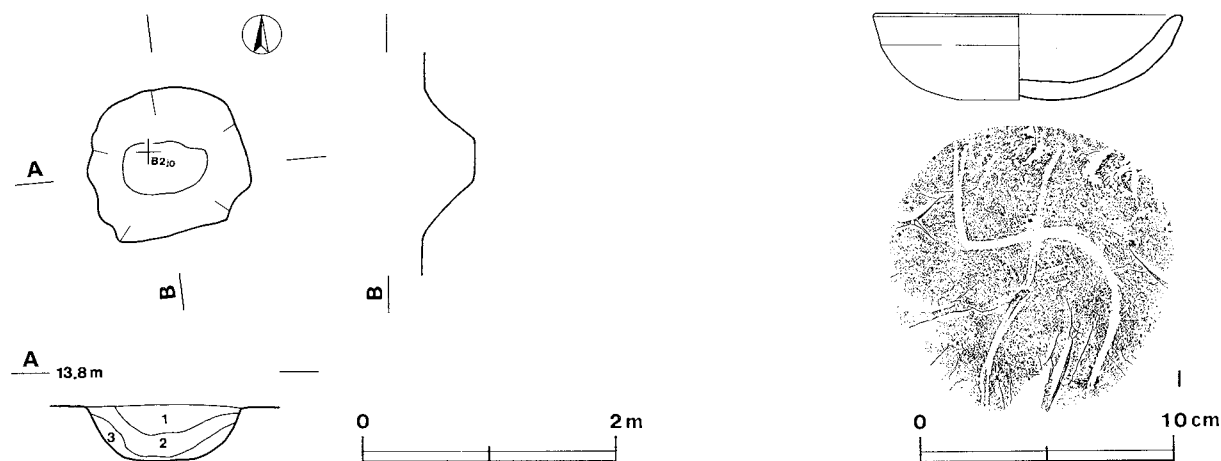
壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 3層から成る。第1層はローム粒子少量，炭化粒子微量含む暗褐色土層である。第2層はローム粒子を微量含む黒褐色土層である。第3層はローム粒子中量，ローム小ブロック少量含む褐色土層である。自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿1片）が出土している。

所見 時期，性格は不明である。



第40図 第51号土坑実測・出土遺物実測図

第51号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第40図 1	皿 土師質土器	A 12.2 B 3.6	丸底。底部外面にヘラ状の物で描いた「X」型紋様。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部上端の平面形は卵形に近い。	底部・体部内面，口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 淡赤褐色 普通	P 84 100% 覆土

### 第52号土坑（第41図）

位置 調査区の中央部，B2j<sub>8</sub>区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.25m，短径1.05mの不定形で，深さは0.85mである。

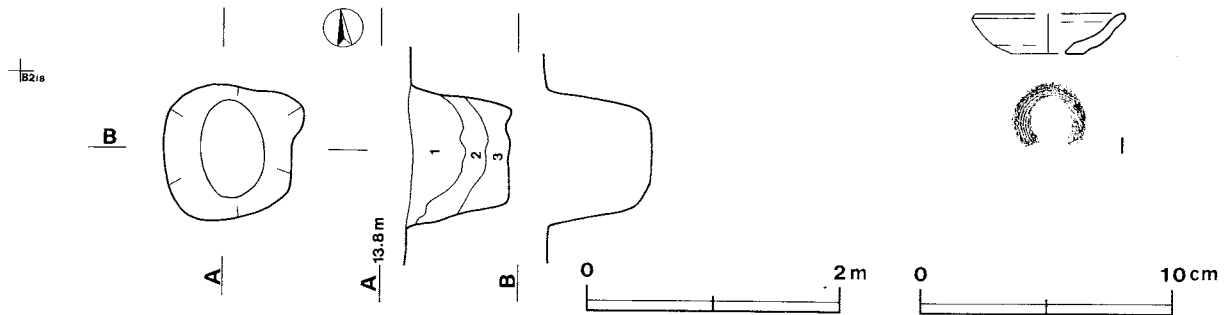
長径方向 N-51°-E。

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 3層から成る。第1層はローム粒子微量，焼土粒子微量含む黒褐色土層である。第2層はローム粒子少量，ローム小ブロック少量，炭化物微量含む黒褐色土層である。第3層はローム粒子少量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量含む極暗褐色土層である。床面近くから石，最下層の第3層から底部を穿孔された皿を含む土師質土器片が出土した。人為堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿11片・内耳鍋1片），礫（27）が出土している。皿11片はほとんど丸底皿片。所見 出土遺物から13～14世紀の遺構と考えられる。遺物の出土状況から墓塚と思われる。



第41図 第52号土坑実測・出土遺物実測図

第52号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第41図 1	皿 土師質土器	A 6.0 B 1.6 C 2.8	底部から口縁部片。平底。底部は穿孔されている。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。	水挽成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 鈍い橙色 普通	P 85 35% 覆土

第53号土坑（第42図）

位置 調査区の中央部，B2j7区を中心に確認。

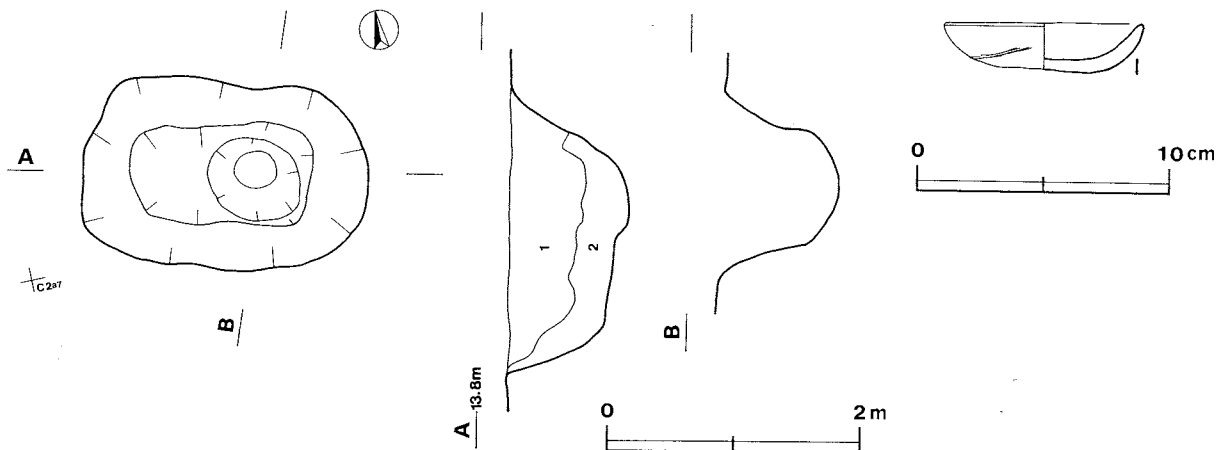
規模と平面形 長径2.30m，短径1.44mの不整長方形で，深さは0.92mである。

長径方向 N-82°-E。

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

覆土 2層から成る。第1層はローム小ブロック多量，ローム中ブロック多量，粘土ブロック多量含む黒褐色土層である。第2層は粘土ブロック多量，砂粒少量含む黒色土層である。多量の粘土ブロックが確認できることから人為堆積と考えられる。



第42図 第53号土坑実測・出土遺物実測図

遺物 覆土から土師質土器片（皿5片・内耳鍋1片）が出土している。皿5片は丸底皿片。

所見 出土遺物から13～14世紀の遺構と考えられるが、性格は不明である。

第53号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第42図 1	皿 土師質土器	A 7.8 B 2.0	口縁部一部欠損。丸底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。底部、体部外面にヘラ状の物で数本の細かい線が刻まれている。	口縁部内・外面、体部内面ナデ。	雲母・スコリア 鈍い橙色 良好	P 86 98% 覆土

第54号土坑（第43図）

位置 調査区の中央部，C2a7区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.06m，短径0.84mの不定形で，深さは0.58mである。

長径方向 N-56°-W。

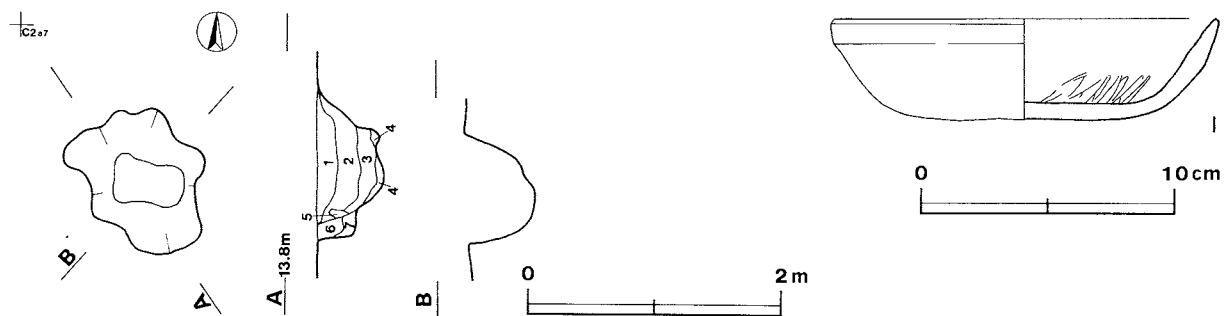
壁面 外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

覆土 7層から成る。第1層はローム粒子少量，ローム中ブロック少量，炭化物微量含む黒褐色土層である。第2層はローム粒子微量，粘土ブロック少量，焼土粒子微量含む黒褐色土層である。第3層はローム粒子少量，粘土ブロック少量含む黒褐色土層である。第4層は粘土ブロックを中量含む黒褐色土層である。第5層は粘土ブロックを多量に含む黒褐色土層である。第6層は粘土小ブロック少量，粘土中ブロック中量含む黒褐色土層である。第7層はローム小ブロック少量，粘土中ブロック中量含む黒褐色土層である。自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿4片）が出土している。

所見 時期，性格は不明である。



第43図 第54号土坑実測・出土遺物実測図

第54号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第43図 1	皿 土師質土器	A 15.4 B 4.0 C 7.8	底部から口縁部片。平底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。 底部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 浅黄色，普通	P 87 40% 口縁部，体部内面 煤付着，覆土

第56号土坑（第44図）

位置 調査区の中央部，C2b7区を中心に確認。

規模と平面形 長径0.95m，短径0.85mのほぼ円形で，深さは0.85mである。第63号土坑と重複している。

長径方向 N-8°-E。

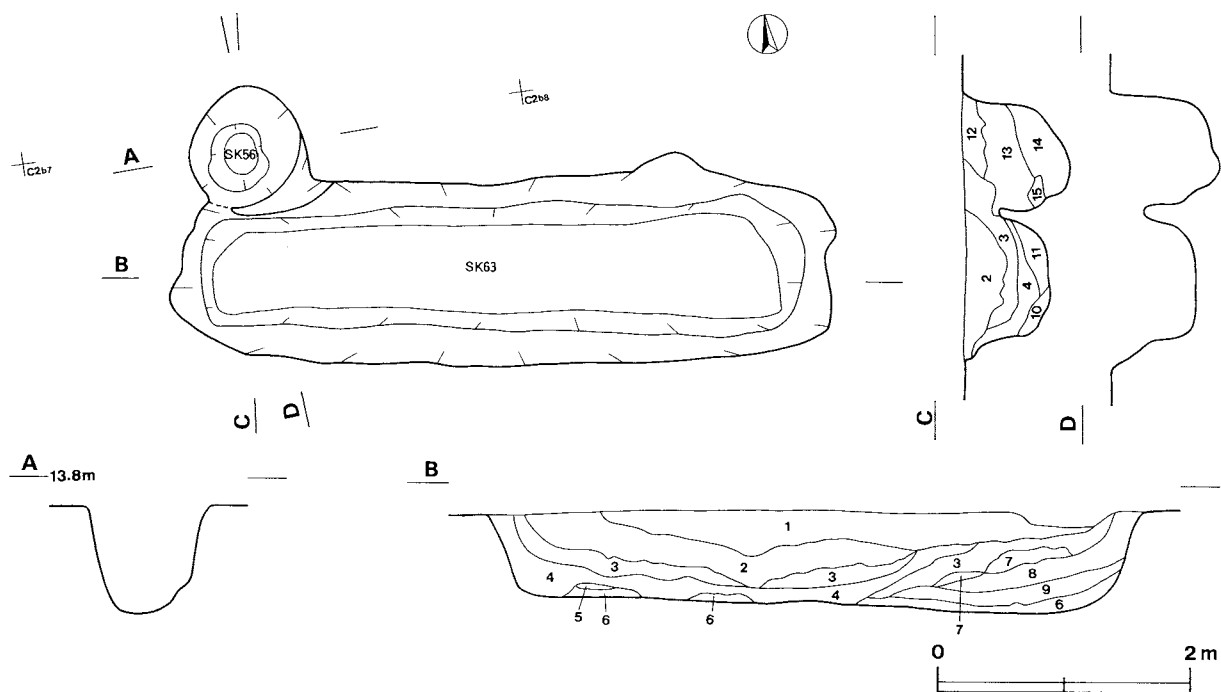
壁面 垂直に立ち上がる。

底面 凹状である。

覆土 6層から成る。第2層はローム大・中ブロック少量，ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，粘土小・中ブロック少量含む黒褐色土層である。第3層はローム粒子中量，ローム小ブロック少量，粘土粒子少量，焼土粒子微量含む黒褐色土層である。第12層はローム粒子少量，粘土小ブロック少量含む黒褐色土層である。第13層はローム粒子微量，炭化物少量，粘土小ブロック少量含む黒褐色土層である。第14層はローム粒子微量，炭化物微量，粘土小ブロック微量含む黒色土層である。第15層はローム粒子少量，炭化物微量含む黒色土層である。自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿3片）が出土している。

所見 時期，性格は不明である。



第44図 第56・63号土坑実測・実測図

### 第57号土坑（第45図）

位置 調査区の中央部，C2a8区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.64m，短径1.60mの円形で，深さは1.36mである。

長径方向 N-14°-E。

壁面 床面から40cmほど内傾して立ち上がり，その後外傾する。

底面 平坦である。 覆土 黒色土の自然堆積である。

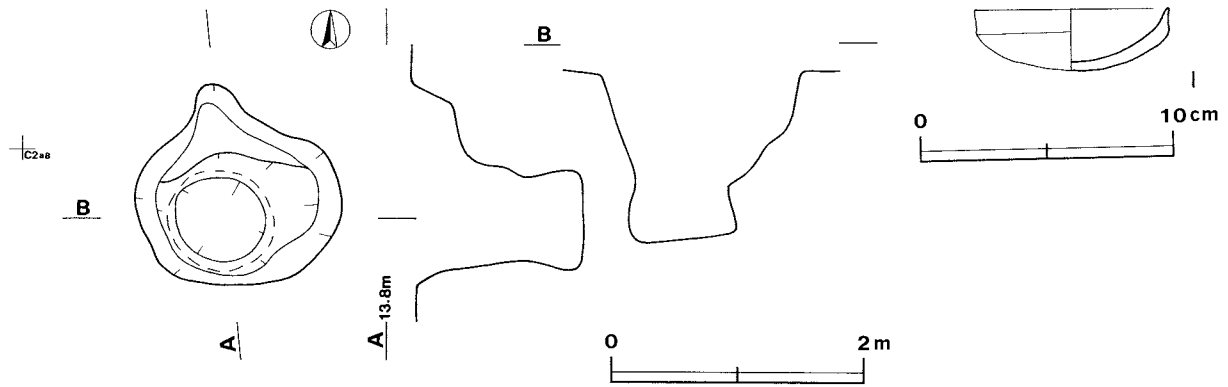
遺物 土師質土器片（皿9片・播鉢1片）が出土している。皿9片は丸底皿片。

所見 出土遺物から13～14世紀の遺構と考えられる。井戸の可能性もある。

### 第57号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 1	皿 土師質土器	A 7.6 B 2.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部外面は強いナデ調整のためわずかに外反し，垂直に近い角度で立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・雲母 スコリア 鈍い橙色 普通	P 88 95% 口縁部外面煤付着 覆土





第45図 第57号土坑実測・出土遺物実測図

第59号土坑 (第46図)

位置 調査区の中央部, C2a9区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.00m, 短径0.80mのほぼ円形で, 深さは0.50mである。

長径方向 N-56°-W。

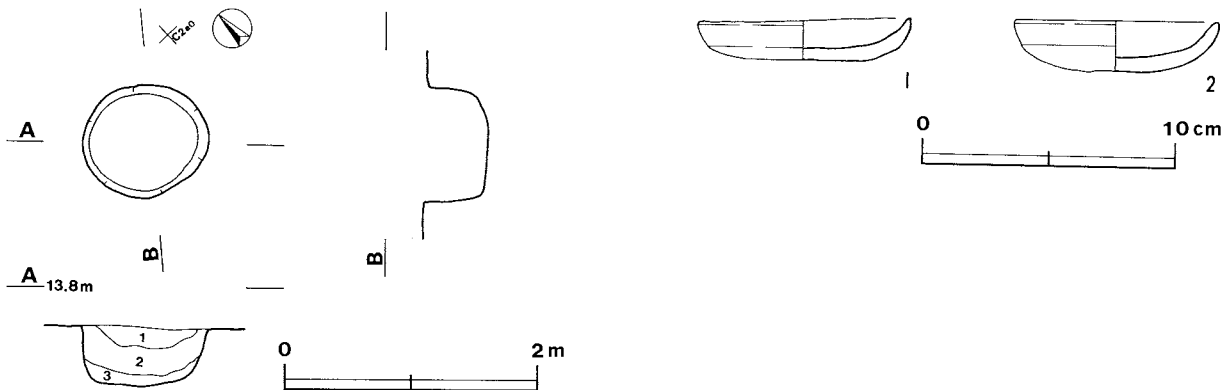
壁面 垂直に立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 3層から成る。第1層はローム粒子微量, 炭化物微量含む黒褐色土層である。第2層はローム粒子微量, 焼土粒子微量, 炭化物微量含む黒色土層である。第3層はローム粒子を微量含む黒色土層である。自然堆積と考えられる。

遺物 土師質土器片(皿3片)が出土している。皿3片は丸底皿片。

所見 出土遺物から13~14世紀と考えられるが, 性格は不明である。



第46図 第59号土坑実測・出土遺物実測図

第59号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第46図 1	皿 土師質土器	A 8.5 B 1.7	丸底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。口縁部上端径に比して器高が低い。	口縁部内・外面ナデ。底部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P 89 100% 底部内面, 口縁部 煤付着, 覆土
2	皿 土師質土器	A 8.0 B 2.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり, 口縁部は直線的に外傾する。器肉が厚め。	口縁部内・外面ナデ。底部内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P 90 98% 覆土

**第60号土坑（第47図）**

位置 調査区の中央部，C2i9区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.02m，短径0.80mの不整楕円形で，深さは0.34mである。

長径方向 N-12°-E。

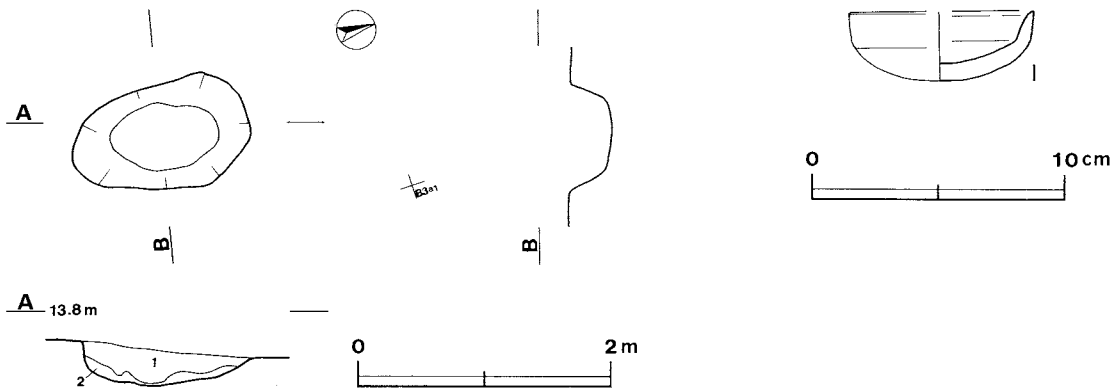
壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 2層から成る。第1層はローム小・中ブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量含む黒褐色土層である。第2層はローム中ブロック少量，炭化物微量，粘土小ブロック少量含む灰褐色土層である。自然堆積と考えられる。

遺物 土師質土器片（皿2片・内耳鍋1片）が出土している。皿2片は丸底皿。

所見 時期，性格は不明である。



第47図 第60号土坑実測・出土遺物実測図

第60号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第47図 1	皿 土師質土器	A〔7.3〕 B 2.8	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部はわずかに外反しながら垂直方向に立ち上がる。	口縁部内・外面，底部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 鈍い橙色 普通	P 91 55% 覆土

**第61号土坑（第48図）**

位置 調査区の中央部，C2a8区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.90m，短径1.02mの不定形で，深さは0.40mである。

長径方向 N-70°-W。

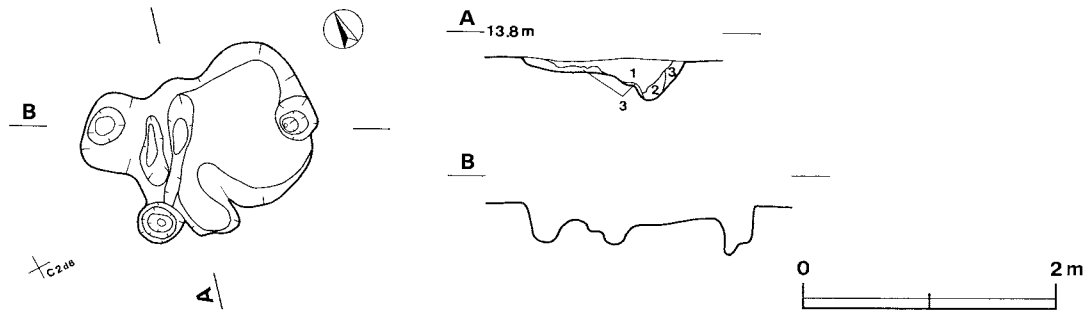
壁面 外傾して立ち上がる。

底面 凹凸状である。

覆土 3層から成る。第1層はローム粒子微量，粘土小ブロック微量含む黒褐色土層である。第2層はローム粒子少量，粘土小ブロック少量含む暗褐色土層である。第3層はローム粒子を多量に含むにぶい褐色土層である。自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿3片・内耳鍋4片）が出土している。皿3片は丸底皿片。

所見 時期，性格は不明である。



第48図 第61号土坑実測図

**第63号土坑**（第44図）

**位置** 調査区の中央部，C2b7区を中心に確認。

**規模と平面形** 長径5.30m，短径1.45mの長方形で，深さは0.65mである。

**長径方向** N-81°-W。

**壁面** 外傾して立ち上がる。

**底面** 平坦である。

**覆土** 9層から成る。第1層はローム小ブロック少量，焼土粒子微量，炭化物微量，粘土小ブロック少量含む黒褐色土層である。第2層はローム大・中ブロック少量，ローム粒子少量，焼土小ブロック少量，粘土小・中ブロック中量含む黒褐色土層である。第3層はローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量，粘土粒子少量含む黒褐色土層である。第4層はローム粒子少量，ローム小ブロック微量，焼土粒子微量含む黒色土層である。第5層はローム粒子を多量に含む褐色土層である。第6層は粘土小ブロック少量，砂粒多量含む灰褐色土層である。第7層はローム粒子少量，粘土小ブロック少量含む黒褐色土層である。第8層は粘土小ブロック少量，焼土粒子微量，砂粒少量含む黒褐色土層である。第9層はローム粒子微量，焼土粒子微量，粘土小ブロック少量含む黒色土層である。自然堆積と考えられる。

**遺物** 覆土から土師質土器片（皿27片・内耳鍋9片）が出土している。皿27片はほとんど丸底皿片。

**所見** 出土遺物から13～14世紀の遺構と考えられるが，性格は不明である。

**第64号土坑**（第49図）

**位置** 調査区の中央部，C2b6区を中心に確認。

**規模と平面形** 長径1.21m，短径1.04mのほぼ円形で，深さは0.68mである。

**長径方向** N-16°-E。

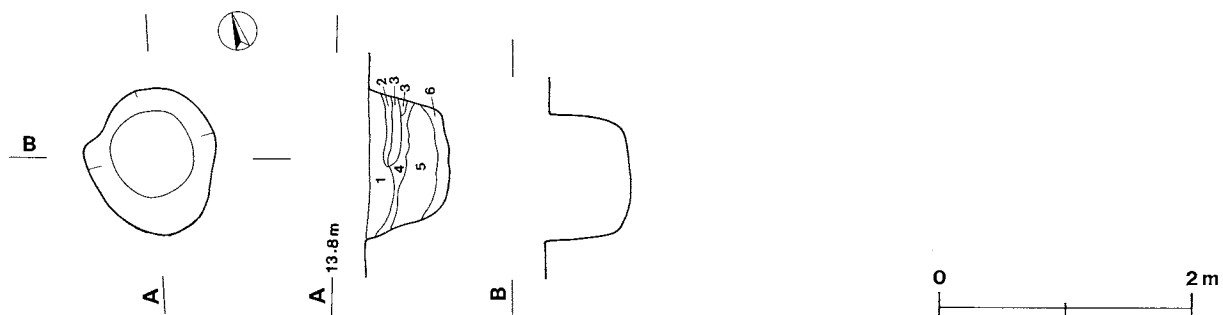
**壁面** 垂直に立ち上がる。

**底面** 平坦である。

**覆土** 6層から成る。第1層はローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化物微量，粘土小ブロック少量含む暗褐色土層である。第2層はローム粒子少量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量，粘土小ブロック少量含む暗褐色土層である。第3層はローム粒子微量，焼土粒子少量含む黒色土層。第4層は炭化物微量，粘土粒子少量，砂粒少量含む灰褐色土層である。第5層はローム粒子少量，ローム中ブロック少量，炭化物微量含む黒色土層である。第6層はローム粒子多量，粘土小ブロック少量，砂粒少量含む極暗褐色層である。ロームブロックの存在から人為堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿7片）が出土している。皿7片は丸底皿片。

所見 出土遺物から13～14世紀の遺構と考えられるが、性格は不明である。



第49図 第64号土坑実測図

### 第68号土坑（第50図）

位置 調査区の中央部，C2c7区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.20m，短径1.05mの楕円形で，深さは0.60mである。

長径方向 N-70°-W。

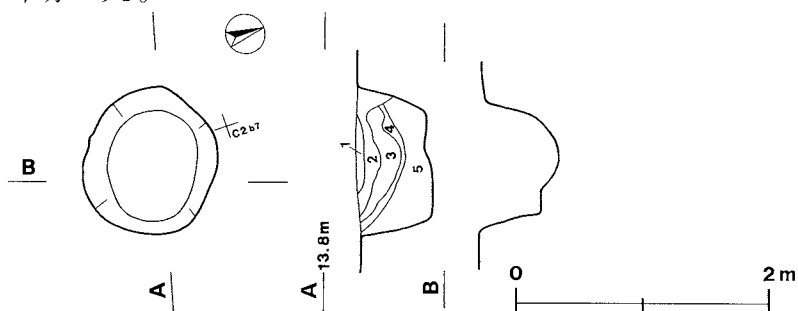
壁面 外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

覆土 5層から成る。第1層はローム粒子少量，粘土中ブロック少量含む黒褐色土層である。第2層はローム中ブロック少量，焼土粒子微量，炭化物少量，粘土中ブロック少量含む黒褐色土層である。第3層はローム粒子少量，粘土中ブロック中量含む黒色土層である。第4層はローム粒子少量，粘土小ブロック中量含む極暗褐色土層である。第5層はローム粒子少量，炭化物少量，砂粒少量含む黒褐色土層である。自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（甕1片）が出土している。

所見 時期，性格は不明である。



第50図 第68号土坑実測図

### 第75号土坑（第51図）

位置 調査区の中央部，C2c9区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.87m，短径0.70mの不整楕円形で，深さは0.13mである。

長径方向 N-75°-W。

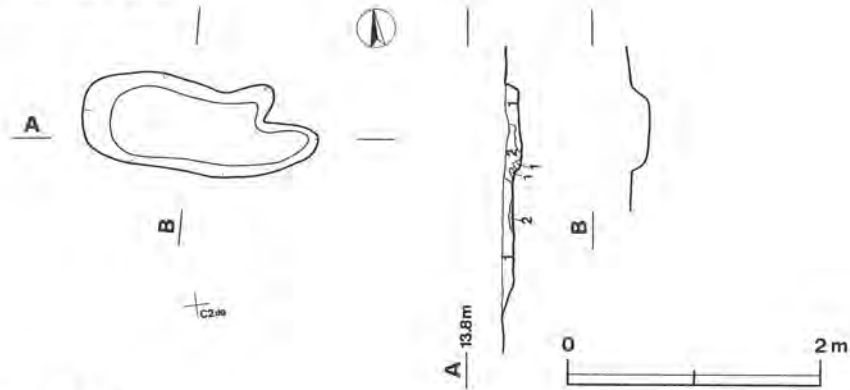
壁面 外傾する。

底面 平坦である。

覆土 2層から成る。第1層はローム中ブロック少量，炭化粒子少量含む暗褐色土層である。第2層はローム粒子中量，ローム中ブロック多量，炭化粒子微量含む褐色土層である。自然堆積と考えられる。

遺物 土師質土器片（皿1片）が出土している。

所見 時期，性格は不明である。



第51図 第75号土坑実測図

### 第76号土坑（第52図）

位置 調査区の中央部，C2d8区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.44m，短径1.18mの不整楕円形で，深さは1.13mである。

長径方向 N-59°-W。

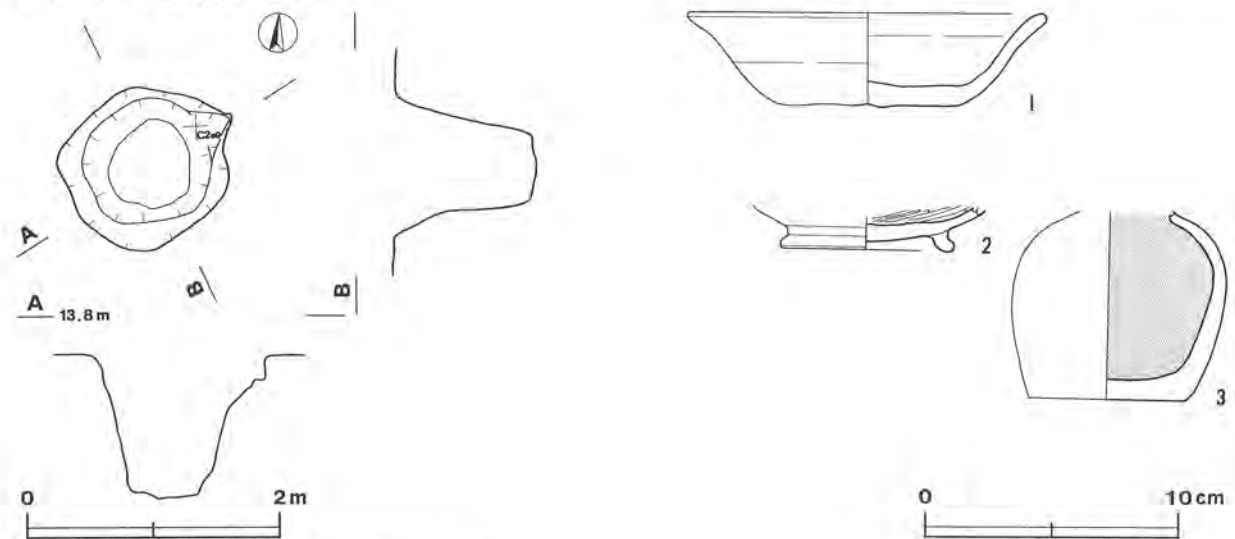
壁面 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 黒色土で自然堆積と考えられる。

遺物 覆土下層から土師器片（高台付杯1片・小壺片1），中層から土師質土器片（皿5片・内耳鍋8片）が出土している。

所見 出土遺物から，平安時代に掘り込まれた土坑が埋まってゆく過程で，土師質土器が投棄されたり流れ込んだものと思われる。礫層まで掘り込まれていて，水がすぐに湧いてたまることから，当初は井戸として使われていたことも考えられる。



第52図 第76号土坑実測・出土遺物実測図

第76号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第52図 1	坏 土師器	A 14.3 B 3.8 C 7.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反しながら外に開く。	底部回転ヘラ切り。体部下位ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 スコリア 橙色、普通	P 92 85% 覆土
2	高台付碗 土師器	B( 1.8) D 6.8 E 0.9	底部片。高台部は短く直線的に外に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。	水挽き成形。	砂粒・雲母 スコリア 浅黄橙色、普通	P 93 35% 底部内面煤付着 覆土
3	小型壺 土師器	A( 3.2) B( 7.5) C 6.2	頸部から上が欠損。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり緩やかなカーブを描いて肩部に至り、肩部から強い彎曲で頸部に続く。	内面黒色処理。	雲母・スコリア 灰白色 普通	P 94 80% 覆土

第86号土坑（第53図）

位置 調査区の中央部，C2g4区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.04m，短径0.90mのほぼ円形で，深さは0.96mである。

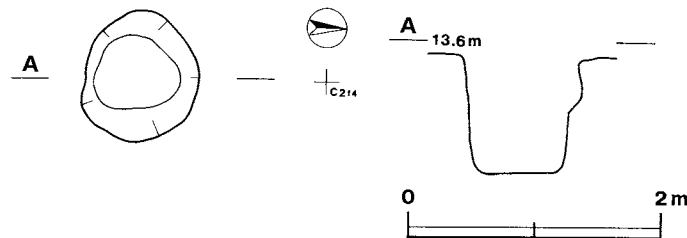
長径方向 N-14°-E。

壁面 垂直に立ち上がる。 底面 平坦である。

覆土 黒褐色土で自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿8片）が出土している。皿8片は丸底皿片。

所見 出土遺物から13～14世紀の遺構と考えられるが，性格は不明である。



第53図 第86号土坑実測図

第92号土坑（第54図）

位置 調査区の中央部，C2h4区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.20m，短径1.08mの不整円形で，深さは1.16mである。

長径方向 N-82°-W。

壁面 垂直に立ち上がる。 底面 平坦である。

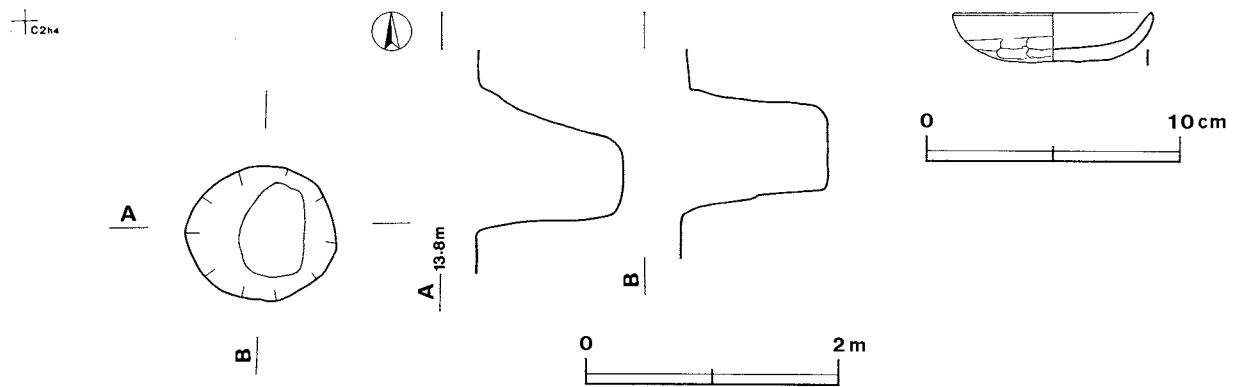
覆土 黒褐色土で自然堆積と考えられる。

遺物 覆土下層から土師器片（高台付坏1片），中層から土師質土器片（皿3片・内耳鍋1片）が出土している。

所見 出土遺物から，平安時代に掘られた土坑が自然に埋まってゆく過程で，土師質土器が投棄されたり流れ込んだりしたものと考えられる。礫層まで掘り込まれていて，水が湧いてすぐに溜まることから，当初は井戸として利用されたことも考えられる。

第92号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第54図 1	皿 土師質土器	A 7.8 B 2.0	口縁部一部欠損。丸底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面，体部内面，底部内面ナデ。	砂粒，長石，雲母 浅黄橙色，良好	P 98 90% 覆土



第54図 第92号土坑実測・出土遺物実測図

第94号土坑 (第55図)

位置 調査区の中央部, C2g区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.58m, 短径0.80mの不整楕円形で, 深さは1.20mである。

長径方向 N-9°-W。

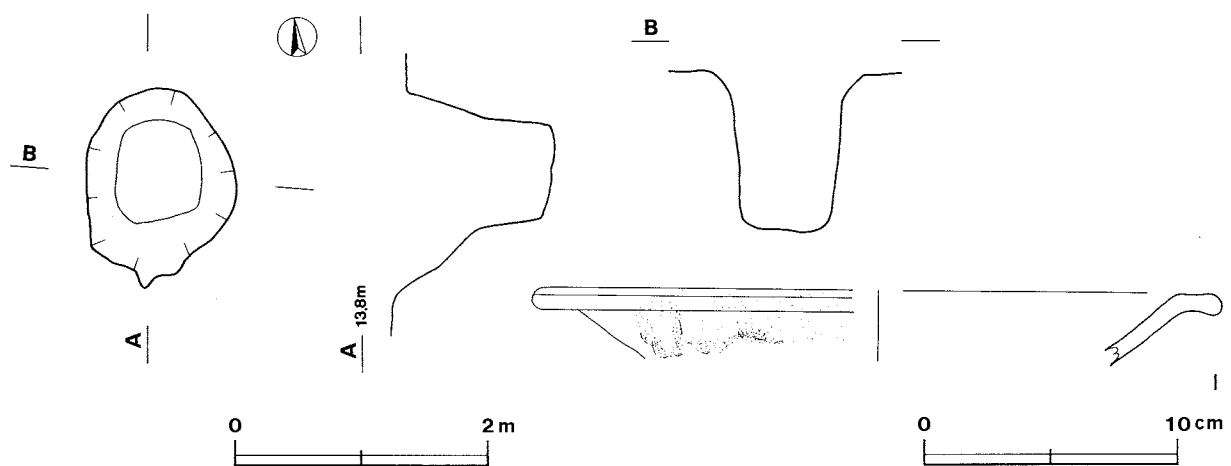
壁面 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 黒褐色土で自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から瀬戸陶器片(瓶子1片・盤2片)が出土している。

所見 出土遺物から15世紀の遺構と考えられるが, 性格は不明である。



第55図 第94号土坑実測・出土遺物実測図

第94号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第55図 1	折縁 皿 陶器	A(27.2) B(2.9)	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎する。口縁部は水平方向やや下がりが気味に折り曲げられ, 先端は幾分厚みを増す。	内外面に釉が施され, 外面には釉の流れの跡が見られる。	灰色 (釉)オリープ灰色 普通	P 100 瀬戸産 覆土 5%

第95号土坑 (第56図)

位置 調査区の中央部, C2f区を中心に確認。

規模と平面形 長径2.56m, 短径0.28mの不整楕円形で, 深さは0.18mである。

長径方向 N-89°-E。

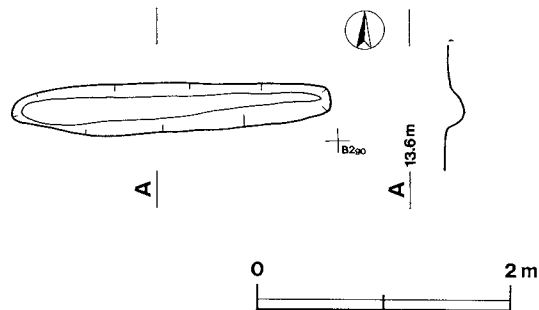
壁面 外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

覆土 黒褐色土で自然堆積と考えられる。

遺物 土師質土器片（皿1片）が出土している。

所見 時期，性格は不明である。



第56図 第95号土坑実測図

### 第98号土坑（第57図）

位置 調査区の中央，B2f9区を中心に確認。

規模と平面形 長径0.77m，短径0.68mのほぼ円形で，深さは0.58mである。

長径方向 N-21°-E。

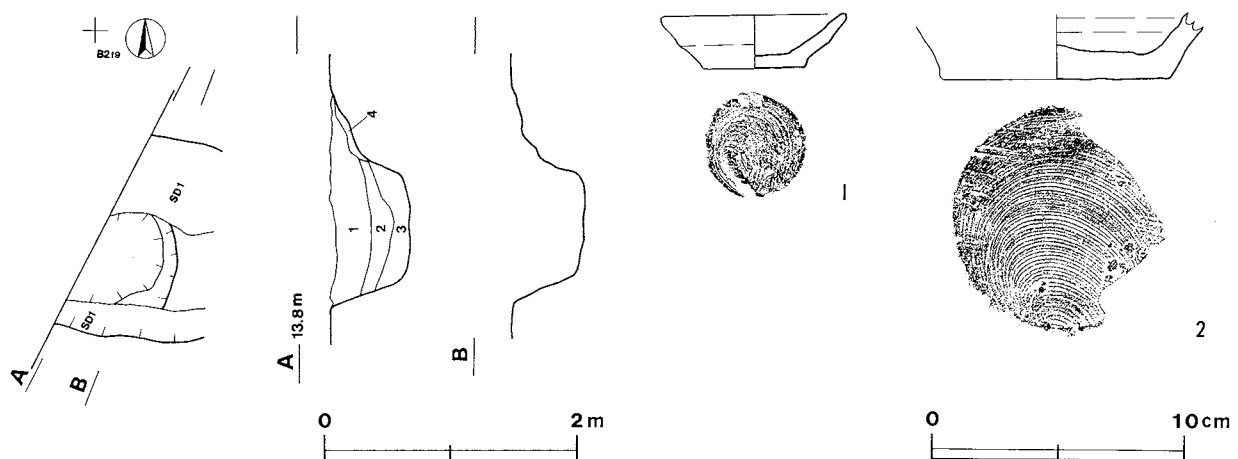
壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 4層から成る。第1層は炭化粒子微量，焼土粒子微量，小礫を少量含む黒褐色土層である。第2層はローム粒子少量，砂粒・小礫少量含む黒褐色土層である。第3層はローム粒子微量，炭化粒子微量，砂粒少量含む黒色土層である。第4層はローム小ブロックを少量含む極暗褐色土層である。自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿1片），常滑陶器片（壺片）が出土している。

所見 時期，性格は不明である。



第57図 第98号土坑実測図



第98号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第57図 1	皿 土師質土器	A 7.4	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。底部は突出気味。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英 スコリア 灰白色、良好	P 309 100% 内外面煤厚く付着 覆土
		B 2.1				
		C 4.1				
2	壺 陶器	B(2.5)	平底。底部から体部下位片。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。	(胎土) 明褐色 普通	P 327 20% 常滑産、覆土
		C 8.8				

第100号土坑（第58図）

位置 調査区の中央，B2f<sub>0</sub>区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.00m，短径0.90mの円形で，深さは0.70mである。

長径方向 N-42°-E。

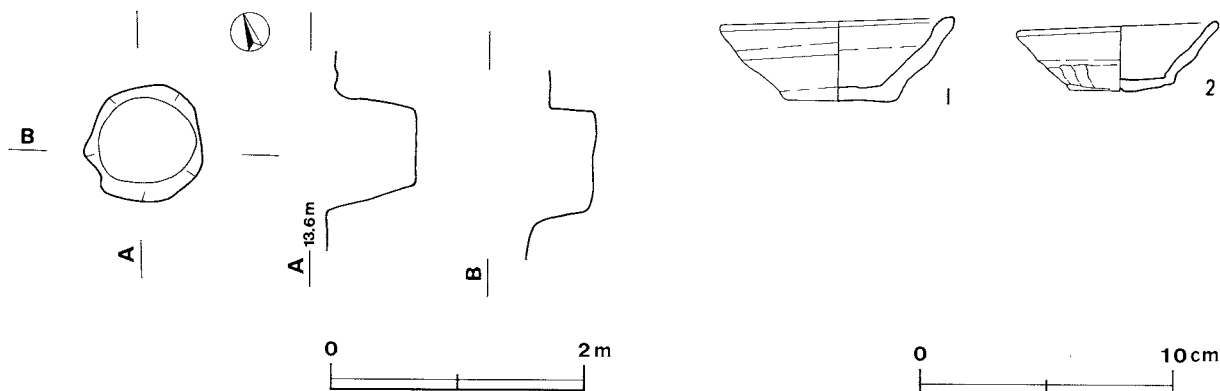
壁面 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 粘土混じりの褐色土で自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿3片・内耳鍋3片）が出土している。皿3片は平底皿片。

所見 出土遺物から15世紀の遺構と考えられるが，性格は不明である。



第58図 第100号土坑実測図

第100号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第58図 1	皿 土師質土器	A 9.3	平底。体部、口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英 雲母・スコリア 橙色、普通	P 299 100% 覆土
		B 3.4				
		C 4.4				
2	皿 土師質土器	A 7.8	平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 スコリア 浅黄橙色、普通	P 301 20% 覆土
		B 2.9				
		C 4.0				

第103号土坑（第59図）

位置 調査区の南側，D2e<sub>3</sub>区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.00m，短径0.90mの円形で，深さは0.70mである。

長径方向 N-36°-E。

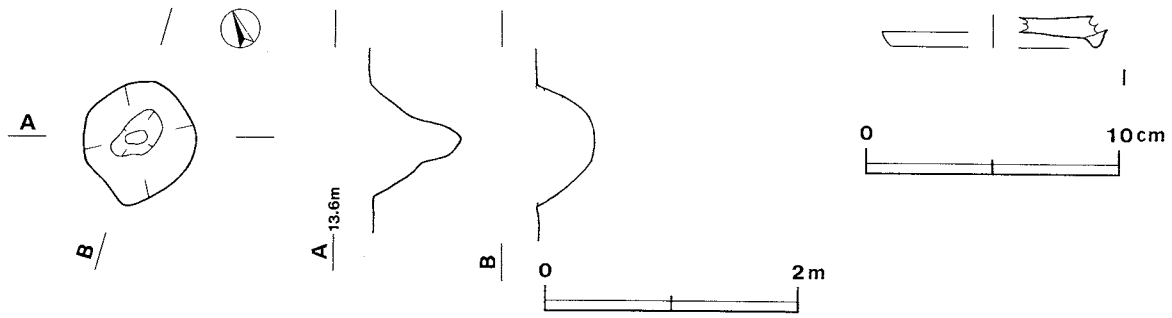
壁面 わずかに内彎しながら立ち上がる。

底面 尖底である。

覆土 黒褐色土で自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から陶器片（高台付碗底部1片），土師質土器片（皿3片・内耳鍋1片）が出土している。

所見 時期, 性格は不明である。



第59図 第103号土坑実測図

第103号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第59図 1	高台付 須恵器	D( 8.0) E( 1.3)	高台部から底部片。高台部は短く垂直に付く。	底部内面ナデ。付け高台。	砂粒 灰白色 普通	P 103 10% 覆土

第108号土坑 (第60図)

位置 調査区の南側, D2g2区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.68m, 短径1.55mの円形で, 深さは1.18mである。

長径方向 N-3°-W。

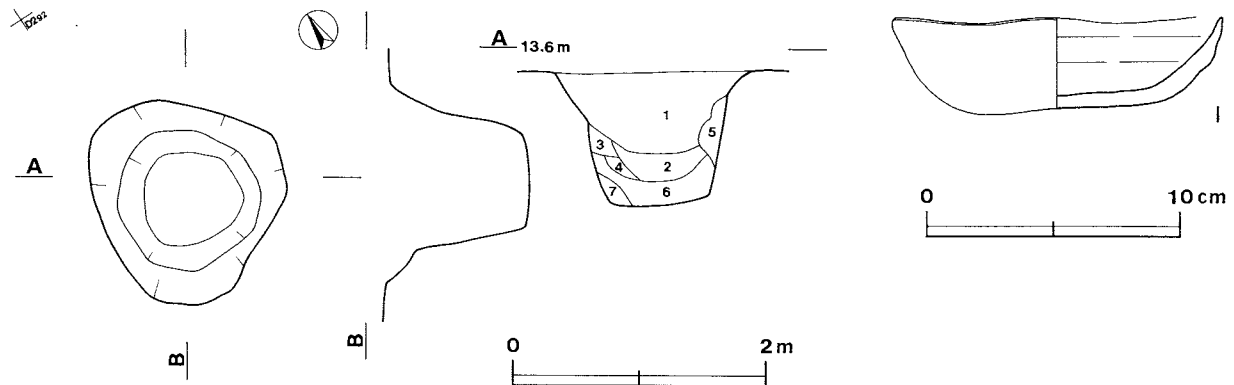
壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 7層から成る。第1層はローム粒子少量, ローム中ブロック微量, 炭化粒子微量含む黒色土層である。第2層はローム粒子少量, ローム大ブロック微量, 炭化粒子微量含む黒褐色土層である。第3層はローム粒子少量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量含む黒褐色土層である。第4層はローム粒子多量, ローム小ブロック多量, ローム大ブロック中量, 炭化粒子微量含む暗褐色土層である。第5層はローム粒子多量, 炭化粒子微量含む褐色土層である。第6層はローム大ブロック少量, 炭化物少量, 粘土大ブロック少量含む黒色土層である。第7層は粘土層で色は褐灰色である。粘土ブロックの存在から人為堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師器片(高台付坏1片), 土師質土器片(皿17片・鉢1片・甕2片)が出土している。皿17片は丸底皿片。

所見 出土遺物から13~14世紀の遺構と考えられるが, 性格は不明である。



第60図 第108号土坑実測・出土遺物実測図

第108号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第60図 1	皿 土師質土器	A 13.2 B 3.8	底部から口縁部片。平底気味。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面、体部内面、底部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母スコリア 灰白色、普通	P 105 45% 口縁部煤付着 覆土

第110号土坑（第61図）

位置 調査区の南側，D1e0区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.44m，短径1.08mの不整楕円形で，深さは1.18mである。

長径方向 N-22°-E。

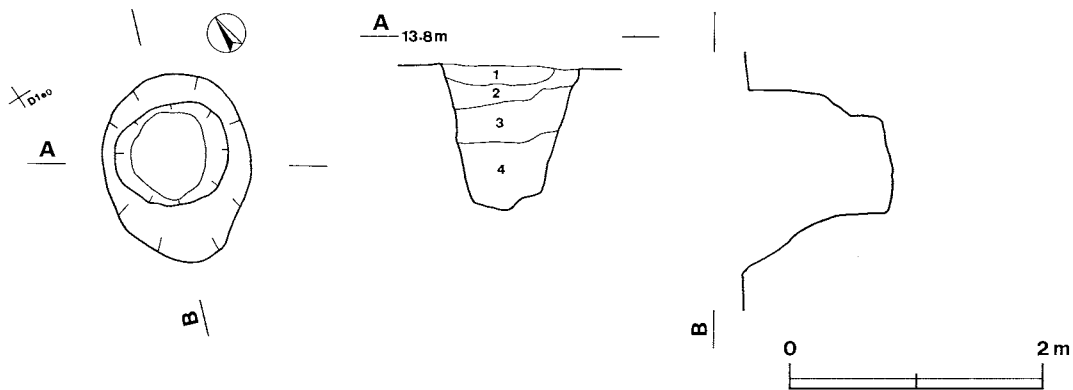
壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 4層から成る。第1層は粘土小ブロックを多量に含む黒色土層である。第2層は粘土中・大ブロックを多量に含む黒褐色土層である。第3層は焼土粒子微量，炭化物微量，粘土小ブロック多量，粘土大ブロック少量含む黒褐色土層である。第4層は粘土の小・中ブロックを中量含む黒褐色土層である。粘土ブロックが観察されることから人為堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿20片・内耳鍋1片），陶器片（甕体部1片）が出土している。

所見 出土遺物から13～14世紀の遺構と考えられるが，性格は不明である。



第61図 第110号土坑実測図

第112号土坑（第62図）

位置 調査区の南側，D1f0区を中心に確認。

規模と平面形 長径0.91m，短径0.77mのほぼ円形で，深さは0.52mである。

長径方向 N-19°-E。

壁面 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

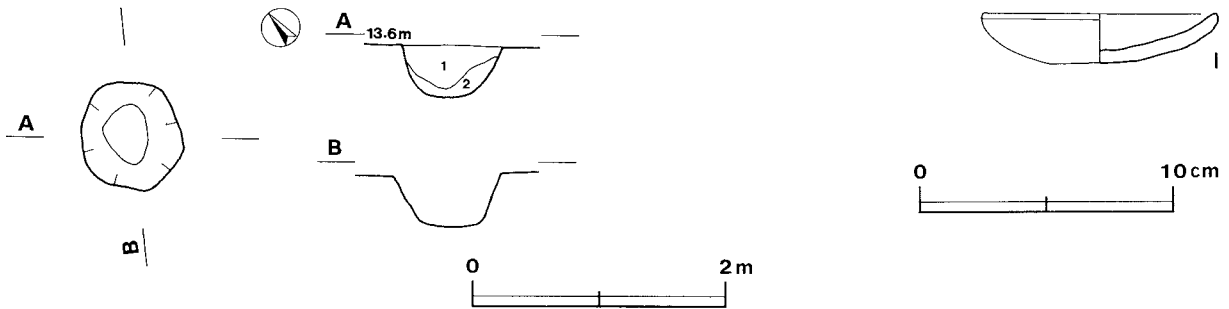
覆土 2層から成る。第1層はローム粒子多量，ロームブロック少量含む黒褐色土層である。第2層はローム粒子中量，ロームブロック少量含む黒色土層である。自然堆積と考えられる。

第112号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 1	皿 土師質土器	A 9.4 B 2.0	底部から口縁部片。丸底。体部、口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面、体部内面ナデ。	長石・雲母スコリア 橙色、普通	P 106 70% 覆土下層

遺物 覆土から土師質土器片（皿2片・甕1片）が出土している。皿2片は丸底皿片。

所見 時期，性格は不明である。



第62図 第112号土坑実測・出土遺物実測図

### 第122号土坑（第63図）

位置 調査区の南側，D1g0区を中心に確認。

規模と平面形 長径0.88m，短径0.84mの円形で，深さは0.57mである。

長径方向 N-0°。

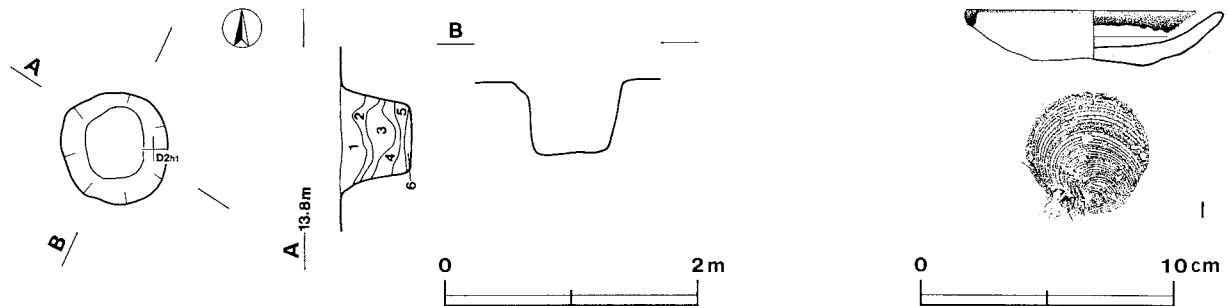
壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 6層から成る。第1層はローム中ブロック微量，炭化粒子微量，粘土の中ブロック微量含む暗褐色土層である。第2層はローム粒子少量，ローム大ブロック中量，炭化粒子少量，粘土粒子少量含む褐色土層である。第3層はローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量，炭化物微量，粘土小ブロック少量含む暗褐色土層である。第4層はローム粒子微量，ローム小ブロック微量，炭化物微量含む黒褐色土層である。第5層は炭化物を微量に含む暗褐色土層である。第6層はローム粒子を少量含む黒色土層である。黒褐色土に粘土のブロックがういているのが観察でき，人為堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿3片），覆土中層から瀬戸灰釉陶器（縁釉小皿1）が出土している。

所見 時期，性格は不明である。



第63図 第122号土坑実測・出土遺物実測図

### 第122号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第63図 1	縁釉小皿 陶器	A 10.2 B 2.2 C 4.4	口縁部微小欠損。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，直線的に外傾し外に開く。釉は口縁部内面，体部上位内面に施されている。	底部回転糸切り。	灰白色 (釉)灰オリーブ色 普通	P 107 97% 瀬戸産 覆土中層

### 第123号土坑（第64図）

位置 調査区の南側，D2i o区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.87m，短径1.50mの楕円形で，深さは0.77mである。

長径方向 N-25°-E。

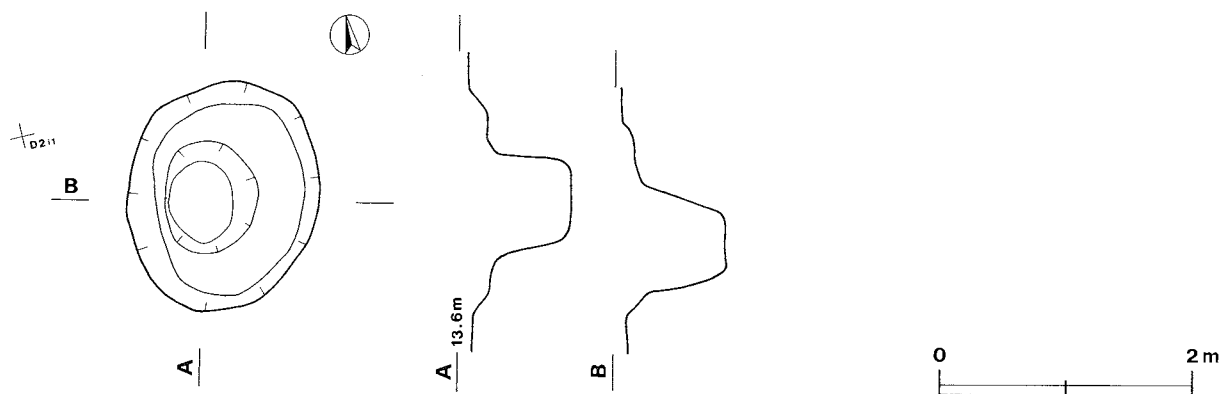
壁面 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 黒褐色土で自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿14片・内耳鍋21片）が出土している。皿14片はほとんど丸底皿片。

所見 時期，性格は不明である。



第64図 第123号土坑実測図

### 第124号土坑（第65図）

位置 調査区の南側，D2h1区を中心に確認。

規模と平面形 長径2.40m，短径1.70mの不整楕円形で，深さは0.25mである。

長径方向 N-54°-E。

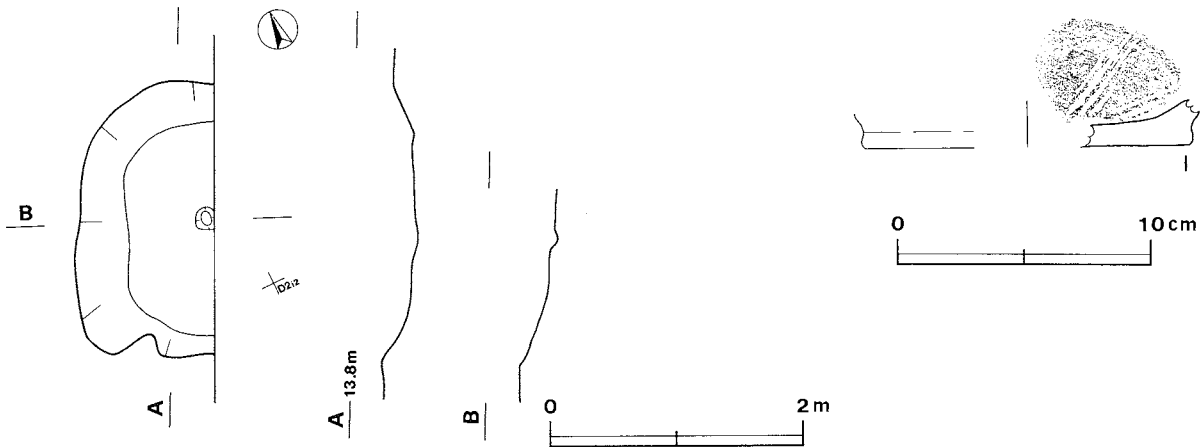
壁面 内彎しながら立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 黒褐色土で自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿6片・内耳鍋1片・播鉢1片），常滑陶器片（甕1片）が出土している。

所見 時期，性格は不明である。



第65図 第124号土坑実測・出土遺物実測図

第124号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第65図 1	播鉢 土師質土器	B(1.4) C[12.9]	底部片。平底。	底部内面ナデ。底部内面には4本単位の櫛目が施されている。	砂粒・長石・石英 雲母・スコリア 橙色, 普通	P 108 3% 覆土

第126号土坑 (第66図)

位置 調査区の南側, C2es区を中心に確認。

規模と平面形 長径2.90m, 短径1.70mの不定形で, 深さは0.25mである。

長径方向 N-40°-W。

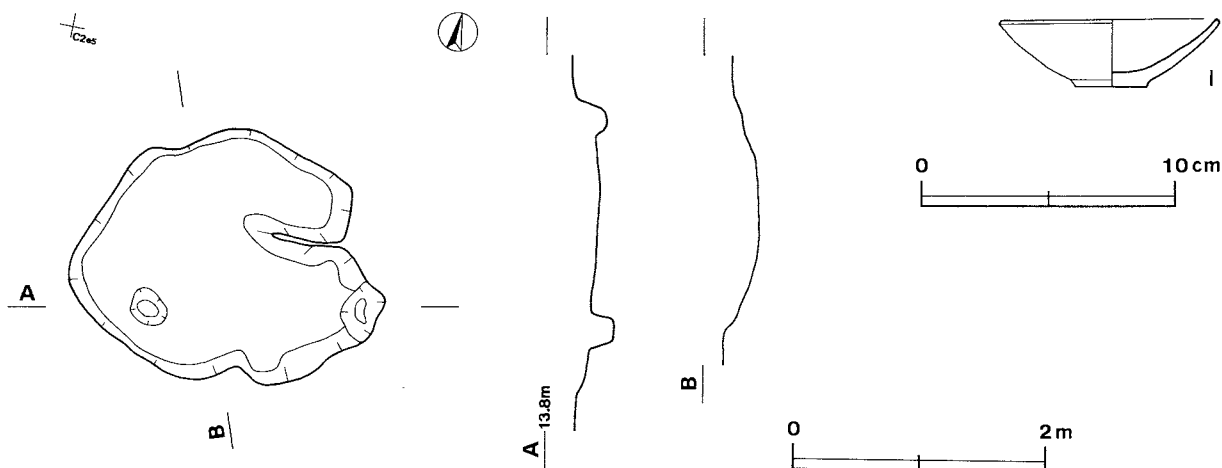
壁面 内彎ぎみに立ち上がる。

底面 皿状で, 深さ0.20mほどのピットを2つもつ。

覆土 黒褐色土で自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片(皿7片), 白磁片(1片)が出土している。丸底・平底皿片が混じる。

所見 時期, 性格は不明である。



第66図 第126号土坑実測・出土遺物実測図

第126号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第66図 1	皿 土師質土器	A 8.1 B 3.1 C 2.9	平底。体部, 口縁部は直線的に外傾する。口縁部径や器高に比して底部径が小さい。	水挽き成形。底部回転糸切り。	長石・雲母 スコリア 鈍い橙色, 良好	P 113 100% 覆土

表2 その他の土坑一覧表

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	出土遺物	備 考	図版 番号
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
SK- 1	A3g5	N-5°-W	不整楕円形	2.25×1.58	72	外傾	凹凸	自然	第1号堀と重複		67
SK- 2	A3g4	N-15°-E	不整楕円形	1.00×0.60	15	外傾	皿	自然			67
SK- 4	A3g3	N-78°-E	不定形	3.60×1.00	30	外傾	平坦	自然			67
SK- 5	A3i2	N-65°-W	楕円形	1.60×1.20	22	外傾	ほぼ平坦	自然			67
SK- 7	A3j2	N-90°-W	ほぼ円形	0.70×0.55	22	緩傾	皿	自然			67
SK-14	B3b1	N-83°-W	楕円形	2.10×1.25	25	緩傾	ほぼ平坦	人為			67
SK-16	B3d2	N-80°-W	楕円形	1.12×0.80	77	外傾	ほぼ平坦	自然	土師質土器片 (皿2・内耳鍋1)		67
SK-17	B3d2	N-49°-E	不整楕円形	4.12×1.37	29	外傾	ほぼ平坦	自然			67
SK-20	B3d1	N-1°-W	楕円形	1.78×1.52	44	緩傾	傾斜	自然			67
SK-21	B3d1	N-48°-E	楕円形	1.21×0.86	32	緩傾	凹	自然			68
SK-25	B3e2	N-59°-W	不整楕円形	0.94×0.52	14	緩傾	ほぼ平坦	自然			68
SK-27	B3f2	N-73°-W	ほぼ円形	0.76×0.68	14	緩傾	平坦	自然			68
SK-28	B3f2	N-9°-E	不整楕円形	1.06×0.62	36	緩傾	凹	自然			68
SK-30	B3e1	N-16°-E	不整楕円形	1.14×0.56	112	外傾	平坦	人為			68
SK-37	B3g1	N-13°-E	円形	0.70×0.65	70	垂直	平坦	自然			68
SK-38	B3g1	N-0°	円形	0.65×0.60	40	垂直	平坦	自然			68
SK-39	B2g0	N-32°-E	不定形	2.15×1.40	35	緩傾	凹	人為			68
SK-40	B2g0	N-8°-E	不定形	3.20×1.30	30	垂直	凹凸	自然			68
SK-43	B2g8	N-32°-W	不定形	1.64×1.26	58	外傾	平坦	自然	土師質土器片(皿6)		69
SK-44	B2i8	N-33°-E	不定形	2.00×1.31	19	外傾	平坦	自然			69
SK-45	B2h9	N-43°-W	ほぼ円形	1.19×0.98	36	緩傾	凹	自然			68
SK-49	B3i1	N-65°-E	不定形	0.95×0.75	25	緩傾	皿	自然			69
SK-50	B3j1	N-21°-E	不定形	1.05×0.85	30	緩傾	傾斜	自然			69
SK-55	C2a7	N-59°-W	不定形	2.08×0.76	64	外傾	平坦	自然			69
SK-58	C2a9	N-21°-W	不整長方形	1.08×0.86	34	外傾	やや凹	自然			69
SK-66	C2b7	N-73°-E	ほぼ円形	1.00×0.88	78	垂直	平坦	自然			69
SK-67	C2c6	N-36°-E	ほぼ円形	0.95×0.80	60	垂直	平坦	自然			69
SK-69	C2c7	N-47°-W	楕円形	1.04×0.79	26	緩傾	皿	自然			69
SK-70	C2c7	N-65°-W	不定形	1.56×0.84	82	垂直	ほぼ平坦	自然			69
SK-71	C2b8	N-43°-E	不定形	1.14×0.68	44	緩傾	平坦	人為			70
SK-72	C2b8	N-47°-W	不定形	1.54×0.62	14	緩傾	皿	自然			70
SK-73	C2b9	N-76°-E	不定形	2.38×1.08	38	緩傾	ほぼ平坦	自然			70
SK-74	C2c8	N-11°-E	不定形	2.05×0.30	40	垂直	凹凸	自然			70
SK-78	C2f8	N-57°-W	ほぼ円形	0.95×0.75	60	垂直	平坦	人為			70
SK-79	C2g7	N-17°-W	不整長方形	2.05×0.72	25	緩傾	凹	自然			70
SK-80	C2f6	N-0.5°-W	不整長方形	1.32×0.66	13	緩傾	ほぼ平坦	自然			70
SK-81	C2f6	N-32°-W	楕円形	1.24×0.90	12	緩傾	平坦	自然			70
SK-82	C2f5	N-18°-W	不定形	1.95×0.90	20	緩傾	凹	自然			70
SK-83	C2g6	N-54°-W	不整楕円形	1.20×0.70	5	緩傾	平坦	自然			70
SK-84	C2f4	N-15°-W	長方形	1.90×0.80	45	垂直	平坦	人為			70
SK-85	C2f4	N-66°-E	ほぼ円形	0.76×0.62	62	垂直	ほぼ平坦	自然			71
SK-87	C2g4	N-28°-W	円形	0.92×0.86	50	緩傾	平坦	人為			71
SK-88	C2g4	N-65°-E	不定形	2.12×0.66	20	緩傾	ほぼ平坦	自然			71
SK-89	C2h3	N-15°-E	不定形	3.10×1.20	74	緩傾	凹	人為			71
SK-90	C2h3	N-22°-E	不整楕円形	3.09×1.10	15	緩傾	平坦	自然			71

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	出土遺物	備 考	図版 番号
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
SK-91	C2g3	N-65°-E	楕円形	0.90×0.55	5	外 傾	平坦	自 然			71
SK-93	C2i4	N-90°-E	半円形	0.87×0.50	60	垂 直	平坦	自 然			71
SK-96	C2a7	N-41°-W	楕円形	1.30×1.00	130	外 傾	平坦	人 為			71
SK-97	C2d8	N-90°-E	ほぼ円形	1.40×1.20	86	袋 状	平坦	自 然		第3号溝と重複	72
SK-98	B2f9	N-21°-E	不定形	0.77×0.68	58	垂 直	平坦	自 然		第1号溝と重複	72
SK-99	B3f2	N-61°-W	楕円形	0.68×0.59	75	垂 直	平坦	自 然		第1号溝と重複	72
SK-104	D2e2	N-67°-E	楕円形	1.20×1.05	60	外 傾	平坦	人 為			72
SK-105	D2e2	N-79°-E	不整円形	0.88×0.82	48	外 傾	平坦	自 然			72
SK-107	D2f1	N-42°-E	不整楕円形	0.80×0.74	37	垂 直	平坦	人 為			72
SK-109	D1e0	N-55°-E	不整楕円形	1.50×1.00	80	垂 直	平坦	人 為			72
SK-111	D1f0	N-42°-W	不整楕円形	1.50×0.88	90	垂 直	平坦	自 然			72
SK-113	D1f0	N-25°-E	不定形	2.05×0.90	70	外 傾	平坦	人 為			72
SK-114	D1f9	N-10°-W	不定形	2.04×0.64	60	垂 直	平坦	人 為			72
SK-115	D2d1	N-80°-E	ほぼ円形	1.06×0.92	76	垂 直	平坦	自 然			73
SK-116	D2e1	N-82°-E	不整円形	1.20×0.94	20	外 傾	平坦	自 然			73
SK-117	D1f0	N-8°-E	不整円形	0.86×0.78	34	外 傾	凹	自 然			73
SK-118	D1e9	N-30°-E	不定形	1.80×0.75	50	外 傾	平坦	人 為			73
SK-119	D1f9	N-46°-E	ほぼ円形	0.88×0.71	34	緩 傾	平坦	自 然			73
SK-120	D1g9	N-64°-W	円形	1.10×1.02	42	外 傾	凹	自 然			73
SK-121	D1g0	N-85°-W	不整楕円形	1.12×0.72	67	垂 直	凹凸	人 為			73
SK-127	C2d6	N-74°-W	不定形	0.12×0.10	76	外 傾	ほぼ平坦	自 然			73
SK-128	D1f9	N-63°-W	不整楕円形	1.12×0.84	74	垂 直	平坦	自 然			73

その他の土坑土層解説

SK-14

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム大ブロック多量, 炭化物微量

SK-30

- 1 黒色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中・小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量, ローム大・中・小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 黒色 ローム粒子微量
- 5 極暗褐色 ローム粒子中量
- 6 黒色 ローム粒子少量

SK-40

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子多量, 粘土小ブロック多量

SK-45

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 橙 色 ローム粒子多量

SK-55

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量, 粘土小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量, 粘土小ブロック中量
- 5 黒褐色 ローム粒子多量, 粘土中ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム粒子多量
- 7 黒褐色 ローム粒子中量

SK-67

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック少量, 炭化物微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック多量, 炭化粒子少量

SK-20

- 1 黒褐色 ローム粒子微量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

SK-38

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 粘土小ブロック少量
- 2 橙 色 粘土粒子多量

SK-43

- 1 灰褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 粘土小ブロック少量
- 2 褐灰色 ローム粒子微量, 粘土小ブロック微量
- 3 褐灰色 粘土小ブロック少量, 砂粒少量
- 4 灰褐色 粘土ブロック多量
- 5 明褐色 ローム小ブロック多量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 8 黒褐色 粘土小ブロック少量
- 9 明褐色 ローム小ブロック多量, 黒色ブロック少量

SK-58

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, 炭化物微量, 粘土小ブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量, 炭化粒子微量, 焼土粒子微量, 粘土小ブロック少量
- 3 橙 色 ローム粒子多量

SK-69

- 1 灰褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック少量
- 2 鈍い褐色 粘土ブロック多量

SK-71

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ローム大ブロック多量, 炭化物微量

SK-21

- 1 黒 色 ローム粒子少量, 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子多量

SK-39

- 1 黒 色 ローム粒子少量, 粘土小ブロック少量
- 2 黒 色 ローム粒子中量, 粘土中ブロック少量
- 3 橙 色 粘土粒子多量

SK-44

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック中量, 粘土小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子微量
- 3 鈍い褐色 ローム粒子少量, 粘土小ブロック多量
- 4 鈍い褐色 粘土小ブロック多量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック少量

SK-66

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 粘土小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量, 粘土小ブロック少量
- 3 黒 色 焼土粒子微量, 粘土小ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 粘土小ブロック少量
- 5 鈍い褐色 粘土粒子多量

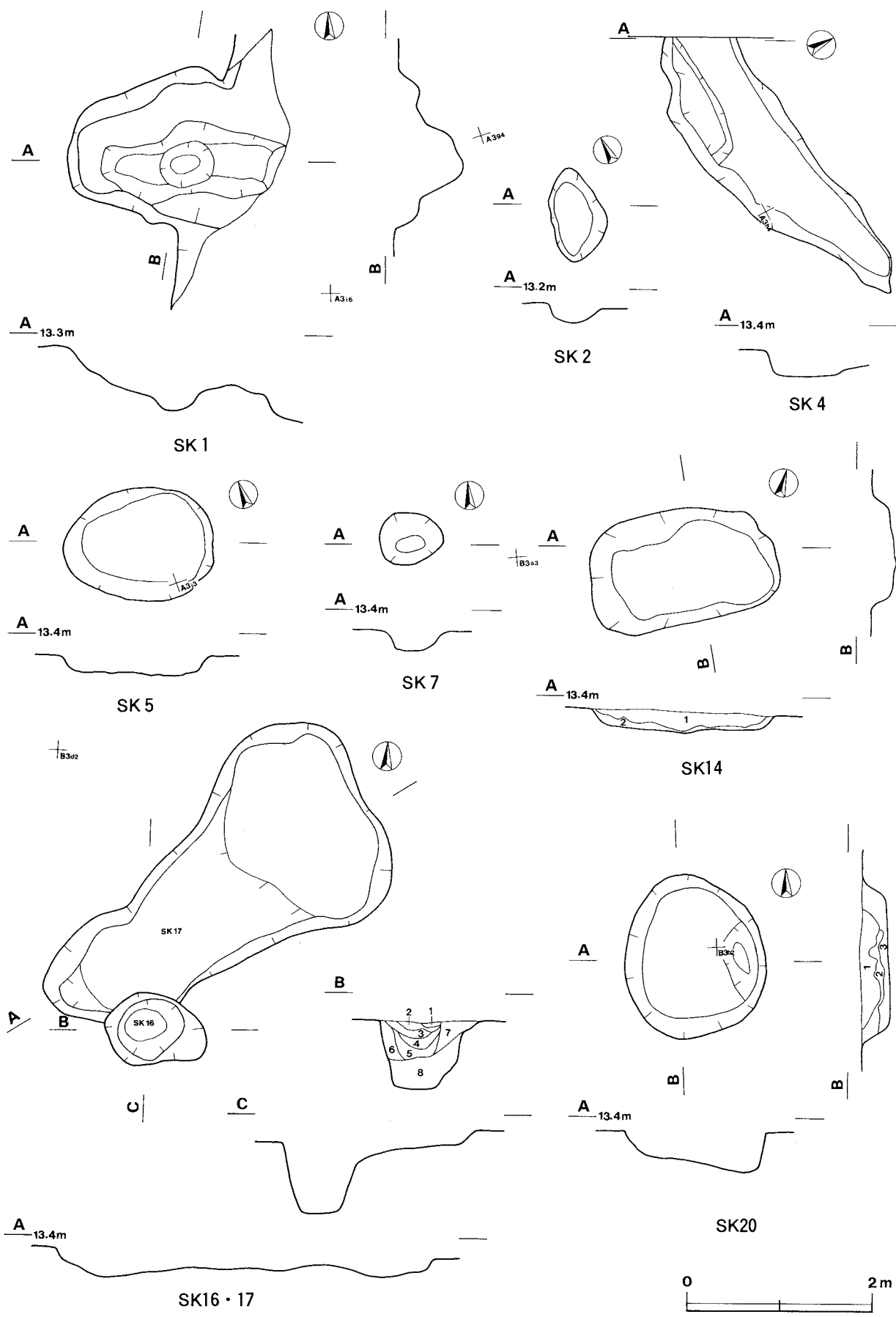
SK-70

- 1 黒 色 ローム粒子微量, 炭化粒子微量, 焼土粒子微量
- 2 鈍い褐色 粘土粒子中量
- 3 鈍い褐色 粘土粒子多量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 粘土小ブロック少量

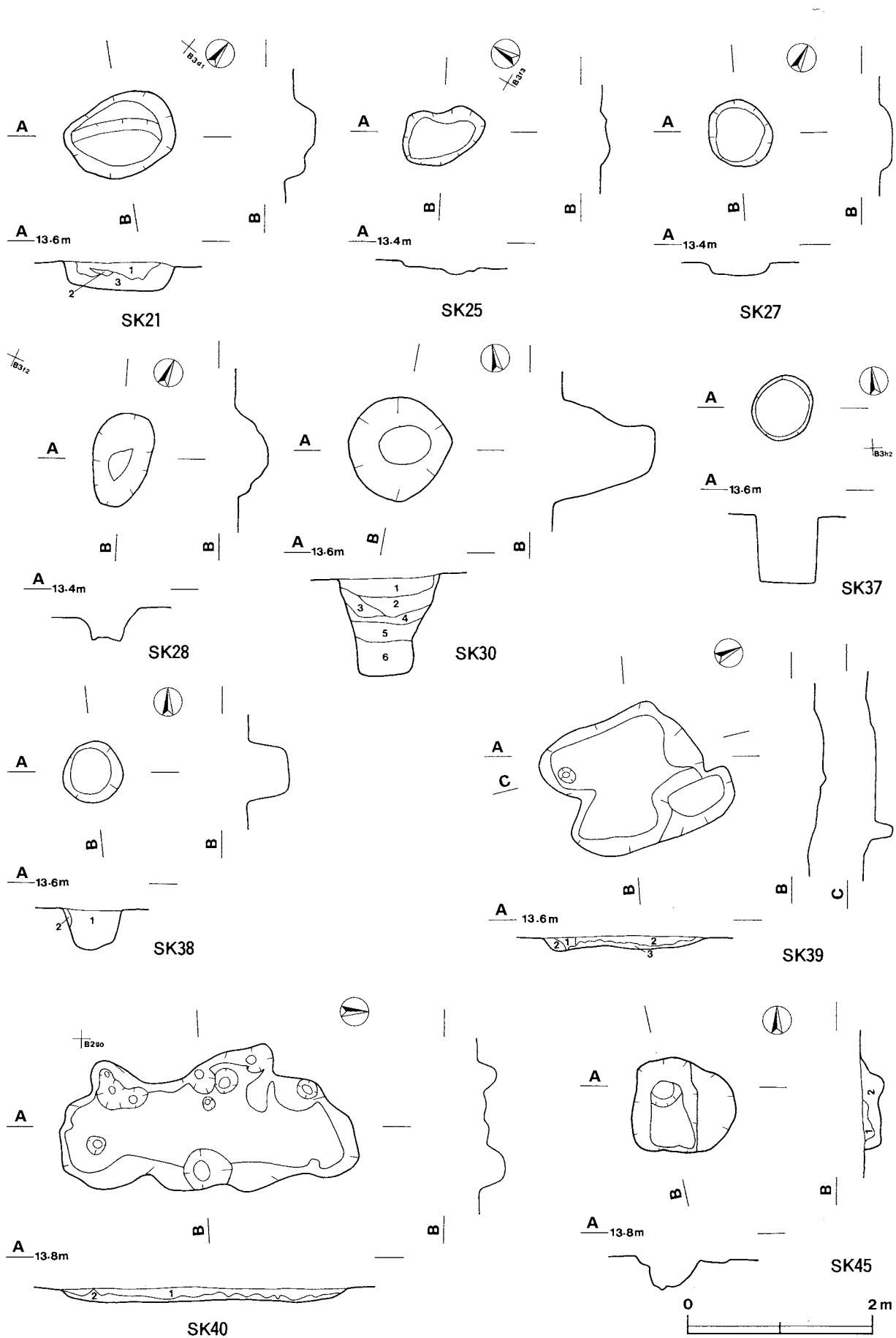
SK-72

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム大ブロック多量, 炭化粒子少量

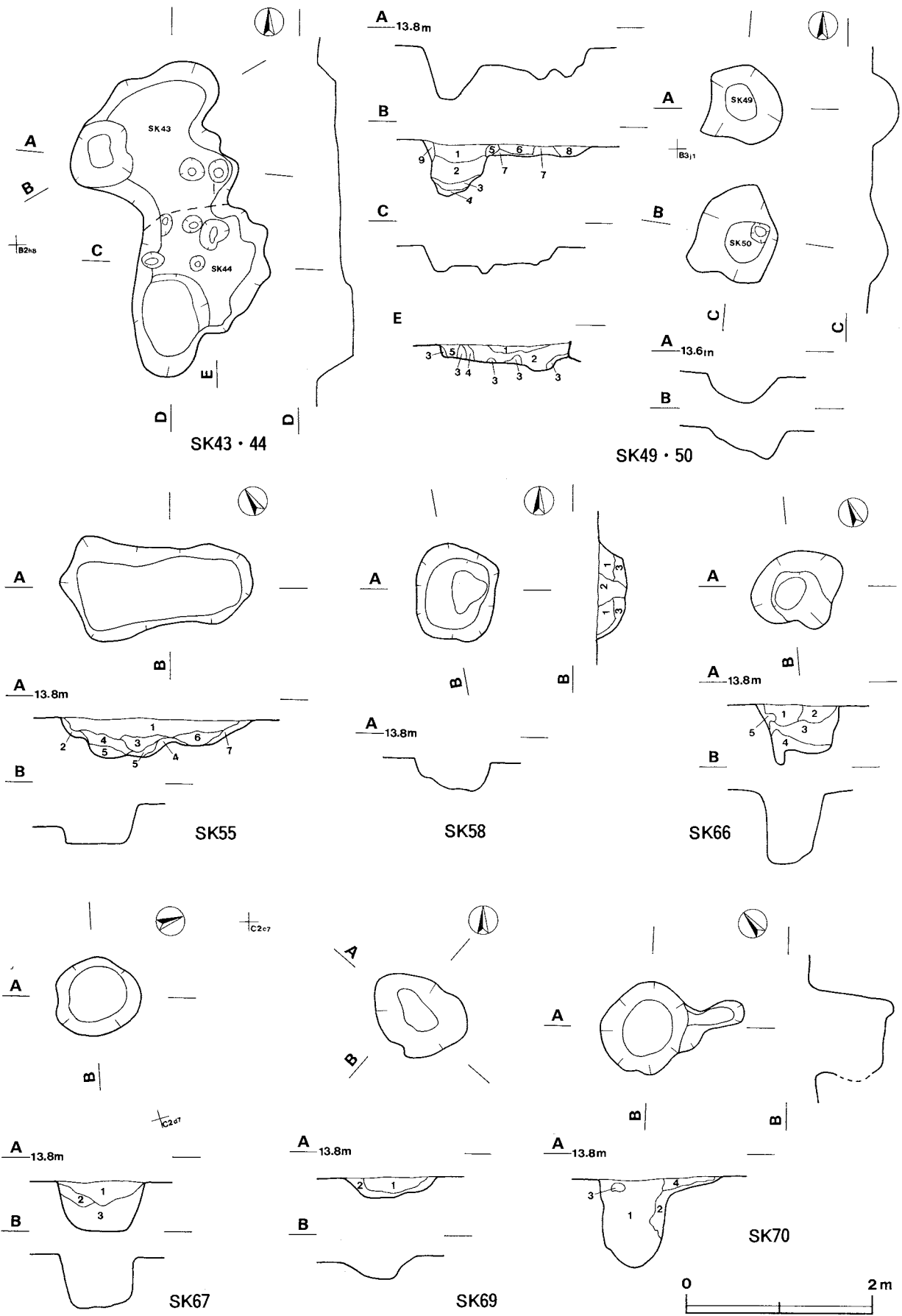




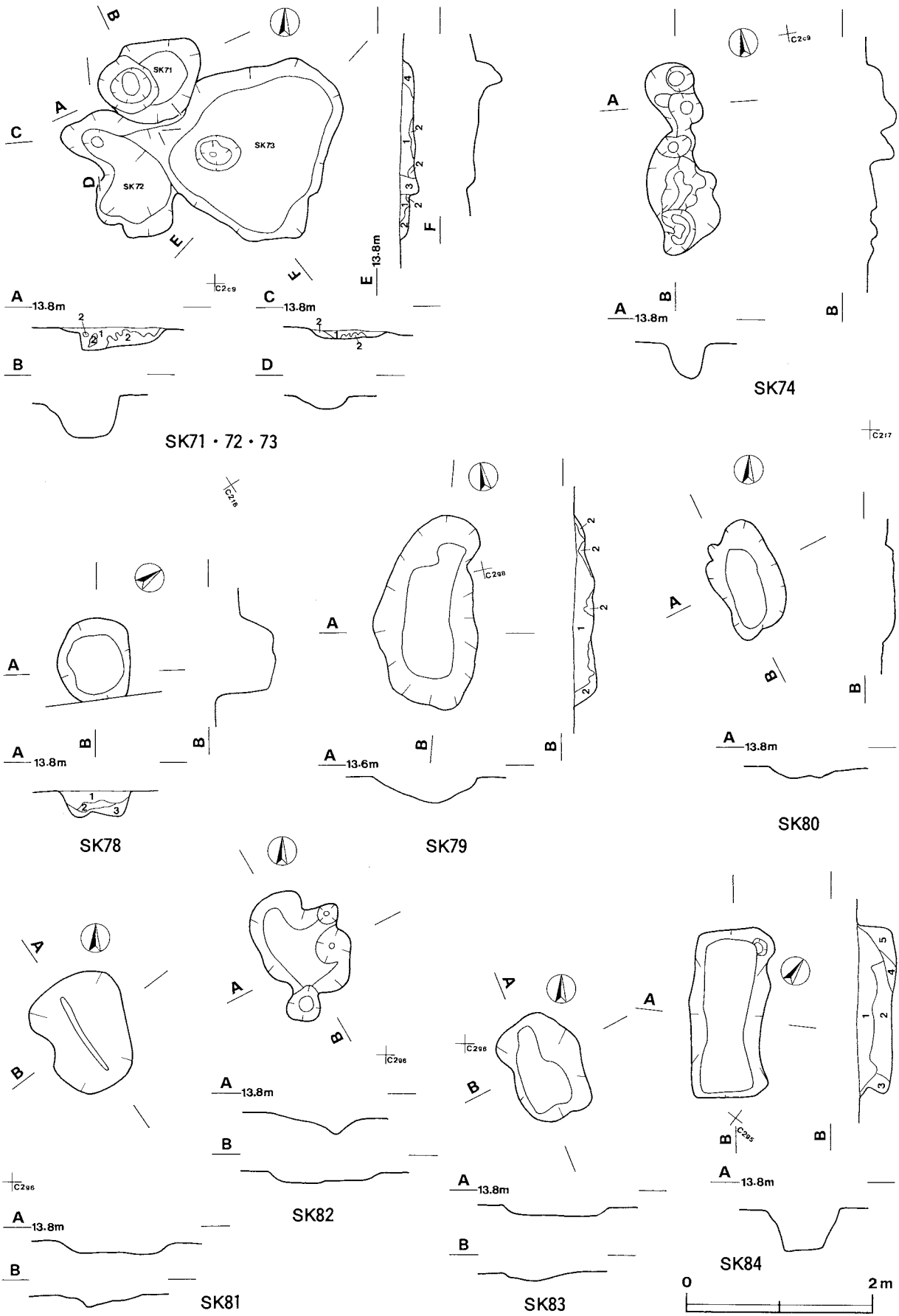
第67图 第1·2·4·5·7·14·16·17·20号土坑实测图



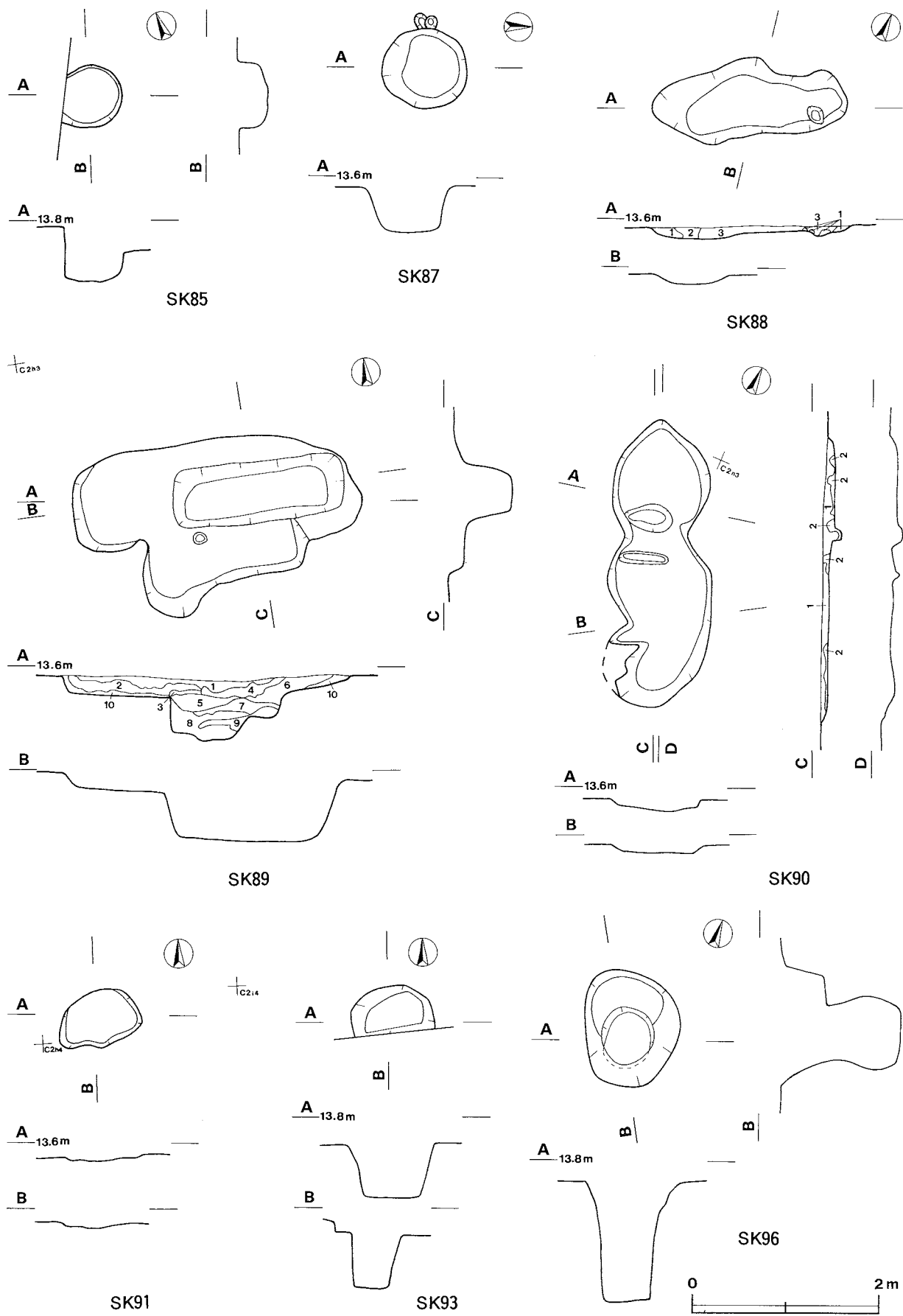
第68图 第21·25·27·28·30·37~40·45号土坑实测图



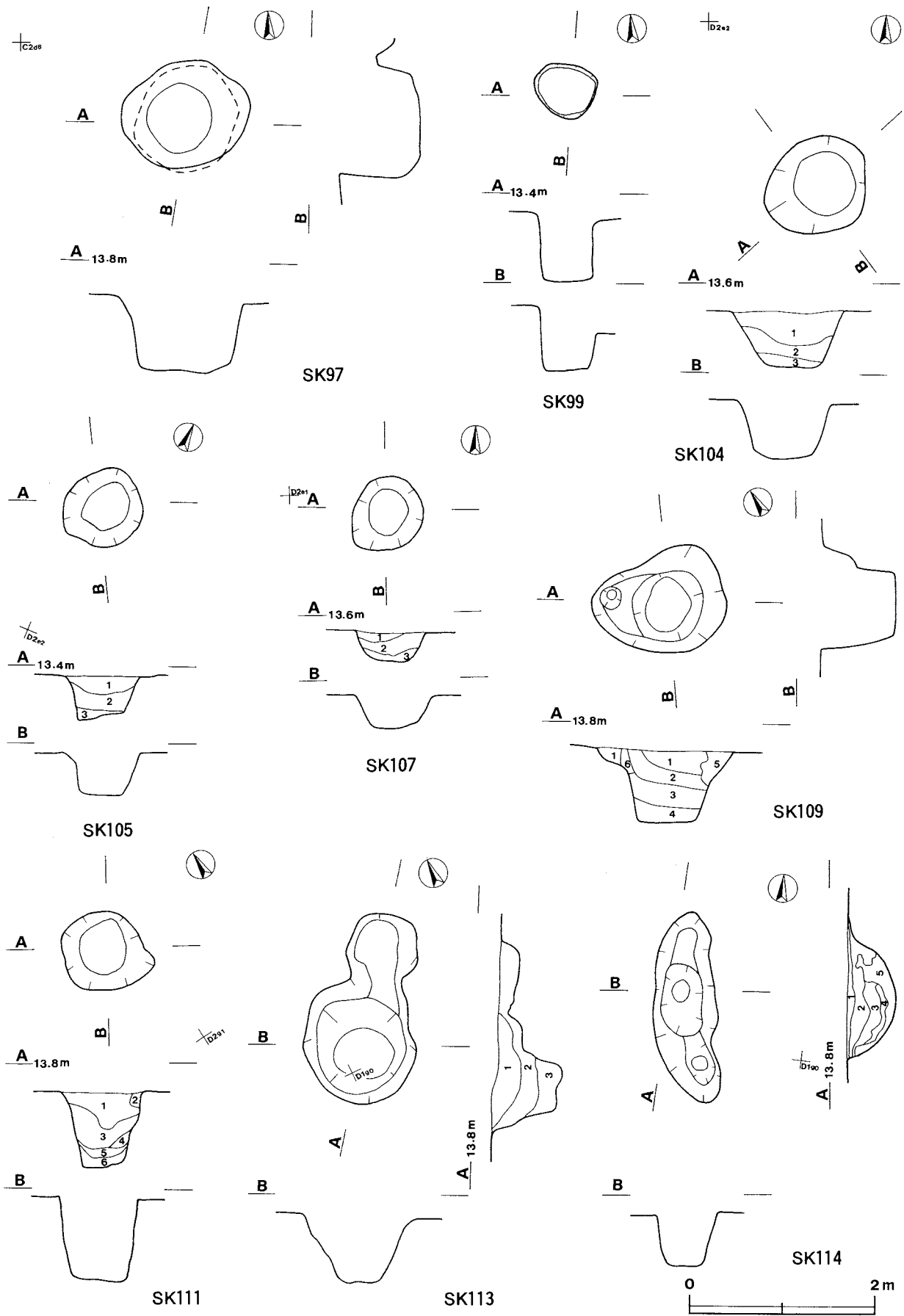
第69图 第43·44·49·50·55·58·66·67·69·70号土坑实测图



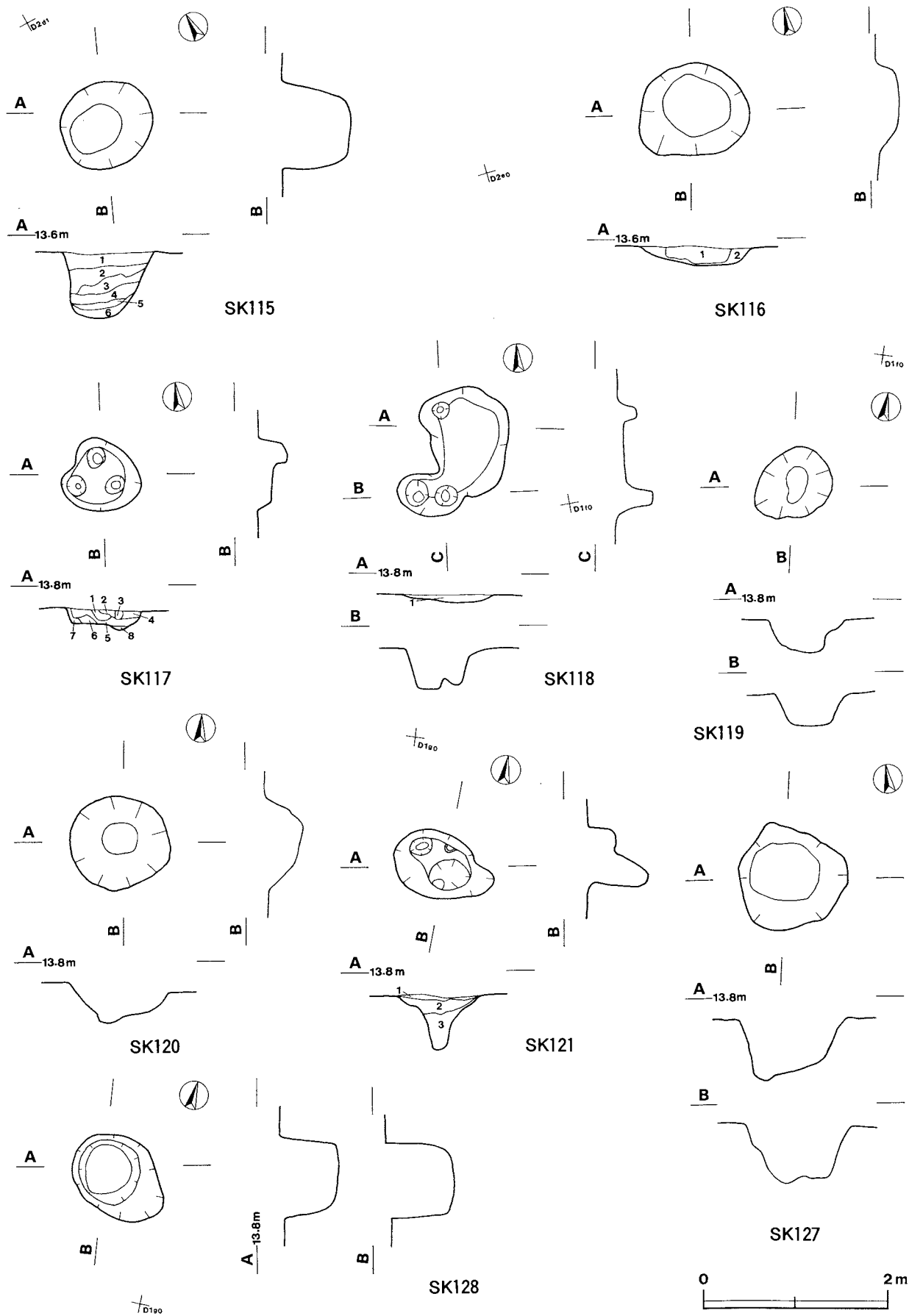
第70图 第71~74·78~84号土坑实测图



第71图 第85·87~91·93·96号土坑实测图



第72图 第97·99·104·105·107·109·111·113·114号土坑实测图



第73图 第115~121·127~128号土坑实测图

<b>SK-75</b>	1 暗褐色 ローム中ブロック少量、炭化粒子少量	<b>SK-78</b>	1 極暗褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック少量、ローム中ブロック中量	<b>SK-79</b>	1 極暗褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック微量、炭化物微量
	2 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック多量、炭化粒子微量		2 極暗褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック少量		2 暗褐色 ローム大ブロック多量
			3 極暗褐色 ローム大ブロック多量		
<b>SK-84</b>	1 黒褐色 ローム粒子微量	<b>SK-88</b>	1 明褐色 ローム粒子多量	<b>SK-89</b>	1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中・小ブロック少量、ローム大ブロック微量
	2 暗褐色 ローム粒子微量		2 褐色 ローム粒子多量		2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中・小ブロック少量、炭化物微量
	3 褐色 ローム粒子中量、ローム大・小ブロック多量		3 暗褐色 ローム粒子中量		3 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック少量
	4 褐色 ローム中・小ブロック中量、ローム大ブロック多量	<b>SK-104</b>	1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量		4 暗褐色 ローム粒子微量、ローム中ブロック微量
	5 暗褐色 ローム粒子微量、ローム中ブロック少量		2 黒褐色 ローム粒子微量		5 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
<b>SK-90</b>	1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量		3 暗褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック少量、ローム中ブロック中量		6 暗褐色 ローム粒子少量
	2 明褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック多量				7 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック中量
					8 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、ローム大・中ブロック少量
<b>SK-105</b>	1 黒色 炭化粒子微量、焼土粒子微量	<b>SK-107</b>	1 黒褐色 ローム粒子微量		9 褐色 ローム粒子多量
	2 黒褐色 ローム粒子微量、ローム中ブロック微量		2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム大・中ブロック多量、炭化物微量		10 褐色 ローム粒子多量、粘土粒子微量
	3 褐色 ローム粒子多量		3 褐色 ローム粒子少量、炭化物微量	<b>SK-113</b>	1 黒褐色 ハードローム粒子多量、ハードローム大ブロック少量
<b>SK-109</b>	1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック少量、炭化粒子微量	<b>SK-111</b>	1 黒褐色 炭化粒子少量、焼土粒子少量、粘土中ブロック少量、粘土小ブロック多量		2 黒褐色 ハードローム中ブロック中量
	2 黒褐色 ローム大・中ブロック微量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量		2 褐色 黒褐色土ブロック少量		3 黒色 ハードローム小ブロック中量
	3 黒色 ローム粒子中量、ローム大ブロック微量、ローム中ブロック少量		3 黒褐色 焼土粒子少量、粘土小ブロック微量	<b>SK-114</b>	1 黒褐色 ハードローム中量、ハードローム大ブロック中量
	4 黒褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック少量、ローム中ブロック中量		4 黒褐色 焼土粒子少量、粘土小ブロック少量		2 黒褐色 ハードローム多量、ハードローム中ブロック少量、焼土粒子微量
	5 暗褐色 ローム小ブロック多量、炭化物微量、粘土粒子多量		5 黒褐色 焼土粒子少量、粘土小ブロック多量		3 黒褐色 ハードローム大・中ブロック多量
	6 褐色 ローム粒子多量		6 黒褐色 焼土粒子少量、粘土小ブロック少量		4 黒色 ハードローム小ブロック多量、炭化粒子少量、焼土粒子少量
<b>SK-115</b>	1 極暗褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック少量、ローム小ブロック微量、炭化粒子微量	<b>SK-116</b>	1 黒褐色 炭化粒子微量、炭化物微量		5 褐色 黒褐色土多量
	2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム大・中・小ブロック少量		2 褐色 ローム粒子多量	<b>SK-118</b>	1 褐色 ローム大ブロック中量、ローム中ブロック多量
	3 黒色 ローム粒子微量、ローム中ブロック極微量、炭化粒子微量	<b>SK-117</b>	1 鈍い褐色 ローム大・中ブロック少量、粘土大ブロック少量		
	4 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、炭化粒子少量		2 黒褐色 ローム中・小ブロック少量、粘土中ブロック少量	<b>SK-121</b>	1 灰褐色 ローム粒子微量、粘土粒子多量
	5 黒褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量		3 暗赤褐色 ローム小ブロック少量		2 明褐色 ローム大ブロック多量、炭化物微量
	6 褐色 ローム粒子多量		4 黒褐色 ローム小ブロック少量		3 灰褐色 粘土粒子多量
			5 褐色 ローム小ブロック多量		
			6 暗褐色 ローム中ブロック中量		
			7 褐色 ローム粒子多量		
			8 褐色 ローム粒子多量、粘土粒子微量		

## 6 地下式墳

### 第1号地下式墳（第74図）

位置 調査区の中央部、B3g1区を中心に確認。第1号溝と重複する。

規模と平面形 長径2.83m、短径1.90mの不整楕円形で、深さは1.60mである。

長径方向 N-17°-E。

壁面 床面から垂直に立ち上がる。

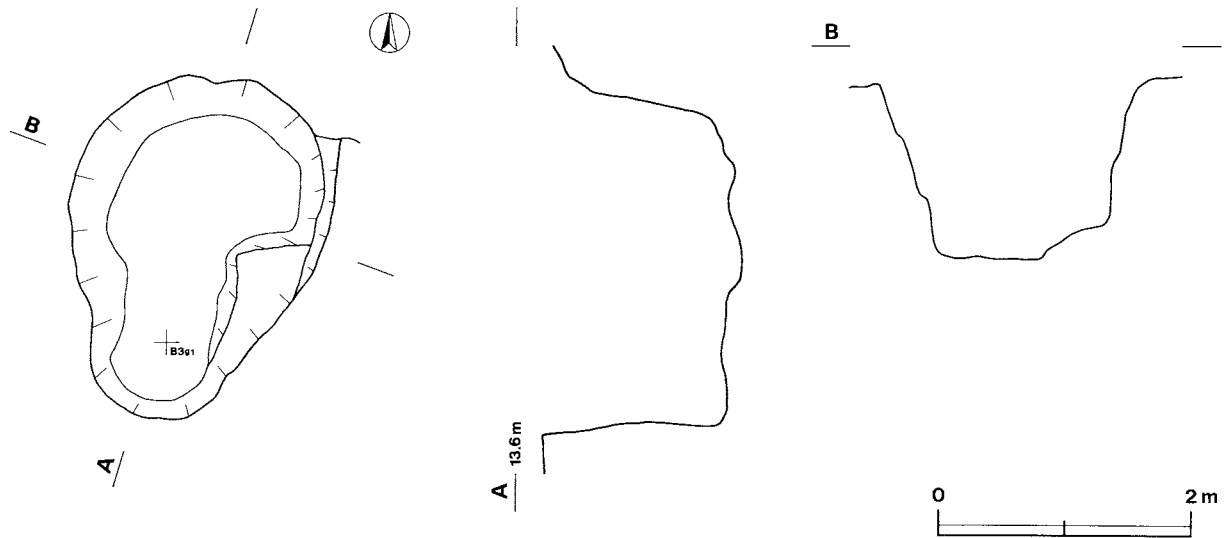
底面 平坦である。

覆土 黒褐色土で自然堆積と考えられる。

遺物 出土していない。



所見 かなり崩落してはいるが、断面図に見られる床面の垂直な立ち上がりや縦坑・主室の痕跡などから地下式墳と考えられる。



第74図 第1号地下式墳実測図

### 第2号地下式墳（第75図）

位置 調査区の中央付近，C2e7区を中心に確認。

規模と平面形 長径4.25m，短径3.45mの不整楕円形で，深さは1.45mである。

長径方向 N-85°-E。

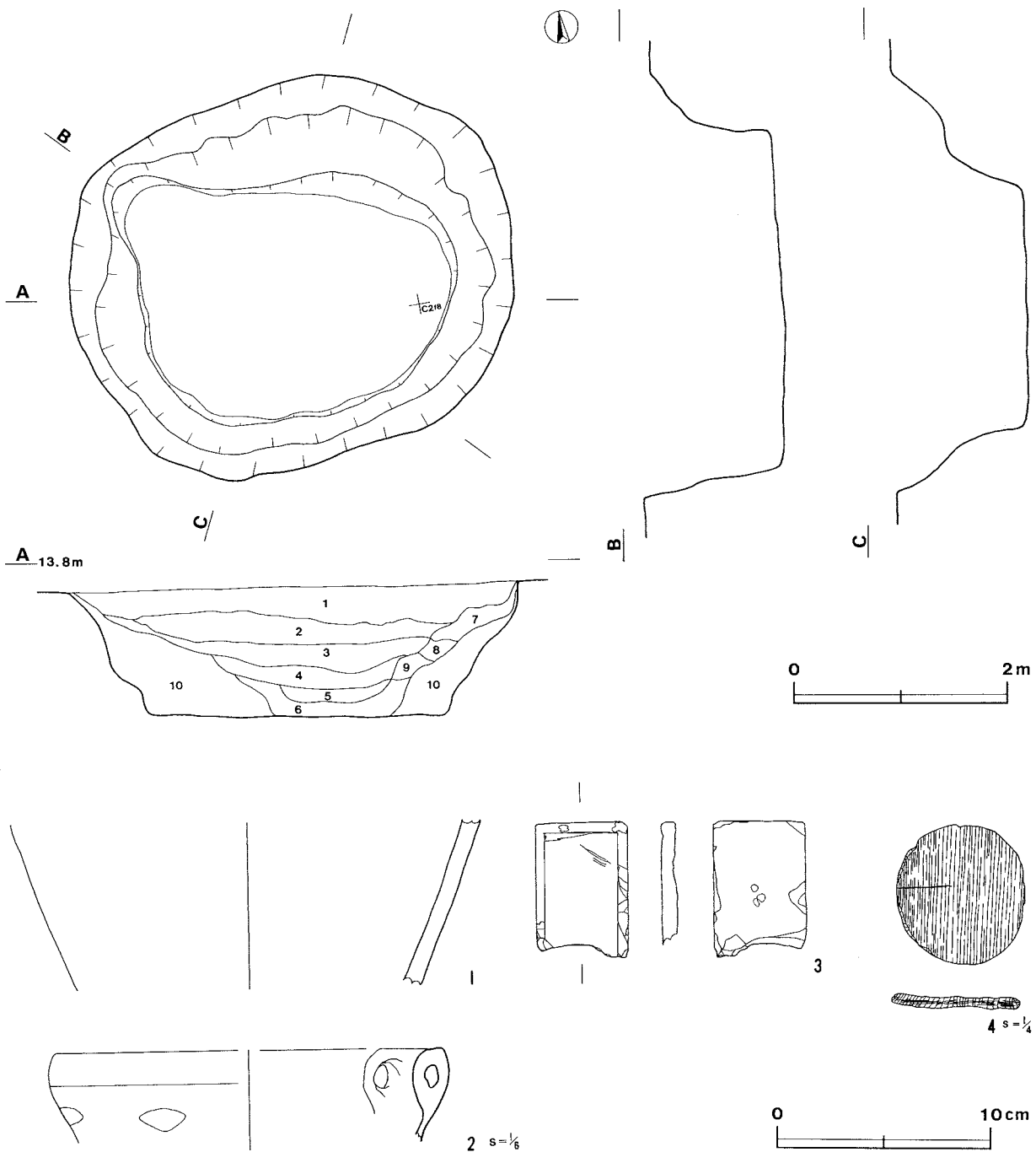
壁面 床面から垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 10層から成る。第1層はローム小ブロック中量，ローム粒子中量，炭化粒子微量，小石を含む黒褐色土層である。第2層はローム小ブロック少量，ローム粒子少量，炭化物微量，炭化粒子少量含む黒褐色土層である。第3層はローム中ブロック微量，ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量，小石を含む極暗褐色土層である。第4層はローム中ブロック微量，ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量，小石を含む黒色土層である。第5層はローム中ブロック微量，ローム小ブロック多量，炭化物少量，炭化粒子少量含む極暗褐色土層である。第6層はローム中ブロック中量，ローム粒子多量，炭化粒子少量含む暗褐色土層である。第7層はローム大ブロック少量，ローム中ブロック微量，ローム粒子中量，炭化粒子微量，小石を含む極暗褐色土層である。第8層はローム大ブロック少量，ローム中ブロック微量，ローム粒子微量，炭化粒子微量含む黒褐色土層である。第9層はローム粒子微量，炭化粒子微量，礫を含む極暗褐色土層である。第10層はローム粒子多量，炭化粒子微量含む黒褐色土層である。ロームブロックの存在から人為堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師器片（高台付坏2片），土師質土器片（皿56片・内耳鍋327片・播鉢12片），陶磁器片（23片），瓦片（1片）が出土している。

所見 崩落が激しいが，床面の垂直な立ち上がりや縦坑・主室の痕跡などが断面図から判断でき，地下式墳と考えられる。第6層はローム粒子を多量に含んでおり，主室の天井部が崩落して堆積したものである。天井部が崩落した穴に土器片を投げ込んで埋めたために，遺物が多量に出土したものである。



第75図 第2号地下式竈実測・出土遺物実測図

第2号地下式竈出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第75図 1	鉢 土師質土器	B ( 8.6)	体部片。体部はわずかに内彎する。	体部内・外面ナデ。体部内面に1本単位の櫛目が施されている。	砂粒・長石・石英 スコリア 灰黄褐色、普通	P 95 10% 覆土中層
2	内耳鍋 土師質土器	A (37.1) B 8.8	体部から口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部内面(耳下付け根上端)に段が巡る。口縁部外面(耳下付け根の高さ)に指頭圧痕が10cmほどの間隔で一周する。	口縁部内・外面横ナデ。体部上位内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P 96 10% 外面全体煤附着 覆土中層

図版番号	器種	石質	計測値			出土層位	整理番号	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)			
第75図3	硯	粘板岩	( 6.4)	4.3	0.7	覆土中層	Q 2	

図版番号	器種	計測値				出土層位	整理番号	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	最大高(cm)			
第75図4	曲物底部	(最大径)8.7	……………	0.9	……………	覆土下層	W47	側面に釘穴と思われる穿孔痕が4か所認められる。

## 7 井戸

### 第1号井戸（第76図）（旧第10号土坑）

位置 調査区の北側，B3c3区を中心に確認。

規模と平面形 長径0.85m，短径0.73mのほぼ円形で，深さは0.90mである。

長径方向 N-24°-E。

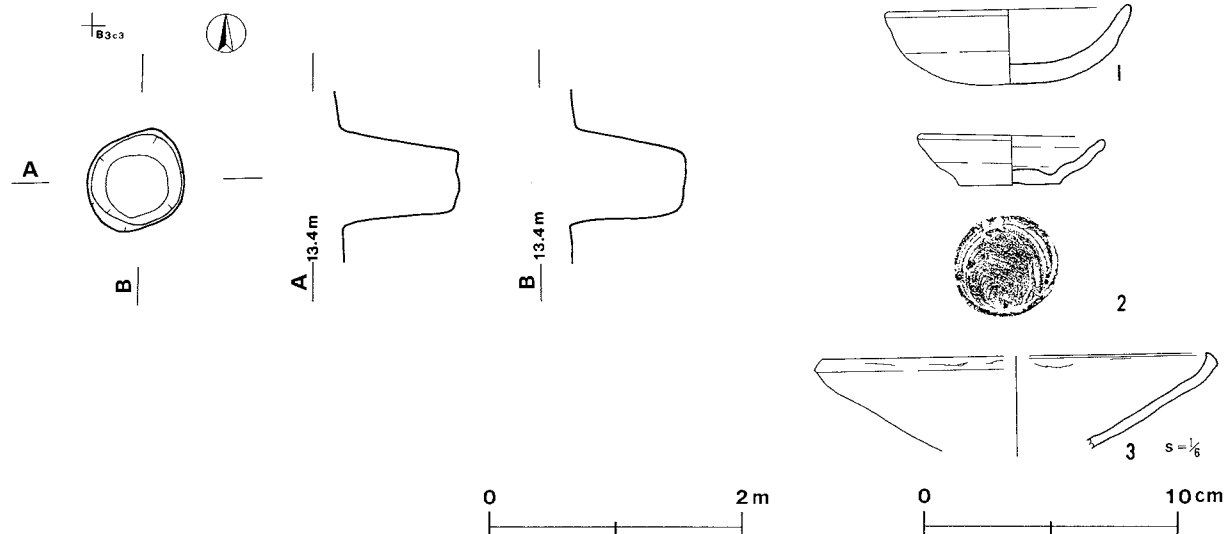
壁面 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 粘土層を掘り抜き礫層に達している。堆積土は黒色土で自然堆積と考えられる。

遺物 覆土中層から土師質土器片（皿7片・内耳鍋11片・播鉢3片）が出土している。丸底・平底皿片混入。

所見 時期は不明である。



第76図 第1号井戸実測・出土遺物実測図

### 第1号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第76図 1	皿 土師質土器	A 9.8 B 3.3	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面，体部内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 スコリア 鈍い黄橙，普通	P 10 45% 覆土
2	皿 土師質土器	A 7.5 B 2.0	口縁部一部欠損。平底。体部はわずかに外彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 暗褐色 普通	P 11 90% 内面全体煤付着 覆土
3	播鉢 土師質土器	A〔32.0〕 B〔7.4〕	体部，口縁部片。体部は直線的に外傾し，口縁部はわずかに厚みを増し，口縁部上端はやや内側にせり出す。	口縁部内・外面，体部内面ナデ。体部内面には4本単位の櫛目が施されている。	砂粒・長石・石英 雲母・スコリア 褐色，普通	P 12 10% 体部外面煤付着 覆土

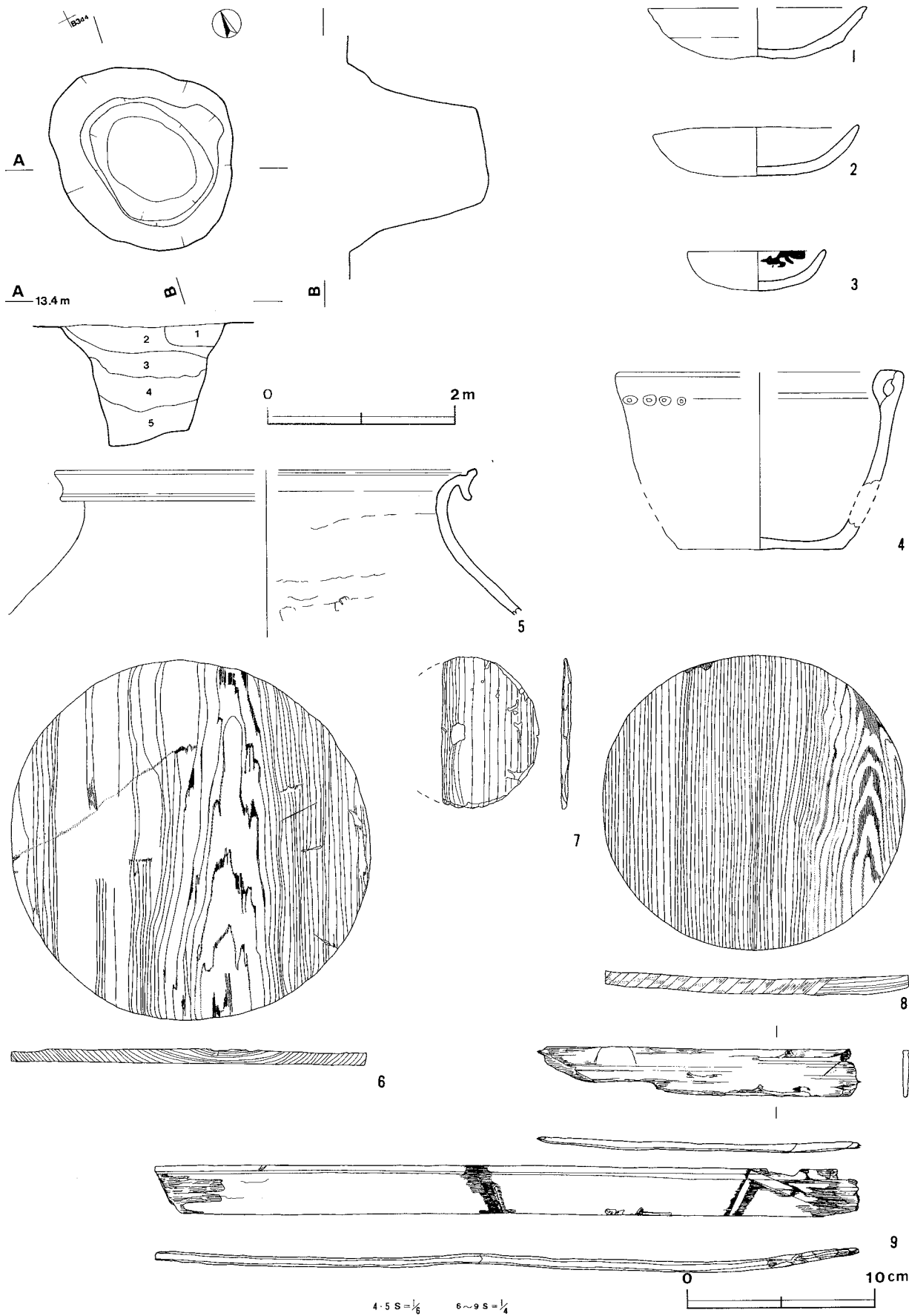
### 第2号井戸（第77図）（旧第11号土坑）

位置 調査区の北側，B3d3区を中心に確認。

規模と平面形 長径2.20m，短径1.90mの不整楕円形で，深さは1.50mである。

長径方向 N-13°-W。

壁面 床面から垂直に立ち上がり，確認面近くになって外傾する。



第77图 第2号井戸実測・出土遺物実測図

底面 平坦である。

覆土 礫層まで掘り込まれていて、5層から成る。第1層はローム粒子少量、ローム大ブロック微量、炭化物微量含む黒褐色土層である。第2層はローム粒子少量、炭化物微量含む黒褐色土層である。第3層はローム粒子少量、ローム小ブロック少量、炭化物少量含む黒褐色土層である。第4層はローム粒子微量、炭化物微量含む黒色土層である。第5層はローム粒子微量、炭化物微量含む黒色土層である。自然堆積と考えられる。

遺物 覆土下層から土師質土器片（皿19片・内耳鍋7片・甕1片）、常滑陶器片（甕1片）が出土している。皿19片はほとんど丸底皿片である。

所見 丸底皿片の出土から13～14世紀と考えられる。

### 第2号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第77図 1	皿 土師質土器	A 11.7 B 2.9	底部から口縁部片。丸底。体部、口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面、体部内面、底部内面ナデ。	砂粒・雲母 スコリア 橙色、普通	P 13 45% 覆土下層
2	皿 土師質土器	A 11.0 B 2.6	口縁部一部欠損。丸底。体部、口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面、体部内面、底部内面ナデ。	砂粒・雲母 スコリア 灰白色、普通	P 14 90% 覆土
3	皿 土師質土器	A 7.4 B 2.3	口縁部一部欠損。丸底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面、体部内面、底部内面ナデ。	長石・雲母 スコリア 灰白色、普通	P 15 85% 口縁部煤付着 覆土
4	内耳鍋 土師質土器	A [30.8] B [19.1] C 17.6	底部から口縁部片。底部は平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。口縁部内面（耳付け根下端）に段をもつ。口縁部と体部境外面に指頭圧痕。	口縁部内・外面、体部内面、底部内面ナデ。	砂粒・長石・石英 スコリア 黒褐色 普通	P 16 60% 外面全体煤付着 覆土
5	甕 陶器	A [45.2] B (15.1)	体部から口縁部片。体部から強く外反して続く口縁部は、下方に大きく折り曲げられ、折り目に上向きに付けられた隆起帯と相俟って幅広い縁帯を作る。	口縁部内・外面ナデ。	灰色 (釉)灰オリーブ色 普通	P 17 10% 常滑産 覆土中層

図版番号	器種	計測値			出土層位	整理番号	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)			
第77図6	曲げ物底部	(直径)25.2	………	1.0	覆土中層	W 5	側面に釘穴と思われる穿孔痕が4か所認められる。
7	曲げ物蓋	直径 10.7	………	0.6	覆土中層	W 4	中央部に不整長方形の穿孔が見られる。円周上縁辺部は、蓋として使用しやすいよう削られている。
8	曲げ物底部	(直径)21.0	………	0.9	覆土中層	W 6	側面に釘穴と思われる穿孔痕が4か所認められる。
9	不明木製品	50.0	3.6	0.3	覆土中層	W 7	

### 第3号井戸（第78図）（旧第15号土坑）

位置 調査区の北側、B3c1区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.70m、短径1.40mの楕円形で、深さは1.45mである。

長径方向 N-78°-E。

壁面 外傾して立ち上がる。

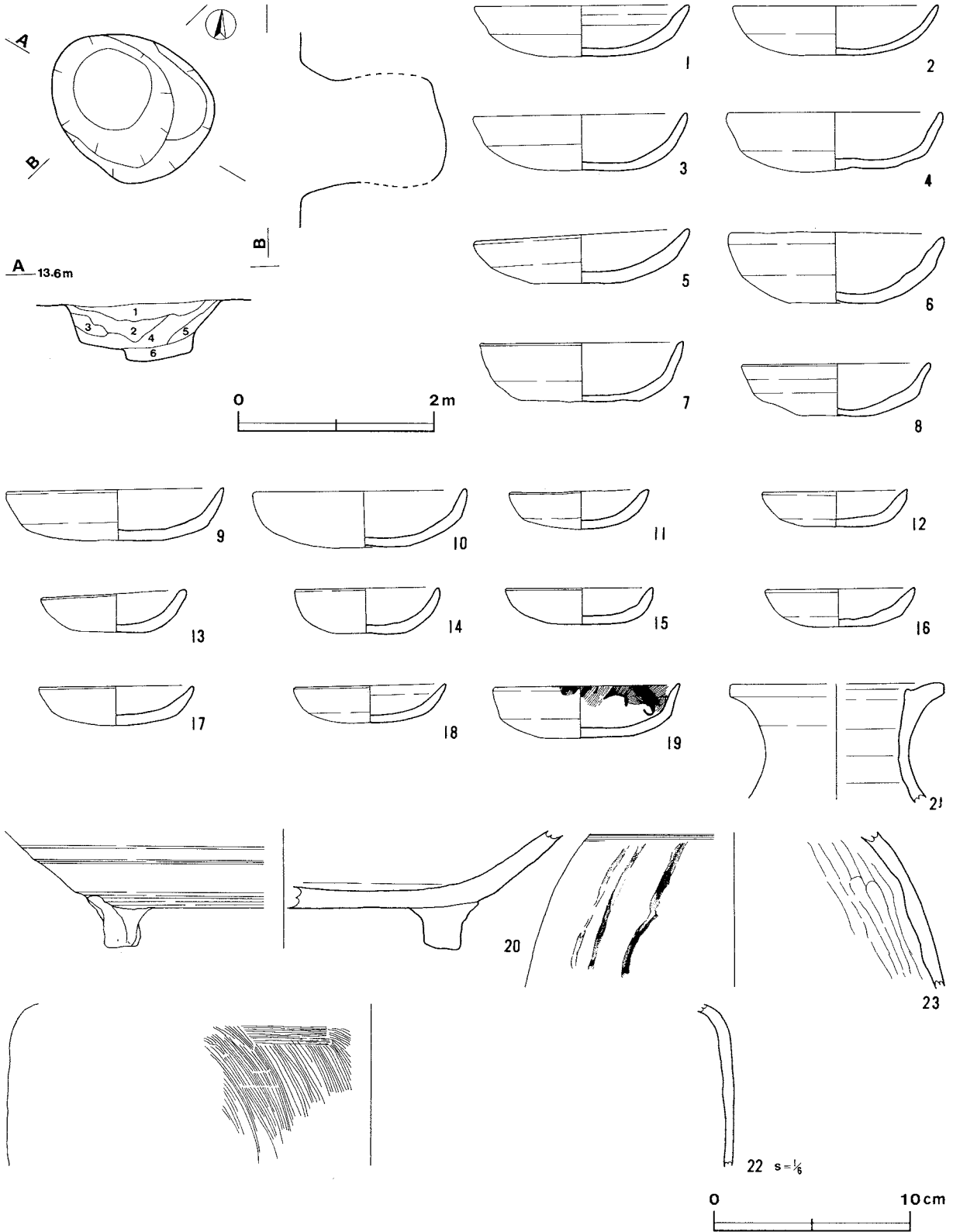
底面 はほぼ平坦である。

覆土 礫層まで掘り込まれていて、6層から成る。第1層はローム粒子中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子微量、小石を少量含む極暗褐色土層である。第2層はローム粒子微量、ローム中ブロック微量、炭化粒子微量含む黒褐色土層である。第3層はローム小ブロック少量、ローム大ブロック少量、炭化粒子微量、粘土粒子多量含む鈍い褐色土層である。第4層はローム小ブロック微量、炭化物多量含む黒褐色土層である。第5層はローム小ブロック多量、炭化物微量、粘土微量含む極暗褐色土層である。第6層はローム小ブロック少量、炭化物多量含む黒褐色土層である。覆土中層から下層にかけて、土師質土器（皿）を中心に多数の遺物が出土し

ている。ロームブロックの存在から人為堆積と考えられる。

遺物 土師器（高台付坏1片），土師質土器片（皿168片・内耳鍋2片），瀬戸陶器片（花瓶2片・盤1片），常滑陶器片（甕2片），陶器片（播鉢1片）が出土している。皿片はほとんど丸底皿片である。

所見 出土遺物から13～14世紀と思われる。



第78図 第3号井戸実測・出土遺物実測図

第3号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第78図 1	皿 土師質土器	A 11.0	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面，体部内面，底部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 鈍い橙色，普通	P 25 100% 覆土
		B 2.7				
2	皿 土師質土器	A 10.5	丸底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面，体部内面，底部内面ナデ。	砂粒・雲母 スコリア 鈍い橙色，良好	P 26 100% 覆土
		B 2.6				
3	皿 土師質土器	A 11.0	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面，体部内面，底部内面ナデ。	砂粒・雲母 スコリア 浅黄色，普通	P 27 100% 覆土
		B 2.9				
4	皿 土師質土器	A 11.0	丸底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。底部外面が凹凸で造りが雑。	口縁部内・外面，体部内面，底部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 灰褐色，普通	P 28 100% 覆土
		B 3.2				
5	皿 土師質土器	A 11.1	口縁部微小欠損。丸底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面，体部内面，底部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 橙色，普通	P 29 99% 覆土
		B 2.7				
6	皿 土師質土器	A 11.0	口縁部一部欠損。丸底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面，体部内面，底部内面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母・スコリア 灰褐色，普通	P 30 90% 覆土
		B 3.6				
7	皿 土師質土器	A 10.5	底部外面剝離欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面，体部内面，底部内面ナデ。	砂粒・長石・石英 スコリア 灰黄色，普通	P 31 80% 覆土
		B 3.0				
8	皿 土師質土器	A 9.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面，体部内面，底部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 鈍い黄褐色，普通	P 32 90% 覆土
		B 2.7				
9	皿 土師質土器	A 11.1	丸底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面，体部内面，底部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 淡橙色，普通	P 33 100% 内面全体厚く褐色物附着，覆土
		B 2.2				
10	皿 土師質土器	A 10.9	丸底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面，体部内面，底部内面ナデ。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	P 34 100% 内外面厚く褐色物附着，覆土
		B 3.1				
11	皿 土師質土器	A 7.1	丸底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面，体部内面，底部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 鈍い橙色，普通	P 35 100% 覆土
		B 2.0				
12	皿 土師質土器	A 7.4	丸底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面，体部内面，底部内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 スコリア 浅黄色，普通	P 36 100% 覆土
		B 2.0				
13	皿 土師質土器	A 7.4	丸底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。体部外面部分的に肥厚している。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 鈍い橙色，普通	P 37 100% 覆土
		B 2.2				
14	皿 土師質土器	A 7.5	丸底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。体部外面部分的に肥厚している。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 灰褐色，普通	P 38 100% 内外面厚く褐色物附着，覆土
		B 2.3				
15	皿 土師質土器	A 7.5	丸底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。体部外面部分的に肥厚して瘤状に膨らむ。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 灰白色，普通	P 39 100% 覆土
		B 2.4				
16	皿 土師質土器	A 7.7	丸底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面，体部内面，底部内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 スコリア 浅黄褐色，普通	P 40 100% 覆土
		B 2.0				
17	皿 土師質土器	A 7.9	丸底。口縁部一部欠損。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 浅黄褐色，普通	P 41 90% 覆土
		B 2.0				
18	皿 土師質土器	A 7.8	丸底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。口縁部の平面形が卵形にゆがむ。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母・スコリア 淡橙色，普通	P 42 100% 覆土
		B 1.9				
19	皿 土師質土器	A 9.8	丸底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部はナデ調整のために垂直方向に立ち上がる。	口縁部外面，体部内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 スコリア 鈍い黄褐色，普通	P 43 98% 口縁部煤附着 覆土
		B 2.8				
20	盤 陶器	B(6.1) C(18.2)	底部から体部片。体部は器肉を薄くしながら浅い角度で直線的に外傾する。底部，体部下位両方に掛かって獣足が付けられる。	水挽き成形後底部内面へラ削り。体部内外面に灰釉が施されている。底部回転糸切り。	灰白色 (釉)灰白色 普通	P 44 10% 瀬戸産 覆土
		A 10.9	頸部から口縁部片。頸部は外反しながら厚みを増して立ち上がり、口縁部上端に至って垂直に立ち上がる。	水挽きロクロ成形。口縁部・頸部内面にロクロ目を残す。釉は外面に均等に施されている。	灰褐色 (釉)暗オリーブ色 普通	P 45 5% 口縁部に煤附着 瀬戸産，覆土
22	壺 陶器	B(16.7)	体部片。やや張った肩部からわずかに内彎しながら下に続いている。	肩部上端に輪積み痕。体部外面はへらを斜めに用いて調整している。肩上部に自然釉の灰黄褐色斑が散布。	灰褐色 (釉)灰黄褐色 普通	P 46 5% 常滑産 覆土

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第78図 23	瓶子 陶器	B(9.0)	体部片。体部はわずかに内彎する。 体部外面に3本+aの沈線が巡る。	体部内面は縦方向に雑なヘラナデ。 外面は釉流れが見られ、部分的に釉 が剥離。	灰褐色 (釉)オリーブ灰色 普通	P 47 5% 瀬戸産 覆土

#### 第4号井戸（第79図）（旧第24号土坑）

位置 調査区の北側，B3e<sub>2</sub>区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.16m，短径0.92mの不整楕円形で，深さは1.10mである。

長径方向 N-13°-W。

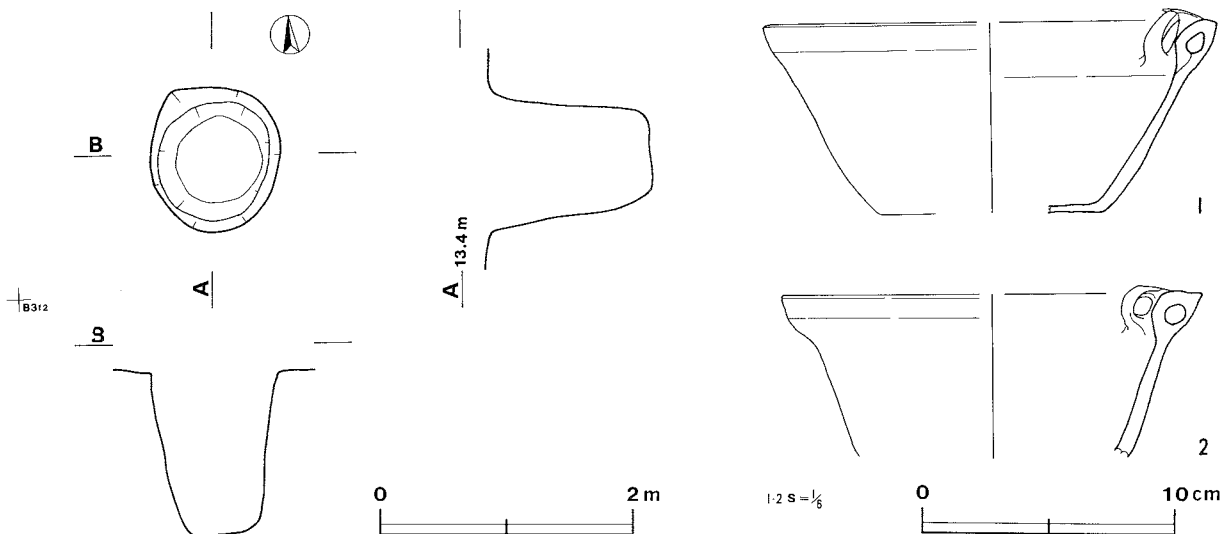
壁面 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 粘土層を掘り抜き礫層まで達する。堆積土層は黒色土で自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿11片・内耳鍋5片）が出土している。皿11片は丸底皿片。

所見 時期は不明である。



第79図 第4号井戸実測・出土遺物実測図

#### 第4号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第79図 1	内耳鍋 土師質土器	A[36.0] B 15.2 C[18.0]	底部から口縁部片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。耳が3つ付くと思われる。口縁部下位内面（耳下付け根上端）を段が巡る。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母 鈍い赤褐色 普通	P 53 40% 外面全体煤付着 覆土
2	内耳鍋 土師質土器	A 33.4 B 15.2	体部，口縁部片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。耳が3つ付くと思われる。口縁部下位内面（耳下付け根上端）を段が巡る。耳の下付け根外面に指頭圧痕が8cmほどの間隔で一周する。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母 黒褐色 普通	P 54 20% 外面全体煤付着 覆土

#### 第5号井戸（第80図）（旧第29号土坑）

位置 調査区の北側，B3f<sub>1</sub>区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.24m，短径1.12mの円形で，深さは1.66mである。



長径方向 N-11°-E。

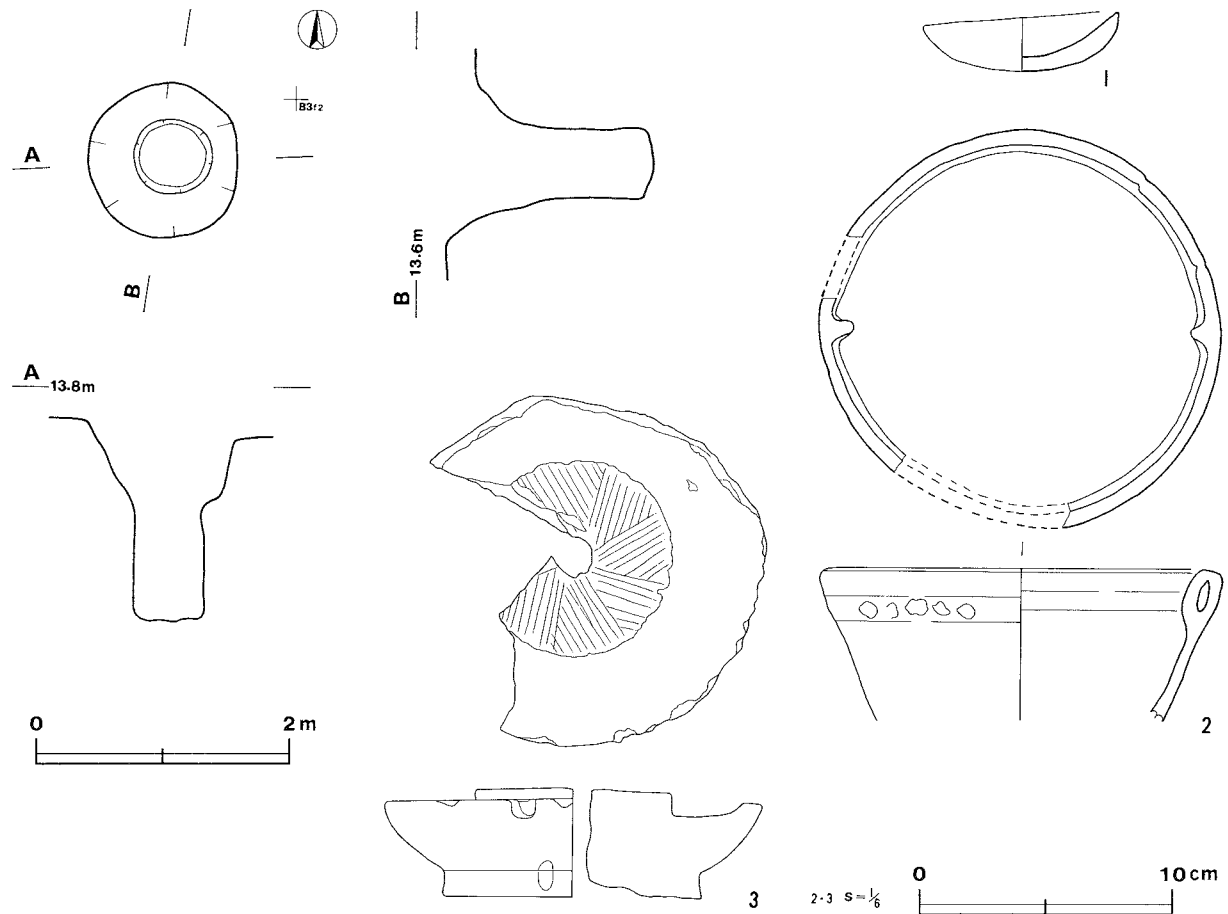
壁面 床面から1 mほど垂直に立ち上がり、それより上はわずかに外傾して立ち上がる。

底面 ほほ平坦である。

覆土 粘土層を掘り抜き礫層に達する。堆積土層は黒色土で自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片(皿31片・内耳鍋19片・甕2片)、石臼片(1片)、椀片(1片)が出土している。皿片はほとんど丸底皿片である。

所見 時期は不明である。



第80図 第5号井戸実測・出土遺物実測図

第5号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第80図 1	皿 土師質土器	A 7.7 B 2.5	丸底。体部、口縁部は緩やかに内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P 56 100% 覆土下層
2	内耳鍋 土師質土器	A [32.0] B (12.1)	底部欠損。耳2つ。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口縁部内面(耳付け根下端)に一周する段をもつ。耳付け根下端の高さで、外面を指頭圧痕が一周する。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母 鈍い赤褐色 普通	P 57 65% 体部外面煤付着 覆土下層

図版番号	器種	石質	計測値		整理番号	出土層位	備考
			直径(cm)	高さ(cm)			
第80図3	茶臼・下臼	砂岩	28.0	8.6	Q 1	覆土上層	上面に櫛目状の溝。

第6号井戸（第81図）（旧第31号土坑）

位置 調査区の北側，B2d区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.88m，短径1.60mのほぼ円形で，深さは1.78mである。

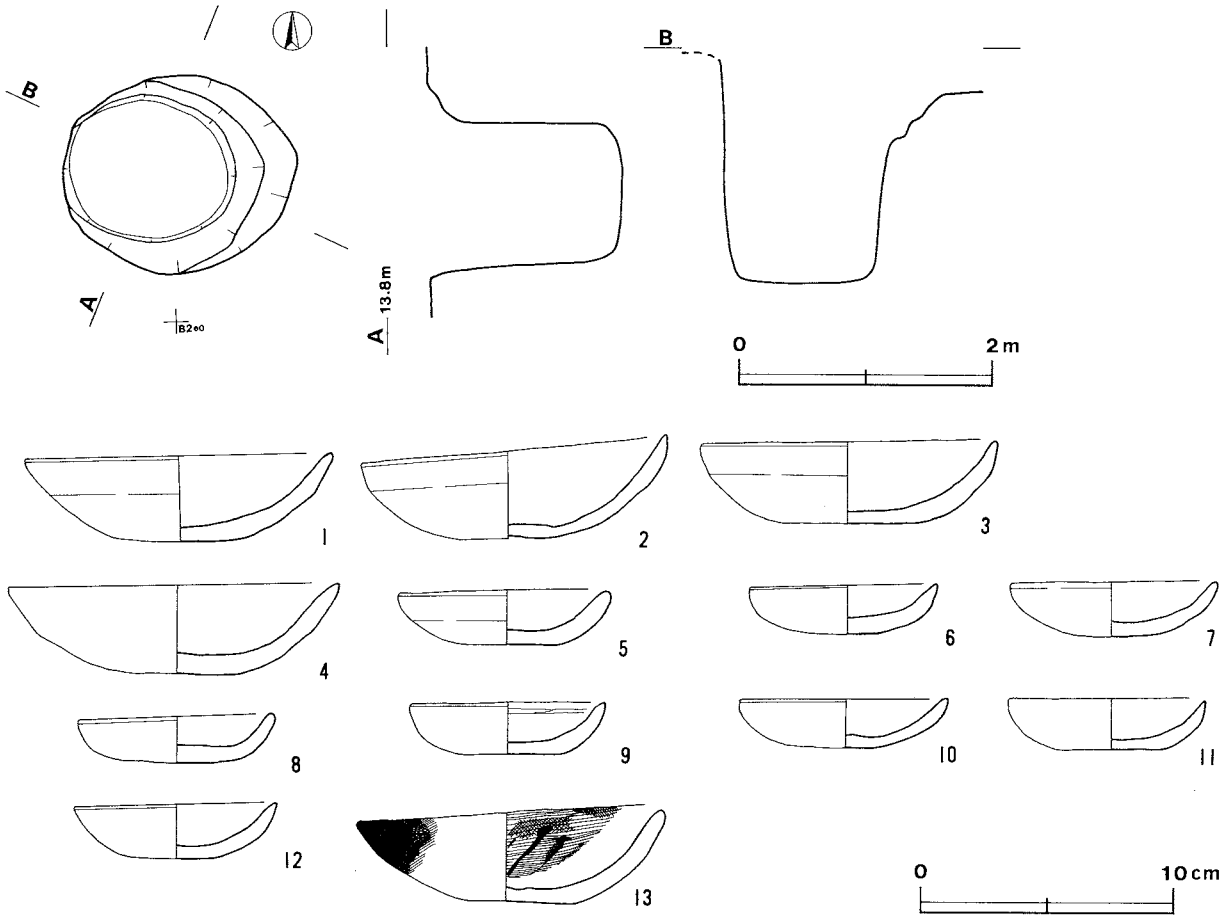
長径方向 N-8°-W。

壁面 垂直に立ち上がる。 底面 平坦である。

覆土 粘土層を掘り抜き礫層に達する。堆積土層は黒褐色土で自然堆積と考えられる。

遺物 覆土下層から土師質土器片（皿82片），常滑陶器片（甕1片），瀬戸陶器片（碗2片）が出土している。皿82片はほとんど丸底皿片である。

所見 出土遺物から13～14世紀と考えられる。南西側に付随すると思われるピットをもつ。



第81図 第6号井戸実測・出土遺物実測図

第6号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第81図 1	皿 土師質土器	A 12.0 B 3.5	丸底。体部は緩やかに内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面，体部内面，底部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 橙色，良好	P 58 100% 床面
2	皿 土師質土器	A 12.5 B 4.2	丸底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面，体部内面，底部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 橙色，良好	P 59 100% 床面
3	皿 土師質土器	A 11.8 B 3.3	丸底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面，体部内面，底部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 橙色，普通	P 60 100% 床面
4	皿 土師質土器	A 13.1 B 3.7	口縁部一部欠損。体部は緩やかに内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面，体部内面ナデ。	石英雲母 スコリア 橙色，普通	P 61 95% 覆土

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	皿 土師質土器	A 8.5 B 2.2	丸底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。口縁部の一部がわずかに片口状になる。	内面全体、口縁部外面ナデ。底部外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P 62 100% 床面
6	皿 土師質土器	A 7.5 B 2.0	丸底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面、体部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色、普通	P 63 100% 覆土
7	皿 土師質土器	A 8.4 B 2.3	丸底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面、体部内面、底部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 鈍い橙色、普通	P 64 100% 覆土
8	皿 土師質土器	A 7.8 B 2.0	丸底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。底部内面はわずかに膨らむ。	口縁部、体部内・外面ナデ。	長石・雲母 スコリア 明赤褐色、普通	P 65 100% 覆土
9	皿 土師質土器	A 8.0 B 2.2	丸底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面、体部内面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母 鈍い橙色、普通	P 66 100% 覆土
10	皿 土師質土器	A 8.2 B 2.0	丸底。口縁部平面形は卵形。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面、体部内面ナデ。底部内面ヘラナデ。	石英・スコリア パミス 橙色、普通	P 67 99% 覆土
11	皿 土師質土器	A 7.8 B 2.1	口縁部一部欠損。丸底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面、体部内面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母 明褐色、普通	P 68 95% 覆土
12	皿 土師質土器	A 8.1 B 2.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面、体部内面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母 橙色、普通	P 69 95% 覆土
13	皿 土師質土器	A 12.3 B 3.8	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面、体部内面ナデ。	砂粒・長石・石英 雲母 橙色、普通	P 70 100% 体部、口縁部煤付着、覆土

### 第7号井戸（第82図）（旧第32号土坑）

位置 調査区の北側、B2f9区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.65m、短径1.10mの不定形で、深さは1.35mである。

長径方向 N-17°-W。

壁面 垂直に立ち上がる。

底面 ほほ平坦である。

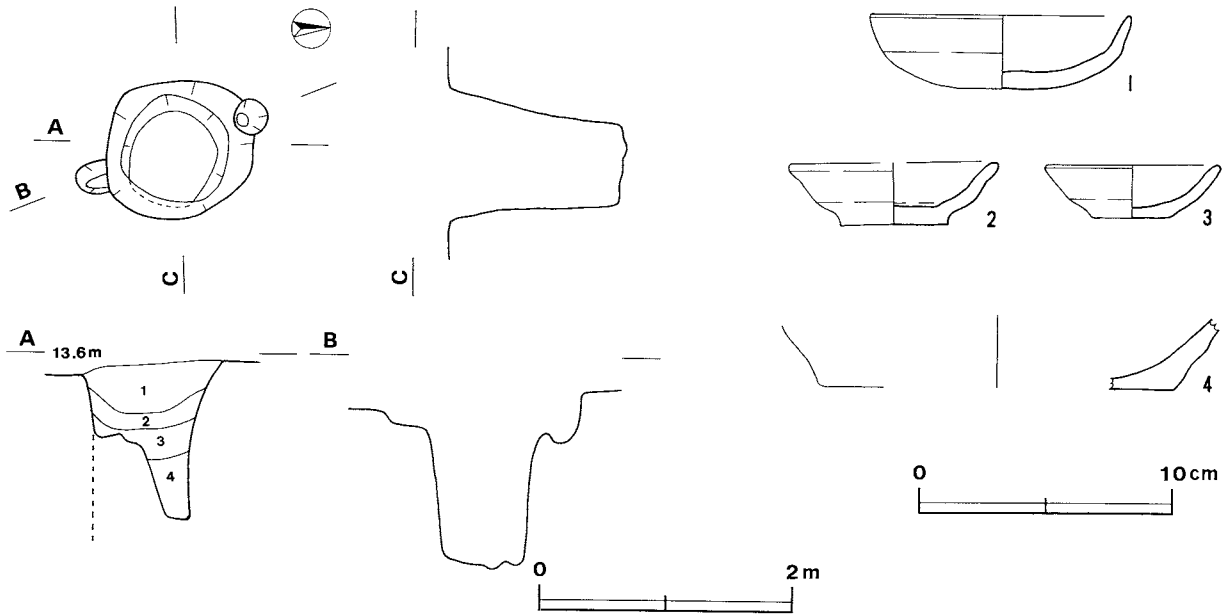
覆土 礫層まで掘り込まれていて、4層から成る。第1層はローム粒子少量、ローム小ブロック少量、炭化粒子含む黒褐色土層である。第2層はローム粒子中量、ローム小・大ブロック中量、炭化粒子微量含む暗褐色土層である。第3層はローム粒子少量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量、炭化物微量含む黒褐色土層である。第4層はローム小・大ブロック中量、炭化物微量含む暗褐色土層である。人為堆積と考えられる。

遺物 覆土中層から土師質土器片（皿17片・内耳鍋23片・播鉢1片）が出土している。丸底・平底皿片混入。

所見 時期は不明である。南西側に付随のものと思われるピットをもつ。第6号井戸とよく似た形状をもつ。

### 第7号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	皿 土師質土器	A 10.5 B 3.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・雲母 スコリア 鈍い橙色、普通	P 71 97% 覆土
2	皿 土師質土器	A 8.3 B 2.5 C 4.3	底部から口縁部片。底部は平底でやや突出する。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り後ナデ。	砂粒・長石・雲母 灰黄褐色 普通	P 72 60% 覆土上層
3	皿 土師質土器	A 7.9 B 2.1 C 3.1	底部から口縁部片。平底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 スコリア 鈍い橙色、普通	P 73 60% 覆土上層
4	播鉢 土師質土器	B(2.9) C(14.0)	底部から体部片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。	体部内面には1本単位の櫛目が施されている。	砂粒・長石・雲母 鈍い橙色、普通	P 74 5% 覆土上層



第82図 第7号井戸実測・出土遺物実測図

第8号井戸（第83図）（旧第33号土坑）

位置 調査区の北側，B2e0区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.44m，短径0.90mの不定形で，深さは1.68mである。

長径方向 N-14°-W。

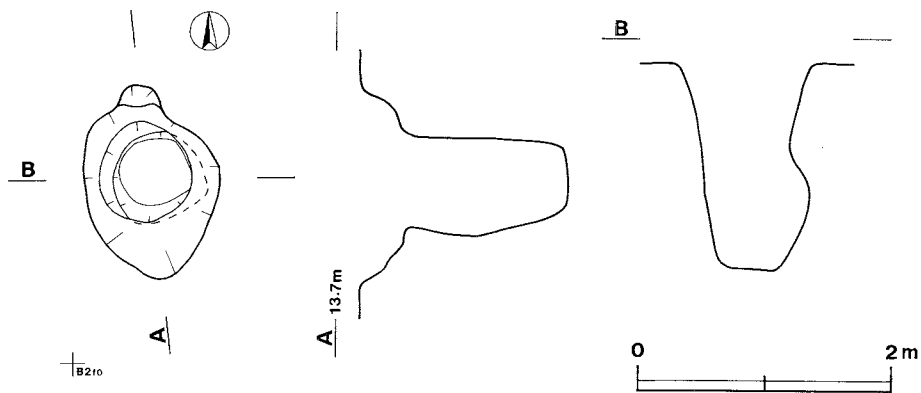
壁面 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 粘土層を掘り抜き礫層まで達している。黒褐色土の堆積土で自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿6片）が出土している。皿6片は丸底皿片。

所見 出土遺物から13～14世紀と考えられる。



第83図 第8号井戸実測図

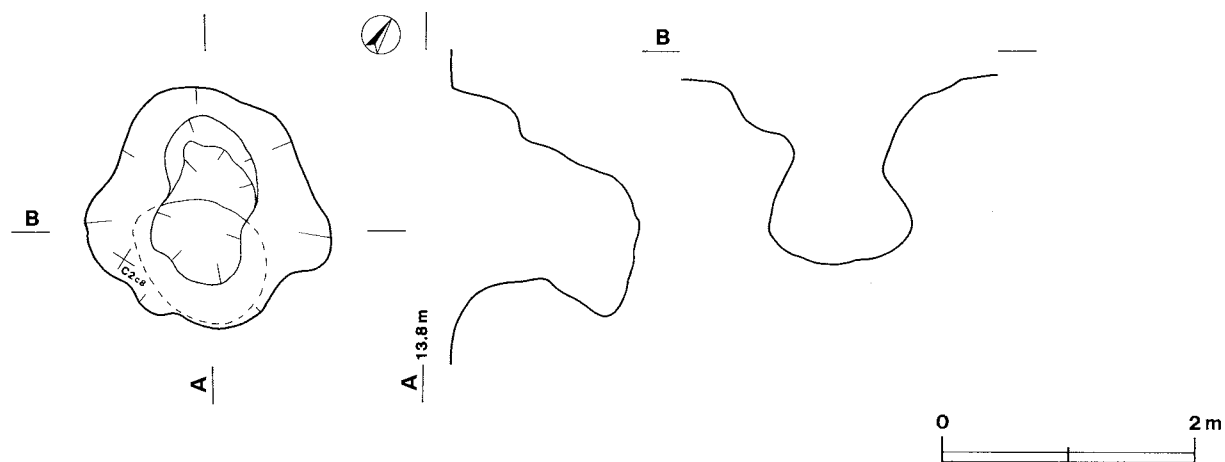
第9号井戸（第84図）（旧第62号土坑）

位置 調査区の中央部，C2b8区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.96m，短径1.60mの不定形で，深さは1.50mである。

長径方向 N-67°-E。

**壁面** 床面から内彎してフラスコ状に立ち上がり、70cmほどの所から外傾する。 **底面** 凹状である。  
**覆土** 粘土層を掘り抜いて礫層まで達している。黒色土の堆積土で自然堆積と考えられる。  
**遺物** 覆土から土師質土器片（皿7片，内耳鍋10片），古銭片（判読不能）が出土している。皿7片は丸底皿片。  
**所見** 時期は不明である。



第84図 第9号井戸実測図

**第10号井戸**（第85図）（旧第65号土坑）

**位置** 調査区の中央部，C2b区を中心に確認。

**規模と平面形** 長径1.70m，短径1.30mの楕円形で，深さは1.15mである。

**長径方向** N-90°-E。

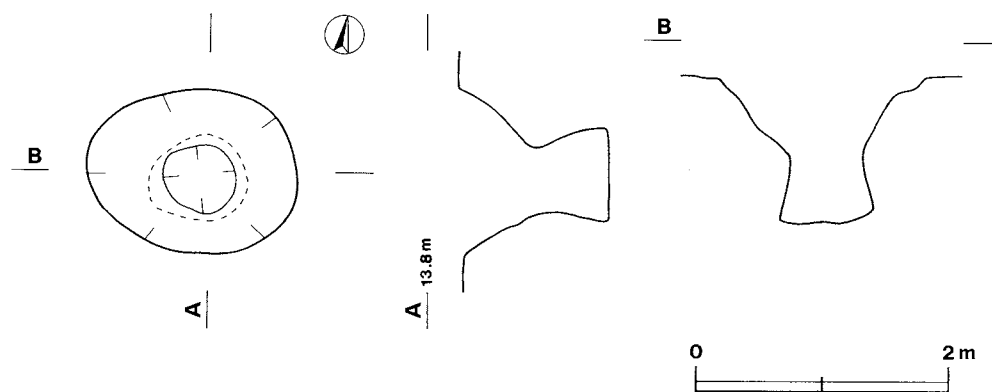
**壁面** 床面から内傾して立ち上がり，50cmほどの所から直線的に外傾する。

**底面** 平坦である。

**覆土** 覆土中層から9個の石が集中して出土している。ロームブロックの混入の状況から，下層は自然堆積で上層は人為堆積と考えられる。

**遺物** 土師器片（高台付坏1片），土師質土器片（皿2片・内耳鍋9片・播鉢4片）が出土している。上層から20cm大の礫が集合して出土している。

**所見** 出土遺物から15世紀と思われる。



第85図 第10号井戸実測図

**第11号井戸**（第86図）（旧第101号土坑）

位置 調査区の南側，B3f1区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.18m，短径1.00mのほぼ円形で，深さは1.66mである。

長径方向 N-83°-E。

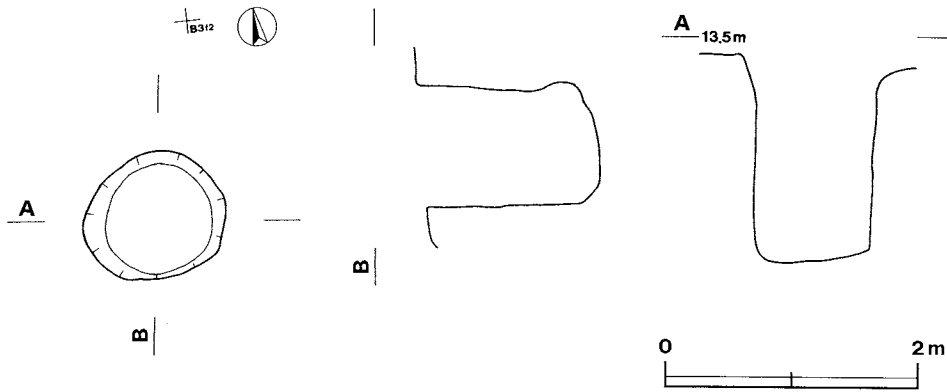
壁面 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 粘土層を掘り抜き礫層まで達している。堆積土は黒褐色土で自然堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（内耳鍋1片，甕2片）が出土している。

所見 遺物から15世紀と思われる。



第86図 第11号井戸実測図

**第12号井戸**（第87図）（旧第102号土坑）

位置 調査区の南側，D2d3区を中心に確認。

規模と平面形 長径2.00m，短径1.60mの楕円形で，深さは1.45mである。

長径方向 N-32°-W。

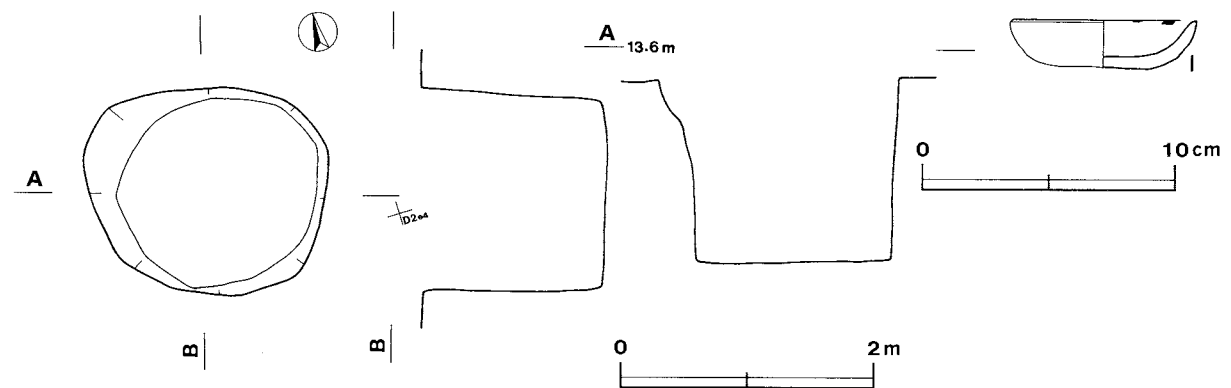
壁面 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 粘土層を掘り抜いて礫層まで達している。堆積土は黒褐色土で自然堆積と考えられる。

遺物 土師質土器片（皿10片），常滑陶器片（甕底部片1片）が出土している。皿10片は丸底皿片。

所見 出土遺物から13～14世紀と思われる。



第87図 第12号井戸実測・出土遺物実測図

第12号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第87図 1	皿 土師質土器	A 7.2 B 2.0	口縁部一部欠損。丸底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	底部内面、体部内面、口縁部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 スコリア 鈍い橙色、普通	P 102 98% 口縁部煤付着 覆土上層

第13号井戸（第88図）（旧第106号土坑）

位置 調査区の南側，D2e1区を中心に確認。

規模と平面形 長径1.70m，短径1.00mの不整楕円形で，深さは1.30mである。

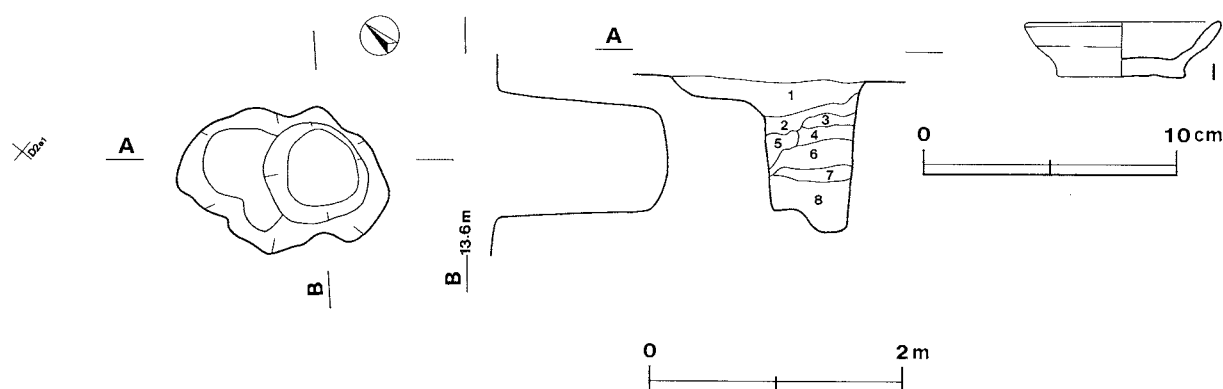
長径方向 N-38°-W。

壁面 垂直に立ち上がる。 底面 平坦である。

覆土 礫層まで掘り込まれていて8層から成る。第1層はローム粒子少量，ローム中・大ブロック中量，炭化粒子微量含む暗褐色土層である。第2層はローム大ブロック中量，粘土大ブロック少量含む灰褐色土層である。第3層はローム粒子微量，ローム大ブロック微量，炭化粒子微量含む黒色土層である。第4層はローム小ブロック微量，炭化物中量含む黒褐色土層である。第5層はローム大ブロック中量，炭化物少量，粘土大ブロック少量含む灰褐色土層である。第6層はローム粒子微量，ローム大ブロック微量，炭化物中量含む黒褐色土層である。第7層はローム小ブロック微量，炭化物少量含む黒色土層である。第8層はローム粒子少量，炭化物少量含む黒色土層である。ロームブロックの存在から人為堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿4片）が出土している。中層から40cm大の石が1つ出土している。皿4片は平底皿片。

所見 時期は不明である。



第88図 第13号井戸実測・出土遺物実測図

第13号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第88図 1	皿 土師質土器	A 7.7 B 2.3 C 5.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。底部は突出気味。器高が部分により異なる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 スコリア 橙色 普通	P 104 70% 覆土

第14号井戸（第89図）（旧第125号土坑）

位置 調査区の南側，D2g2区を中心に確認。遺構東側が調査区境界線にかかる。

規模と平面形 長径1.86m，短径1.06mの半円形（確認状況）で，深さは1.80mである。

長径方向 N-6°-E。

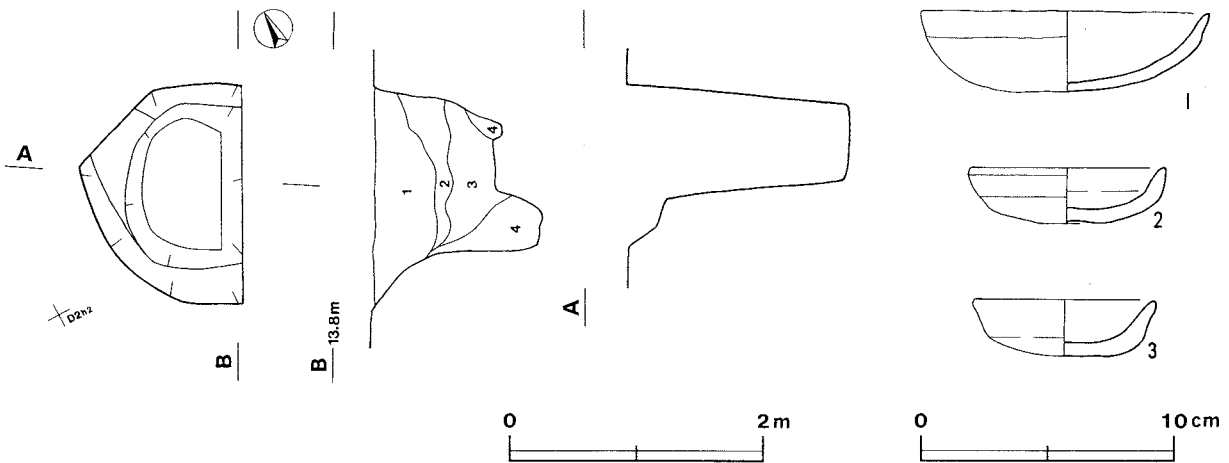
壁面 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 礫層まで掘り込まれていて4層から成る。第1層はローム粒子少量，ローム小ブロック微量，炭化物微量含む褐灰色土層である。第2層はローム小・中ブロック少量，ローム大ブロック微量，炭化物微量，粘土粒子少量含む暗褐色土層である。第3層はローム粒子微量，ローム小・中ブロック微量，炭化物微量含む黒色土層である。第4層はローム中ブロック少量，灰色の粘土を多量に含む黒褐色土層である。ロームブロックの存在から人為堆積と考えられる。

遺物 覆土から土師質土器片（皿7片・内耳鍋1片・不明1片），木片（3片）が出土している。

所見 時期は不明である。



第89図 第14号井戸実測・出土遺物実測図

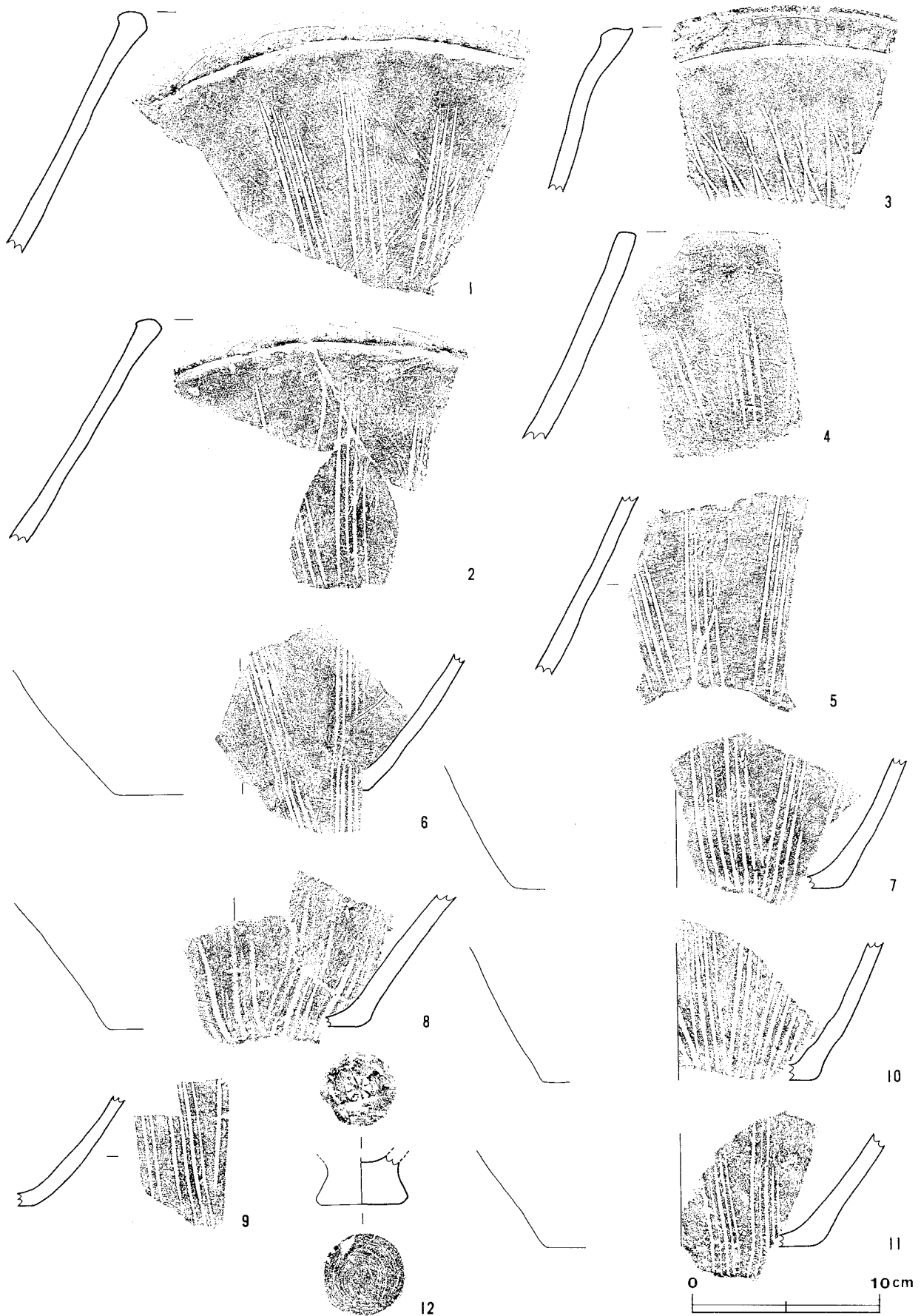
第14号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第89図 1	皿 土師質土器	A 11.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。口縁部平面形卵形。	口縁部内・外面，体部内面ナデ。	砂粒・雲母 スコリア 淡橙色，普通	P 109 95% 覆土中層
		B 3.5				
2	皿 土師質土器	A 7.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面，体部内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 スコリア 鈍い橙色，普通	P 110 99% 覆土
		B 2.3				
3	皿 土師質土器	A 7.2	口縁部一部欠損。丸底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面，体部内面ナデ。	砂粒・雲母 スコリア 橙色，普通	P 109 95% 覆土中層
		B 3.5				

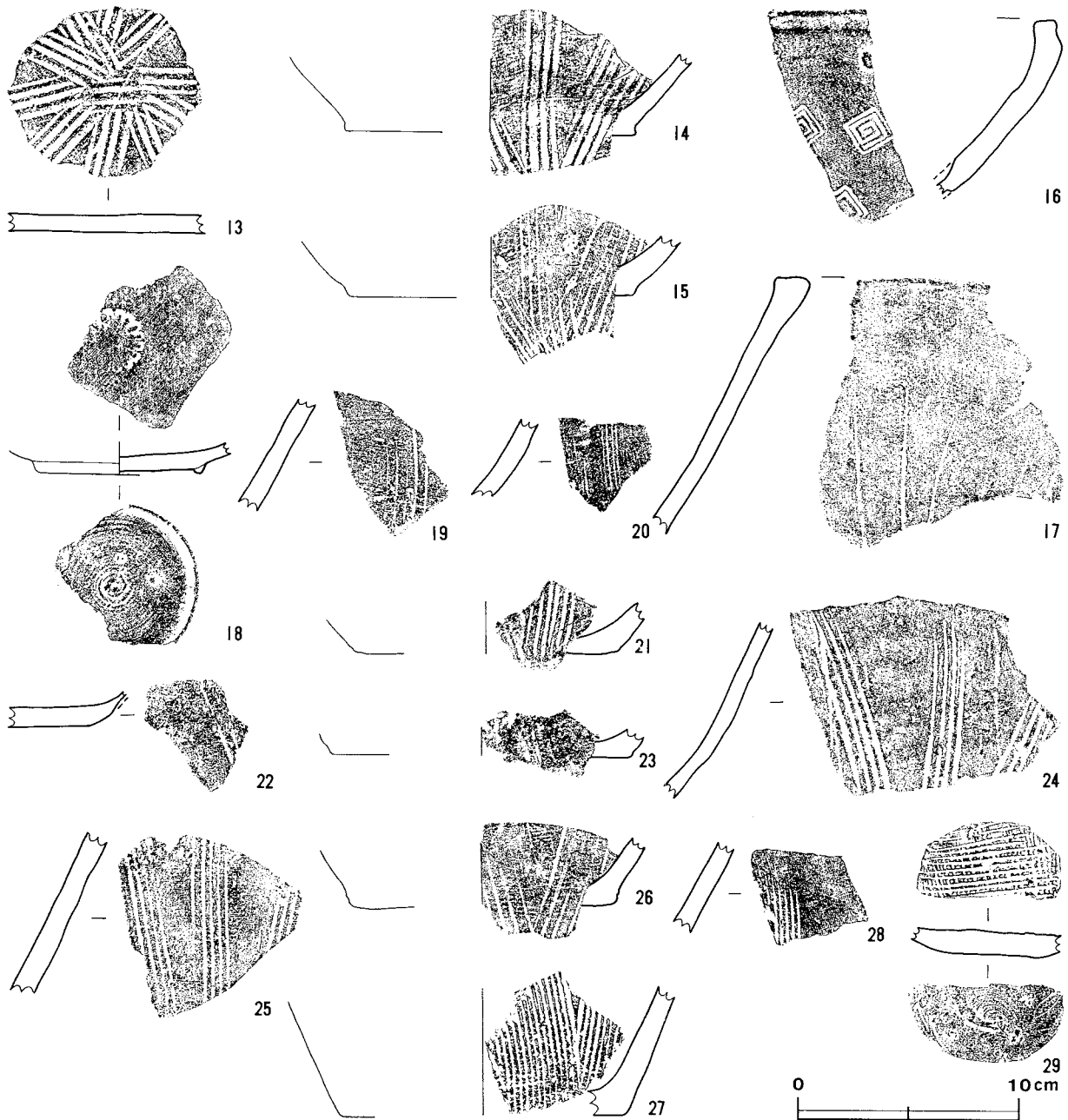
## 8 拓影図

以下に拓本資料を掲載する。第90・91図図版番号1～18は第1号溝出土で，1～11・13～15・17は播鉢，12は土師質土器の高台付坏，16は火鉢，18は瀬戸産の折縁深皿，19～29は第2号溝出土で19～28は播鉢，29は卸皿である。





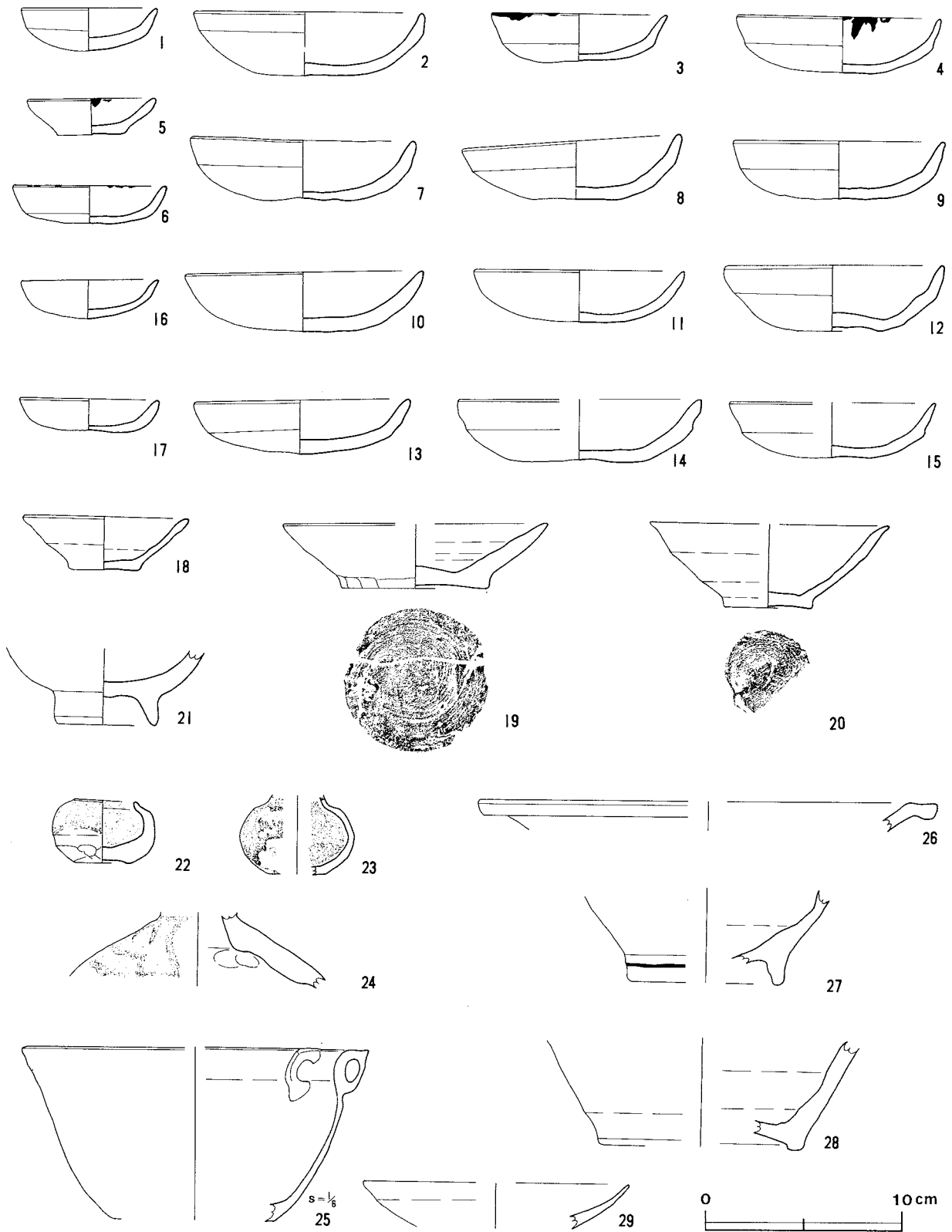
第90図 その他の出土遺物拓影図(1)



第91図 その他の出土遺物拓影図(1)

### 9 遺構外遺物

以下に表採資料を掲載する。第92図図版番号1～4・6～17は土師質土器の丸底皿，5・18～20は平底皿，21は唐津産丸碗，22・23は瀬戸産の小壺，24は壺，25は土師質土器の内耳鍋，26は瀬戸産の折縁深皿，27は肥前産の碗，28は中国明代の白磁の鉢，29は白磁の皿である。



第92図 遺構外出土遺物実測図

## 第4節 まとめ

小泉館跡の今回の調査で、遺構と遺物及び時期について明らかになったことをまとめてみたい。

小泉館跡の今回の調査では堀3条、溝3条、掘立柱建物跡4棟、柵列2列、土坑111基、井戸14基、地下式塋2基が確認されている。遺物は、土師質土器（皿・播鉢・内耳鍋・火鉢・香炉）、陶磁器（灰釉・青磁・白磁・天目・染付）、木器、石製品（石臼・硯）、古銭等が出土している。遺物の大半は土師質土器の皿と内耳鍋である。その内、土師質土器の皿は土坑と堀から多量に出土しているが、その皿の形は違った様相を見せている。土坑から出土する皿は、非ロクロ成形の丸底タイプが主体で、堀から出土するのは底部に回転糸切り痕がある平底のものが大部分であるという点である。さらに、多量に出土した内耳鍋片は、その大部分が堀からのものである。国立歴史民族博物館の浅野晴樹氏の編年によると、非ロクロ成形の土師質皿の終末が、一般的には13世紀末までだが、「（常陸においては）14世紀段階まで継続する可能性があるように思われる」とされ、内耳鍋については、屋代B遺跡出土の内耳鍋をひいて常陸型とし、「この鍋も15世紀中頃を主体とするものと推測される」としている。ここで示された常陸型の内耳鍋の器の特徴は、「雲母混じりの胎土で、われ口は赤褐色の土師質のもの」としており、小泉館跡出土の内耳鍋とも一致する。この非ロクロ成形土師質皿と内耳鍋に関する浅野氏の編年をよりどころに、小泉館跡遺跡の時期区分を次のようにとらえた。

遺構の時期については、出土遺物から次のⅣ期に分けることができる。

### Ⅰ期 平安時代

小泉館の発掘調査で、第36号土坑下層から、内面が黒色処理され底部から体部内面にかけて縦位のヘラ磨き調整が加えられた高台付坏が出土し、第76号土坑の床面からは、内面黒色処理された土師器の高台付坏底部片と小型壺が出土している。これらは、ともに平安時代の遺物と考えられる。つくば市による調査でも、館の中心と予想された地区（Ⅰ曲輪）について、「土師器、須恵器などの出土も見られた。」とあることから、平安時代から、規模は不明としても、この周辺が生活の場として利用されていたことが窺える。

### Ⅱ期 13世紀～14世紀—土坑群が形成された時期—

今回の調査では、土坑については111基を調査した。この内、遺物が伴ったのは48基である。また、井戸についても14基を調査して、全部から遺物が出土している。これらの土坑と井戸の中で、丸底の皿のみが出土している土坑・井戸が39基ある。覆土上層に内耳鍋片などが流れ込んでおり、時期をはっきり特定することは困難であるが、土師質の丸底皿が使用されていた時期と考えられる。

### Ⅲ期 14世紀—丸底と平底の土師質土器の皿が併用された時期—

調査された土坑8基、井戸1基からは丸底の非ロクロ土師質皿と底部に回転糸切り痕を残す平底の土師質皿とが出土している。量的にはどちらかに偏っている場合が多い。

### Ⅳ期 15世紀—第1号堀が完成し、館が廃絶されるまで—

第1号堀からは多くの遺物が出土している。特に多いのは底部に回転糸切り痕を残す土師質皿と内耳鍋である。内耳鍋は、平底で体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は耳の取り付けか所がバルブ状に膨らみ、3耳が普通で、耳の下の付け根には指で強く押さえた圧痕が残っている。常陸型のスタイルで、これが多量に出土することから15世紀と考えられる。非ロクロ成形の丸底土師質皿に比べ、底部に回転糸切り痕のついた土師質皿が圧倒的に増えることを考えてもⅢ期に続く時期と考えられる。

さらに、堀からは15世紀に比定される、瀬戸産を中心とする陶器片も出土している。瀬戸灰釉の縁釉小皿、盤、折縁深皿、小壺、茶入小壺、平碗、水注、華瓶、卸皿など、いずれも古瀬戸後期15世紀のものである。

小泉館跡は、伝承により15世紀末をもってその館が廃絶されたことが知られている。遺跡周辺は平安時代から人が生活し、13世紀から14世紀にかけて中堀の内側に当たるか所に土坑群が形成され、15世紀になって土坑群の一部をこわしながら内堀の外側に新たに中堀が掘られたものと考えられる。中堀には館の廃絶に際して、沢山の物が投棄された様子が窺える。

#### 参考文献

- (1) 浅野晴樹 「東国における中世在地系土器について—主に関東を中心にして—」  
『国立歴史民族博物館研究報告第31集』 国立歴史民族博物館 1991年3月
- (2) 茨城県つくば市教育委員会 『小泉館跡—発掘調査概報—』 1989年3月
- (3) 茨城県教育財団 『屋代B遺跡Ⅰ』 茨城県教育財団文化財調査報告第33集 1986年3月
- (4) 茨城県教育財団 『屋代B遺跡Ⅱ』 茨城県教育財団文化財調査報告第40集 1987年3月
- (5) 茨城県教育財団 『屋代B遺跡Ⅲ』 茨城県教育財団文化財調査報告第45集 1988年3月

# 写 真 图 版

小泉館跡遺跡



小泉館跡遺跡全景

PL 2



第1号堀完掘状況



第1号堀遺物出土状況



第1号堀木杭出土状況



第1号堀木杭出土状況



第1号堀木杭出土状況



第2号堀完掘状況



第3号堀完掘状況





第1号溝遺物出土状況



第1号溝完掘状況



第1号掘立柱建物跡確認状況



第4号掘立柱建物跡確認状況



第19号土坑



第22号土坑



第23号土坑



第26号土坑

PL 4



第34号土坑



第36号土坑



第41号土坑



第45号土坑



第47号土坑



第52号土坑



第59号土坑



第60号土坑



第67号土坑



第70号土坑



第86号土坑



第92号土坑



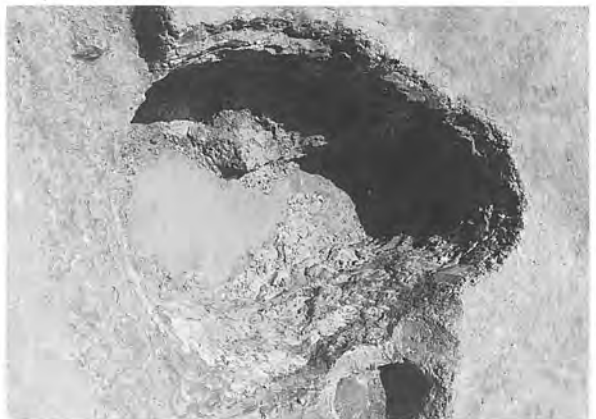
第99号土坑



第100号土坑



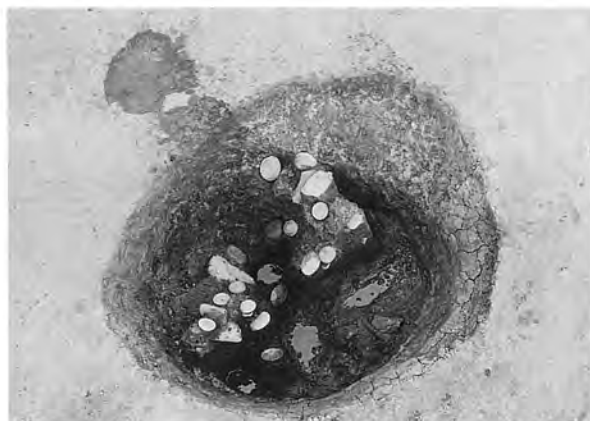
第101号土坑



第1号地下式壙



第2号井戸



第3号井戸



第3号井戸



第6号井戸



第7号井戸



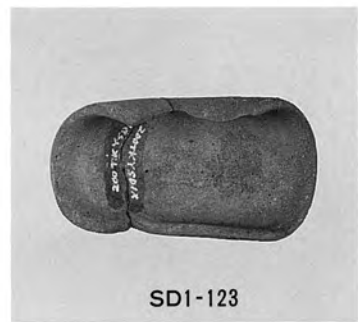
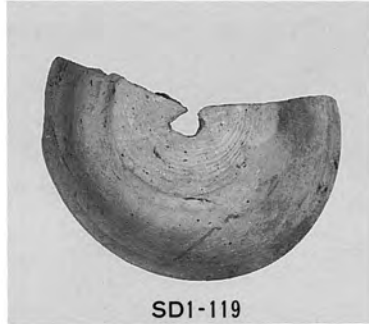
第8号井戸



第9号井戸



第14号井戸



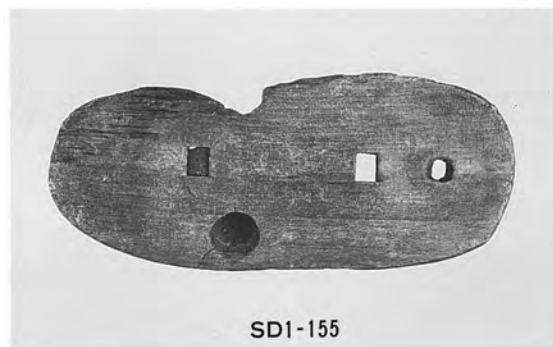
第1号堀(SD1)出土遺物



第1号掘(SD1)出土遺物



SD1-154



SD1-155



SD1-154



SD1-155



SD1-153



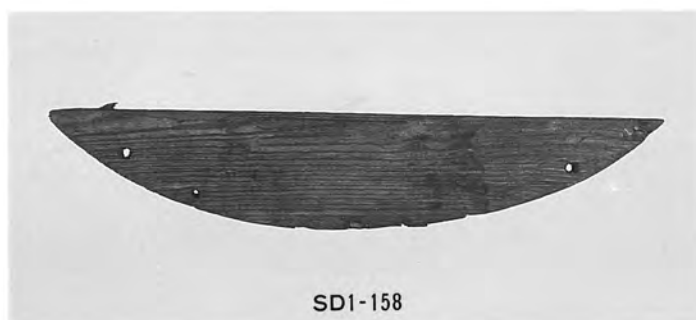
SD1-159



SD1-153



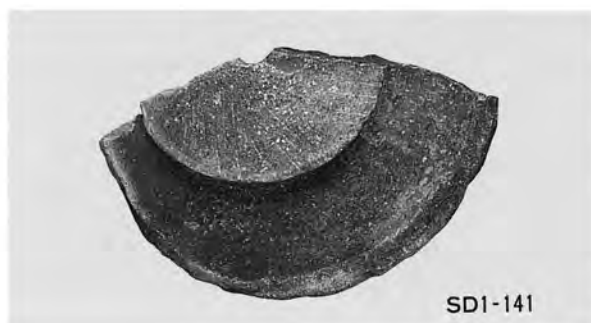
SD1-149



SD1-158



SD1-149



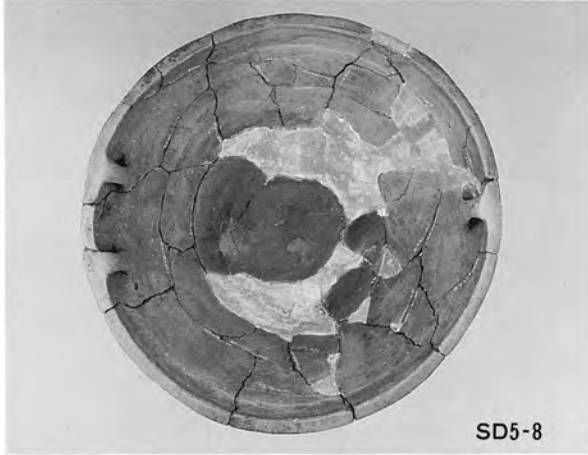




SD5-1



SD5-16



SD5-8



SD5-8



SD5-6



SD5-22



SD5-19



SD5-26



SD5-18



SD5-11

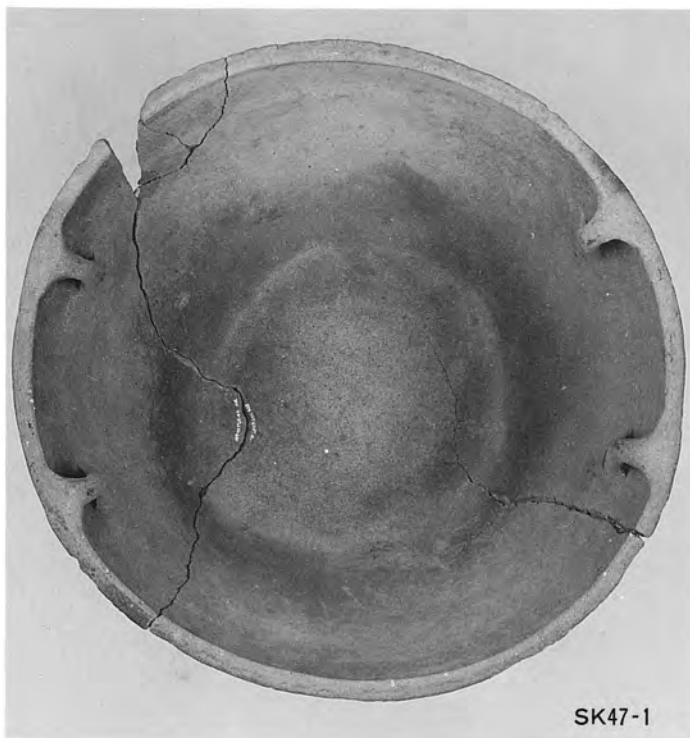


SD6-3



SD6-15

第1号溝(SD5)・第2号溝(SD6)出土遺物





SK51-1



SK57-1



SK59-2



SK76-1



SK76-3



SK100-1



SK122-1



SK126-1



第2号地下式壙-4



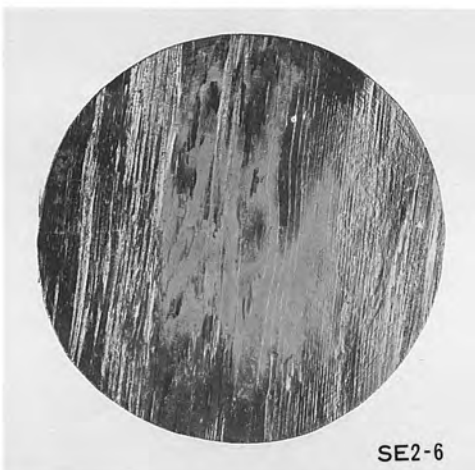
第2号地下式壙-3



SE1-2



SE2-8



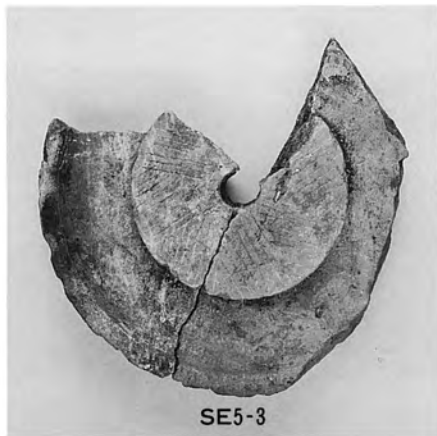
SE2-6



SE2-7



SE2-5



茨城県教育財団文化財調査報告第97集  
一般県道長高野筑波線道路改良  
工事地内埋蔵文化財調査報告書

小 泉 館 跡

平成7（1995）年3月25日印刷

平成7（1995）年3月31日発行

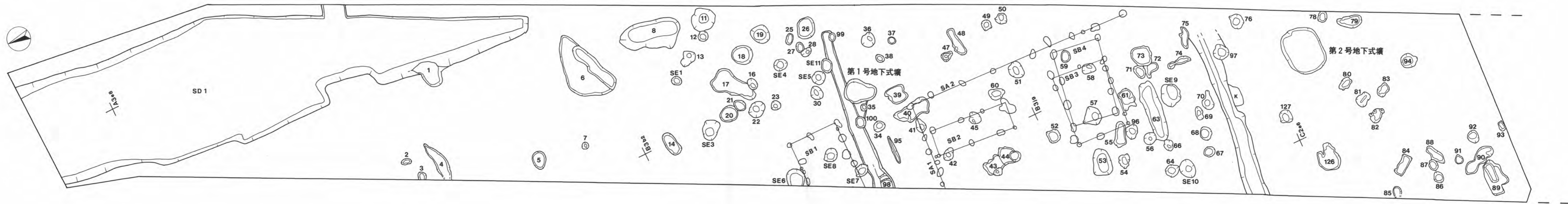
発行 財団法人 茨城県教育財団  
水戸市見和1丁目356番地の2  
T E L 0292-25-6587

印刷 富士オフセット印刷株式会社  
水戸市根本3丁目1534-2  
T E L 0292-31-4242(代)

付 図

茨城県教育財団文化財調査報告第97集

小泉館跡



付図 I 小泉館跡遺跡全体図  
 (※番号のみは土杭)

